

## **Dynamic Converter**

管理ガイド

10g リリース 3 (10.1.3.3.1)

部品番号 : E05633-01

2007 年 11 月

Dynamic Converter 管理ガイド, 10g リリース 3 (10.1.3.3.1)

部品番号 : E05633-01

原本名 : Dynamic Converter Administration Guide, 10g Release 3 (10.1.3.3.1)

原本部品番号 : A00050-01

原本協力者 : Ron van de Crommert

Copyright © 2007 Oracle. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありま。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

# 目次

## 第 1 章：はじめに

Dynamic Converter について	1-1
新機能	1-2
Dynamic Converter の基本概念	1-3
Dynamic Converter プロセス	1-4
事前変換	1-5
強制変換	1-6
フラグメントのみの変換	1-6
キャッシュおよび問合せ	1-7
タイムスタンプのキャッシュ	1-7
メタデータの変更	1-8
タイムスタンプ確認頻度	1-8
特殊変換	1-9
HTML フォームの HTML への変換	1-9
XML から HTML への変換	1-10
画像としてのパラグラフのレンダリング	1-11
Content Server での Dynamic Converter インタフェース	1-11
「Dynamic Converter Admin」リンク	1-12
「Dynamic Converter Admin」ページ	1-13

## 第 2 章：Dynamic Converter の構成

「Dynamic Converter Configuration」ページ	2-1
一般の変換設定	2-2
UNIX の構成設定	2-5
GUI テンプレート変換の構成設定	2-6
スクリプト・テンプレート変換の構成設定	2-8
変換およびキャッシュの最適化	2-9
デフォルトの GUI テンプレートおよびレイアウト・テンプレートの設定	2-10

変換形式の設定 .....	2-10
動的変換用のファイル形式の追加 .....	2-11
動的変換からのファイル形式の削除 .....	2-11
PowerPoint プレゼンテーション用スライドショー・テンプレート・ ファイルの構成 .....	2-12
ワイヤレス・テンプレートの削除 .....	2-14
Dynamic Converter の使用前 .....	2-16

### 第 3 章：テンプレート・ルール

テンプレート・ルールの概要 .....	3-1
「Template Selection Rules」 ページ .....	3-2
テンプレート・ルールの管理 .....	3-7
ルールの追加 .....	3-7
ルールの削除 .....	3-7
ルールの並替え .....	3-8
ルールへのメタデータ基準の割当て .....	3-8
ルールのテンプレートの選択 .....	3-9

### 第 4 章：変換テンプレート

概要 .....	4-1
テンプレートの概要 .....	4-2
テンプレート・タイプ .....	4-2
テンプレートの方針 .....	4-3
テンプレート・チェックイン・フォーム .....	4-4
テンプレートのチェックイン .....	4-5

### 第 5 章：GUI テンプレート

GUI テンプレートの概要 .....	5-1
テンプレート・エディタ .....	5-2
テンプレートの要素 .....	5-3
サンプル GUI テンプレート .....	5-5
Academy .....	5-6
Acclaim CSS .....	5-6
Account .....	5-7
Adagio CSS .....	5-7
Administration .....	5-8

Analysis	5-8
Archive CSS	5-9
Blank	5-9
Business	5-10
Ceremonial	5-10
Courtesy	5-11
Executive	5-11
Introduction CSS	5-12
Lotus 1-2-3	5-12
Lotus Freelance	5-13
MS Excel	5-13
MS PowerPoint	5-14
Purple Frost	5-14
Retrofied! CSS	5-15
ワイヤレス GUI テンプレート	5-15
新規の GUI テンプレート・フォーム	5-16
「Edit Templates」 ページ	5-17
新規 GUI テンプレートの作成	5-17
既存の GUI テンプレートの編集	5-18
ワイヤレス GUI テンプレートの設計	5-19
スクリプト・テンプレートから GUI テンプレートへの移行	5-20
旧テンプレートの更新	5-21
(6.0 より前のリリースから) 新規に変換されたテンプレートの サンプル	5-23

## 第 6 章：レイアウト・テンプレート

レイアウト・テンプレートの概要	6-1
レイアウト・テンプレートのコンテンツ	6-3
レイアウト・テンプレート内のトークン	6-3
サンプル・レイアウト・テンプレート	6-4
default_layout.txt	6-4
snippet_layout.txt	6-5
コンテンツ・アイテム用のレイアウト・テンプレートの作成	6-7
レイアウト・テンプレートのテンプレート・ルールとの関連付け	6-7
デフォルト・レイアウト・テンプレートの指定	6-8
レイアウト・テンプレートへのスクリプト、イメージおよび CSS の 組込み	6-9

## 第7章：スクリプト・テンプレート

概要	7-1
スクリプト・テンプレートの概要	7-2
要素	7-3
要素ツリー	7-3
リーフ要素	7-5
反復可能要素	7-5
要素の定義	7-5
索引	7-14
索引変数キーワード	7-14
整数	7-14
Current、Next、Previous、First および Last	7-15
Up、Down、Left および Right	7-16
プレゼンテーションでのスライドごとの HTML ファイル・セットの作成	7-17
マクロ	7-17
マクロの概要	7-18
単位：{## UNIT}、{## HEADER} および {## FOOTER}	7-19
要素の挿入：{## INSERT}	7-20
条件：{## IF...}、{## ELSEIF...} および {## ELSE}	7-27
ループ：{## REPEAT}	7-29
構造化ブレイクとのリンク：{## LINK}	7-30
コンテンツ・サイズ・ブレイクとのリンク：{## ANCHOR}	7-34
出力ファイルに挿入するコメント：{## IGNORE}	7-36
出力ファイルに挿入しないコメント：{## COMMENT}	7-37
その他テンプレートの組込み：{## INCLUDE}	7-37
テンプレート内でのオプションの設定：{## OPTION}	7-38
ファイルのコピー：{## COPY}	7-44
プラグマ	7-46
Pragma.Charset	7-46
Pragma.CSSFile	7-46
Pragma.EmbeddedCSS	7-47
Pragma.JsFile	7-47
Pragma.SourceFileName	7-48
サンプル・スクリプト・テンプレート	7-48
Basic	7-49
Elements	7-50
Plain	7-50
SimpleToc	7-52
Slideshow、Slideshowb および Slideshowc	7-54
Textout	7-58

スクリプト・テンプレートの書式設定オプションの設定 .....	7-61
変換済画像に使用される形式の変更 .....	7-62
リストのプレートと番号の生成 .....	7-62
構造によるドキュメントの分割 .....	7-63
コンテンツ・サイズによるドキュメントの分割 .....	7-66
サイズ分割のサンプル・テンプレート .....	7-67
{## UNIT} マクロのないテンプレート .....	7-69
索引とサイズベースの分割 .....	7-69
スプレッドシートおよびデータベース・ファイルをナビゲートするため のグリッドの使用 .....	7-69

## 第 8 章：HTML スニペット

概要 .....	8-1
HTML スニペットの概要 .....	8-1
ポータルスタイルの Web サイトのサンプル .....	8-2
Web ページへの HTML スニペットの統合 .....	8-3
HTML のスニペットの生成 .....	8-3
Idoc Script 関数を使用した HTML スニペットの組込み .....	8-4
インライン動的変換 .....	8-5
Web ページ上でのコンテンツ・サーバー・メタデータの表示 .....	8-6

## 第 9 章：変換済コンテンツの操作

概要 .....	9-1
コンテンツ情報の表示 .....	9-1
変換済ファイルの表示 .....	9-5
「Search Results」ページ .....	9-5
「Content Information」ページ .....	9-6
チェックイン前のドキュメントのプレビュー .....	9-7

## 第 10 章：実装の考慮事項

マルチバイト文字のメタデータ・フィールド .....	10-2
UNIX での PDF ファイルの変換 .....	10-2
UNIX 上の埋込み画像 .....	10-3
ベクターおよびラスター画像形式の使用 .....	10-3
UNIX でのベクター画像とスプレッドシート・テキストの変換 .....	10-3
URL のリライト .....	10-4

テンプレートおよびレイアウト・ファイル内の相対 URL .....	10-5
ブラウザのキャッシュ .....	10-6
イメージのサイズ設定ルール .....	10-7
CSS の考慮事項 .....	10-7
Dynamic Converter で使用されるスタイル名 .....	10-8
Dynamic Converter のスタイルのオーバーライド .....	10-9
Pragma.CSSFile と {## LINK} .....	10-9
適格な HTML .....	10-10
位置フレームのサポート .....	10-10
テンプレート作成のヒント .....	10-11

## 付録 A: 変換フィルタ

アプリケーション・フィルタ .....	A-1
画像フィルタ .....	A-9

## 付録 B: 入力ファイル形式

ワード・プロセッシング形式 .....	B-1
デスクトップ・パブリッシング形式 .....	B-5
データベース形式 .....	B-5
スプレッドシート形式 .....	B-6
プレゼンテーション形式 .....	B-7
画像形式 .....	B-8
圧縮形式 .....	B-11
電子メール形式 .....	B-11
その他の形式 .....	B-13

## 付録 C: Elements スクリプト・テンプレート

Elements スクリプト・テンプレート .....	C-1
-----------------------------	-----

## 付録 D: Office 2007 の考慮事項

すべての Office アプリケーション .....	D-1
Word 2007 .....	D-2
Excel 2007 .....	D-3
PowerPoint 2007 .....	D-3



サポートされないオブジェクトの例 .....	D-4
------------------------	-----

## 付録 E: サード・パーティ・ライセンス

概要 .....	E-1
Apache Software License .....	E-1
W3C® Software Notice and License .....	E-2
Zlib License .....	E-4
一般的な BSD ライセンス .....	E-4
一般的な MIT ライセンス .....	E-5
Unicode ライセンス .....	E-6
その他の帰属 .....	E-7

## 索引



# 1

## はじめに

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [Dynamic Converter について](#) (1-1 ページ)
- ❖ [新機能](#) (1-2 ページ)
- ❖ [Dynamic Converter の基本概念](#) (1-3 ページ)
- ❖ [Dynamic Converter プロセス](#) (1-4 ページ)
- ❖ [事前変換](#) (1-5 ページ)
- ❖ [強制変換](#) (1-6 ページ)
- ❖ [フラグメントのみの変換](#) (1-6 ページ)
- ❖ [キャッシュおよび問合せ](#) (1-7 ページ)
- ❖ [特殊変換](#) (1-9 ページ)
- ❖ [Content Server での Dynamic Converter インタフェース](#) (1-11 ページ)

## DYNAMIC CONVERTER について

---

Dynamic Converter は、業界で認められた重大なビジネス・ドキュメント用の変換テクノロジーおよびオンデマンドの公開ソリューションを提供します。Dynamic Converter を使用すると、どんなビジネス・ドキュメントでも、ドキュメントの作成に使用されたアプリケーションがなくても誰でも閲覧できるように、簡単に Web ページに変換できます。その利点は直接的なものであり、独自アプリケーションのボトルネックなしに自由に情報を交換できます。

Web ブラウザでまずドキュメントをリクエストすると、そのドキュメントを Web ページとしてどのように表示するかを決定するために一連のルールが適用されます。これらのルールは、Dynamic Converter のコア・コンポーネントであるテンプレートで定義できます。

Dynamic Converter には、ユーザーにとっていくつかの重要な利点があります。

- ❖ ビジネス・ドキュメントを Web ブラウザで簡単に表示できます。
- ❖ ネイティブ・アプリケーション（Adobe Acrobat、Microsoft Word など）が不要です。
- ❖ 異なるデバイス（Web ブラウザ、ワイヤレス・デバイスなど）用に、ドキュメントの複数レンディションが可能です。
- ❖ テンプレートには Content Publisher との互換性があります。
- ❖ レガシー形式を含めた多くのタイプのビジネス・ドキュメントがサポートされています。

コンテンツ・サーバー内のソース・ドキュメントの HTML レンディションを表示するには、Content Server の検索結果ページおよびコンテンツ情報ページに表示される HTML リンクを使用します。

## 新機能

---

Dynamic Converter 10g リリース 3 には、次のような新機能や強化された機能があります（リリース 7.5 との比較）。

- ❖ **Content Server 10g リリース 3 との互換性:** このバージョンの Dynamic Converter は、Content Server 10g リリース 3 とシームレスに連携するように設計されています。
- ❖ **更新された変換フィルタ:** このバージョンの Dynamic Converter には、Microsoft Office 2007 アプリケーションを処理できる更新された変換フィルタがあります。Office 2007 に関連した変換のいくつかの考慮事項については、[付録 D「Office 2007 の考慮事項」](#)を参照してください。
- ❖ **他のプラットフォームでの画像テンプレートのサポート:** このバージョンの Dynamic Converter では、次の新しいプラットフォームの画像テンプレートを選択し、プレビューできます。
  - IBM AIX 5L バージョン 5.2 または 5.3
  - HP-UX 11i v2
  - Oracle Enterprise Linux 4
  - Sun Solaris 10
  - SuSe Linux Enterprise Server 10
- ❖ **改善されたインストールと構成:** このバージョンの Dynamic Converter では、カスタム・インストール用の構成可能な設定が増えました。詳細は、2-1 ページの[「Dynamic Converter Configuration」ページ](#)を参照してください。

- ❖ **強化された URL 制御**: Dynamic Converter では、すべてのハイパーリンクやイメージ・ソース・リンク (src) を `dcUrl()` Idoc Script 拡張関数でラップするようになりました。外部の統合テクノロジー (CIS など) では、これらを使用して、必要に応じて処理するために URL を処理および操作できます。詳細は、10-4 ページの「[URL のリライト](#)」を参照してください。  
さらに、サービス呼出し URL を使用して、Web レイアウト変換キャッシュ内のファイルの場所ではなく、変換済ドキュメント内のハイパーリンクのターゲットを参照するように、Dynamic Converter を構成できるようになりました (2-6 ページを参照)。

## DYNAMIC CONVERTER の基本概念

---

Dynamic Converter に関しては、次の概念が重要です。

### 開発者

Dynamic Converter を別のテクノロジーやアプリケーションに統合する人です。

### ソース・ファイル

開発者が Web ページに変換しようとするドキュメント、スプレッドシート、プレゼンテーションまたはその他の情報です (ソース・ドキュメントやコンテンツ・アイテムともいう)。

### 出力ファイル

ソース・ファイルから作成されるファイルです (Web 表示可能形式ともいう)。

### 出力ファイル (複数)

ソース・ファイルからレンダリングされる出力 (Web ページ) を構成するファイルの完全なセットです。

### テンプレート

変換の一貫した最終結果を得るために、ドキュメントに適用される構造化されたフォームです。

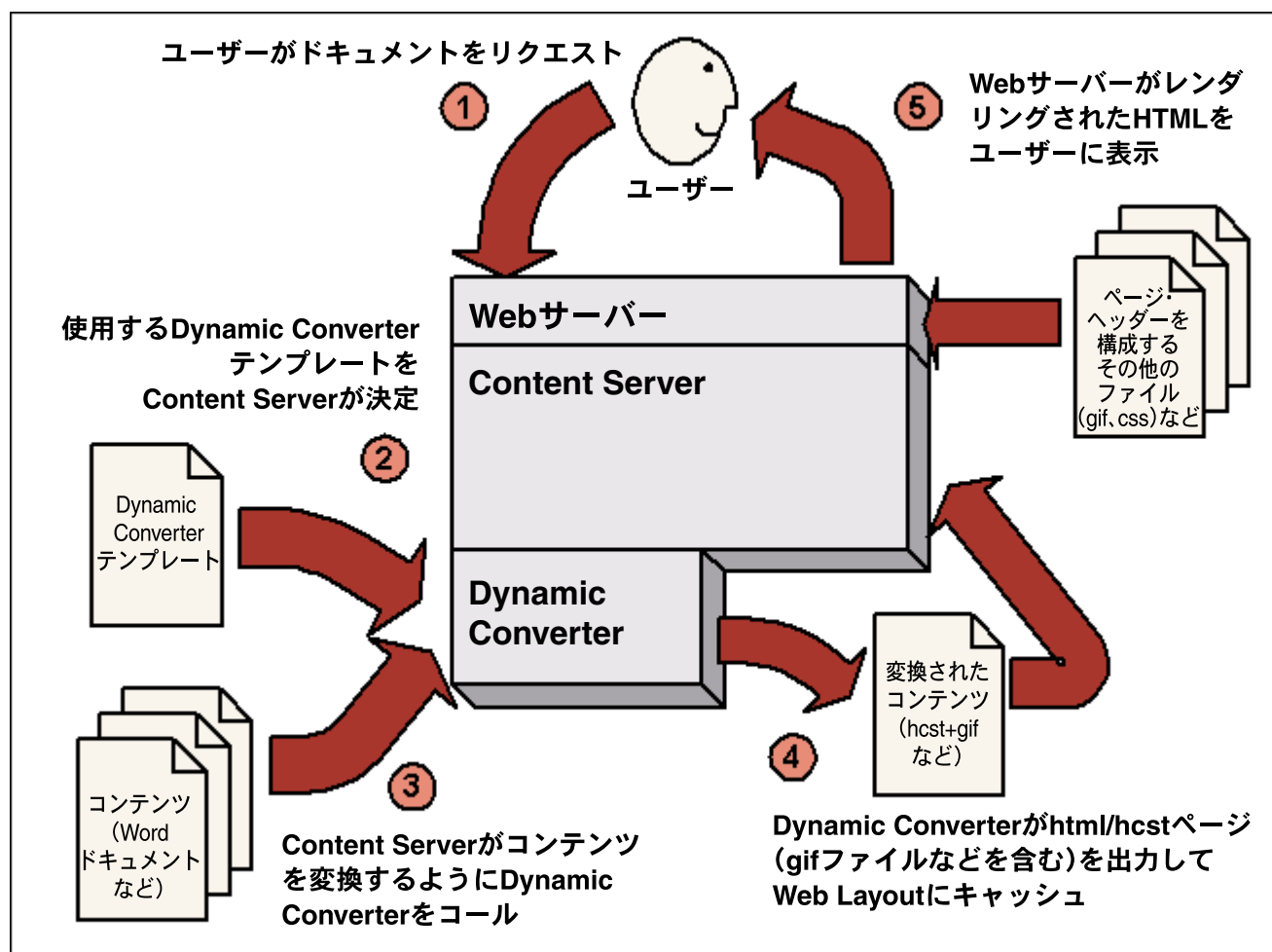
### テンプレート・ルール

ドキュメントにテンプレートを適用するために使用される構造で、ユーザーの設定により制御されます。

## DYNAMIC CONVERTER プロセス

図 1-1 は、基本的な Dynamic Converter プロセスを示しています。

図 1-1 基本的な Dynamic Converter プロセス



プロセスは、次の 5 つの手順で構成されています。

1. ユーザーが、Web ブラウザを介してコンテンツ・アイテムをリクエストします。
2. Web サーバーからこのリクエストが Dynamic Converter に渡され、メタデータ一致基準に基づいて、HTML 変換に使用するテンプレートが決定します。
3. Dynamic Converter でネイティブ・ファイル (Word ドキュメントや Excel スプレッドシートなど) が変換されます。

4. 変換の結果、1 つ以上の HTML ページとサポート・ファイル (GIF、JPEG など) が作成され、Dynamic Converter によって、Content Server の Web 表示可能なファイルのリポジトリ (Web Layout) の専用のキャッシュ領域に出力されます。
5. Web サーバーでは、その他のファイル (たとえば CSS ファイルや、ページのヘッダーとフッターに使用されるイメージ) を取得し、これらを Dynamic Converter で作成されたすべてのファイルとともにユーザーに提供します。



**注意:** Dynamic Converter では、キャッシュを使用して、サーバーに対する負荷を軽減し、ドキュメントが不必要に再変換されないようにします。

## 事前変換

初期の Dynamic Converter では、コンテンツ・アイテムは、ユーザーが最初にリクエストしたとき、つまり、ユーザーが検索結果またはコンテンツ情報ページ上のコンテンツ・アイテムの横にある「(HTML)」リンクをクリックしたときに、Web で表示可能な形式 (HTML、WML、XML など) に変換されました。コンテンツ・アイテムは一度変換されると、コンテンツ・サーバーにキャッシュされ、変換済ファイルに対するその後のリクエストは、即時に処理されました。

最近の Dynamic Converter では、ユーザーがリクエストしたときではなく、コンテンツ・アイテムがチェックインされたときに、変換ルールに一致したコンテンツ・アイテムが変換されます。その結果、ユーザーは、遅延なく動的に変換されるコンテンツ・アイテムのレンディションを即時に表示できます。

この事前変換は、Dynamic Converter で変換ルールに一致するコンテンツ・アイテムに対してのみ適用されます。ルールは、「[Template Selection Rules](#)」ページ (3-2 ページ) で指定されます。



**重要:** そのコンテンツ・アイテムにルールがない場合、デフォルトのテンプレートやレイアウト・ファイルがそのコンテンツ・アイテムに使用可能であっても、事前変換は行われません。デフォルトのテンプレートやレイアウト・ファイルは、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-1 ページ) で指定されます。

事前変換は、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-1 ページ) の「[変換およびキャッシュの最適化](#)」セクションで有効にする必要があることに注意してください。

## 強制変換

---

自身の Web サイト上で異なる目的に使用できるように、同じコンテンツ・アイテムの複数の変換を指定できます。たとえば、コンテンツ・アイテムを、ある場所では HTML コードの一部として使用し、別の場所では完全なアーティクルとして含める場合があります。これは、**Dynamic Converter** で強制変換を使用して行われます。

強制変換では、すべてのルールが評価されるルールのリストを指定できます。最初のルールが一致すると、そのルールがコンテンツ・アイテムに適用されます。次のルールが一致すると、そのルールもコンテンツ・アイテムに適用されます。このようにして、**Dynamic Converter** では、必要に応じて同じコンテンツ・アイテムの複数のレンディションを作成できます。その結果、コンテンツ・アイテムを、異なるテンプレートやレイアウト・ファイルを使用して、複数回変換できます。

テンプレート・ルールのための強制変換は、「[Template Selection Rules](#)」ページ（3-2 ページ）で有効にできます。

強制変換は、[事前変換](#)（前の項を参照）と同時に、つまりコンテンツ・アイテムがコンテンツ・サーバーにチェックインされたときに実行されます。エンド・ユーザーには、事前変換と強制変換の違いはわかりません。方法に関係なく、ユーザーが「(HTML)」リンクをクリックするまでに、コンテンツ・アイテムを変換し、キャッシュに格納するという目的は同じです。



**注意：**強制変換は、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ（2-1 ページ）の「[変換およびキャッシュの最適化](#)」セクションで、[事前変換](#)（前の項を参照）とともに有効にする必要があります。

## フラグメントのみの変換

---

[強制変換](#)（前の項を参照）の一種が、フラグメントのみの変換です。フラグメントとは、別のコンテンツ・アイテムに含まれるコンテンツの一部分です。したがって、個々のフラグメントを組み合わせてコンテンツリッチな Web ページを構成できます。フラグメントには一般に <html> または <body> タグが含まれていないため、簡単に別の Web ページに組み込むことができます。フラグメントは単独で表示するためのものではないので、「(HTML)」動的変換リンクをクリックするユーザーには表示されません。フラグメント用のルールは、ユーザー・リクエスト中に、**Dynamic Converter** のルール評価から除外する必要があります。

テンプレート・ルールのためのフラグメントのみの変換は、「[Template Selection Rules](#)」ページ（3-2 ページ）で有効にできます。

他の強制変換と同様に、フラグメントのみの変換は、コンテンツ・アイテムがコンテンツ・サーバーにチェックインされるときに事前に行われます。



# キャッシュおよび問合せ

---

Dynamic Converter には、変換およびキャッシュの方針があり、イントラネットや外部 Web サイトの全体的パフォーマンスを大幅に改善します。この機能により、Content Server では、初期のリリースよりはるかに迅速に、動的に作成された Web ページを表示できます。

変換およびキャッシュの強化はアプリケーションに組み込まれていますが、Dynamic Converter の微調整のために設定できる構成オプションもいくつかあります。

- ❖ [タイムスタンプのキャッシュ](#) (1-7 ページ)

- ❖ [メタデータの変更](#) (1-8 ページ)

- ❖ [タイムスタンプ確認頻度](#) (1-8 ページ)

これらの構成オプションはすべて、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-1 ページ) の「[変換およびキャッシュの最適化](#)」セクションで設定できます。

## タイムスタンプのキャッシュ

---

ユーザーが、[検索結果ページ](#)または[コンテンツ情報ページ](#) (第 9 章を参照) 上の「(HTML)」動的変換リンクをクリックするたびに、コンテンツ・サーバー・データベースで、ソース・ドキュメント、変換テンプレート、レイアウト・ファイル (該当する場合) の 3 つのファイルに対する問合せが行われます。データベース問合せにより、動的に変換されたファイルが最新のものであることが確認されますが、これらの問合せは、最新の変換が使用可能な場合でも実行されます。

Dynamic Converter リリース 6.2 以上では、新しいメソッドを使用して、毎回データベースに問い合わせることなく、コンテンツ・アイテムと変換テンプレートのリビジョンを検証します。かわりに、変換済コンテンツ・アイテムのタイムスタンプが、サーバーのメモリーベースのキャッシュに格納されます。その結果、以後の変換リクエストでは、データベースに問い合わせなくても、キャッシュされたこれらのタイムスタンプを変換されるコンテンツ・アイテムのタイムスタンプと比較できます。[事前変換機能](#) (1-5 ページを参照) と組み合わせると、Dynamic Converter のリビジョンおよび変換の問合せの効率は大幅に向上します。新しいリビジョンごとに新しいファイルが新しいタイムスタンプで作成されるため、キャッシュおよび問合せのメカニズムでは、タイムスタンプを使用して、コンテンツ・サーバーのコンテンツ・アイテムの新しいリビジョンを検出します。

## メタデータの変更

---

コンテンツ・アイテムの作成者またはそのユーザーがコンテンツ・アイテムにメタデータのみの変更を行った場合は、新しいファイルも新しいタイムスタンプも作成されないため、変更は検出されないままになります。この問題を解決するには、メタデータの変更がすべて確実に **Dynamic Converter** によって識別されるようにする必要があります。これには、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-9 ページを参照) で「**Reconvert when metadata is updated**」オプションを有効にします。このオプションにより、メタデータの更新後に、コンテンツ・サーバーがソース・コンテンツ・アイテムのタイムスタンプを更新します。このオプションを有効にすると、**Web** で表示可能なすべての形式のタイムスタンプは、対応するソース・コンテンツ・アイテムについて発生したメタデータの変更を反映するために更新されます。その結果、更新されたタイムスタンプは **Dynamic Converter** によって認識され、メタデータが更新されたコンテンツ・アイテムは再変換されます。

### 確認のデータベース・メソッド

コンテンツ・アイテムのメタデータが更新されたかどうかを確認するデータベース・メソッドの使用を選択できます。このオプションは、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-9 ページを参照) で設定します。この構成オプションを有効にすると、コンテンツ・アイテムの更新によって変換済ファイルでのタイムスタンプの変更が継続して示されます。しかし、新しいキャッシュおよび問合せメソッドを使用して、コンテンツ・アイテムが最新かどうかの確認は行われません。かわりに、コンテンツ・サーバー・データベースに、この情報の問合せが行われます。たとえば、最適化された問合せ機能で問題が発生した場合や、関連する問題のトラブルシューティングを行う場合に、このメソッドを使用できます。

## タイムスタンプ確認頻度

---

デフォルトでは、**Dynamic Converter** は、1,500 ミリ秒 (1.5 秒) ごとに変換されたコンテンツ・アイテムのタイムスタンプを確認します。サイトへのビジット数と実行される問合せ数のバランスをとる場合、この値を増減できます。タイムスタンプ確認頻度は、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-9 ページを参照) で変更できます。

この設定を、たとえば 1 分 (60,000 ミリ秒) に増やした場合に、新しいコンテンツ・アイテムがコンテンツ・サーバーにチェックインされると、ユーザーは 1 分が経過するまで新しいバージョンのコンテンツ・アイテムを使用できません。

## 特殊変換

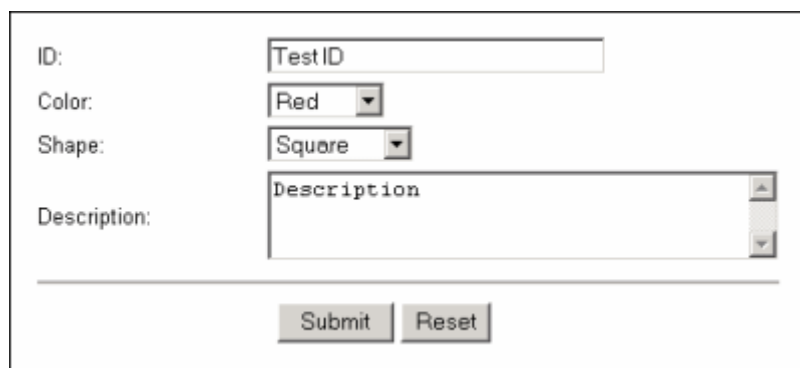
Dynamic Converter では、次の特殊変換をサポートしています。

- ❖ [HTML フォームの HTML への変換](#) (1-9 ページ)
- ❖ [XML から HTML への変換](#) (1-10 ページ)
- ❖ [画像としてのパラグラフのレンダリング](#) (1-11 ページ)

### HTML フォームの HTML への変換

Dynamic Converter では、HTML フォームの HTML への変換をサポートしています。これにより、HTML フォームで提供される情報は、臨機応変な形で提示されます。

たとえば、データ入力のために使用される HTML フォームは、次のようになります。



The screenshot shows a web form with the following elements:

- ID:** A text input field containing the value "TestID".
- Color:** A dropdown menu with "Red" selected.
- Shape:** A dropdown menu with "Square" selected.
- Description:** A text area containing the word "Description".
- Buttons:** "Submit" and "Reset" buttons at the bottom.

「Submit」ボタンをクリックして送信すると、この HTML フォームは、入力された値とともに HCSF ファイルとしてコンテンツ・サーバーに自動的にチェックインされます。ユーザーがフォーム・データを表示する場合は、次のようにテンプレートを使用して HTML フォームのデータを表示できます。

Field	Value
ID	Test ID
Color	Red
Shape	Square
Description	Description



**注意:** この HTML フォームと HTML テンプレートは、どちらもサンプルとして `[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/` ディレクトリ (`[CS_Dir]` は Content Server インスタンスのインストール・ディレクトリ) に格納されています。

## XML から HTML への変換

Dynamic Converter では、XSL ファイルを使用した XML の HTML への変換をサポートしています。XSL ファイル（拡張子 .xsl）は、Web ブラウザで XML ファイルがどのように HTML として表示されるかを定義するテンプレートです。

Dynamic Converter によって XML ファイルが正しく識別され、変換されるようにするには、次の作業が必要です。

- ❖ XSL ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。
- ❖ XML ファイルを認識するように Dynamic Converter を構成します。動的変換用のファイル形式を追加する方法については、2-11 ページの「[動的変換用のファイル形式の追加](#)」を参照してください（この場合、「Formats」テキスト・ボックスに application/xml を追加します）。
- ❖ 変換対象の XML ファイルと一致する Dynamic Converter ルールを作成し、そのルール用の変換テンプレートとして XSL ファイルを指定します。[第3章「テンプレート・ルール」](#)を参照してください。



**注意：** サンプルの XML ファイルと XSL ファイルは、`[CD_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/` ディレクトリ（`[CS_Dir]` は、Content Server のインストール・ディレクトリ）に格納されています。

XML から HTML への変換機能を使用するには、Content Server のインストール・ディレクトリの bin サブディレクトリにある intradoc.cfg ファイルに、次の行が存在する必要があります。

❖ **Microsoft Windows の場合：**

```
CLASSPATH=$COMPUTEDCLASSPATH;[CS_Dir]/shared/classes/  
xalan.jar;[CS_Dir]/shared/classes/xerces.jar
```

❖ **UNIX の場合：**

```
CLASSPATH=$COMPUTEDCLASSPATH:[CS_Dir]/shared/classes/  
xalan.jar:[CS_Dir]/shared/classes/xerces.jar
```

（`[CS_Dir]` は、Content Server インスタンスのインストール・ディレクトリです。）



**注意：** Windows および UNIX では、xalan.jar と xerces.jar のクラスパスが、Content Server のインストール時に設定されます。これを検証するために、intradoc.cfg ファイルを確認する必要があります。

## 画像としてのパラグラフのレンダリング

---

Dynamic Converter では、パラグラフを画像としてレンダリングします。この機能を使用すると、保護されたカスタム・フォントを、フォントへのパブリック・アクセスを許可することなく、ドキュメントに追加できます。

この設定は、「Template Editor: Formatting - Paragraph」にあります。Windows で Dynamic Converter を実行している場合、レンダリングに使用するフォントは、変換で使用されるものと同じフォントです。

UNIX に Dynamic Converter がインストールされている場合、変換プロセスでは異なるグループのフォントから描画されます。その場合、テンプレート・エディタで選択するフォントは、UNIX システムでも使用可能である必要があります。レンダリングを有効にするには、両方のフォントの名前がまったく同じである必要があります。GD\_Font\_Path 変数はフォント・ディレクトリを指し、そのディレクトリには少なくとも 1 つの TrueType フォント（ファイル拡張子 .ttf）が含まれている必要があります。これらの要件が満たされなければ、パラグラフを画像としてレンダリングすることはできません。



**注意:** パラグラフを画像としてレンダリングする場合、Dynamic Converter では埋込み画像はサポートされません。パラグラフ内のイメージは、文字列 [ ] に置換されます。テンプレートでは、画像を含む項で、画像としてパラグラフをレンダリングすることは避ける必要があります。

## CONTENT SERVER での DYNAMIC CONVERTER インタフェース

---

この項では、Dynamic Converter ソフトウェアをインストールした後の Content Server インタフェースへの変更について説明します。

❖ [「Dynamic Converter Admin」リンク](#) (1-12 ページ)

❖ [「Dynamic Converter Admin」ページ](#) (1-13 ページ)

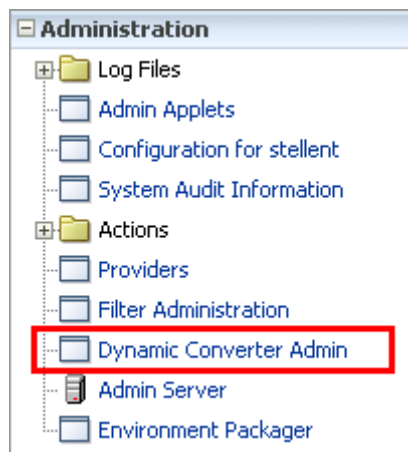


**注意:** Dynamic Converter ソフトウェアのインストールの詳細は、『Dynamic Converter インストレーション・ガイド』を参照してください。

## 「Dynamic Converter Admin」 リンク

Dynamic Converter が Content Server に正常に追加された場合、「Administration」 ページおよびメニューには、「Dynamic Converter Admin」というリンクが含まれます。

図 1-2 「Administration」 トレイの「Dynamic Converter Admin」 リンク

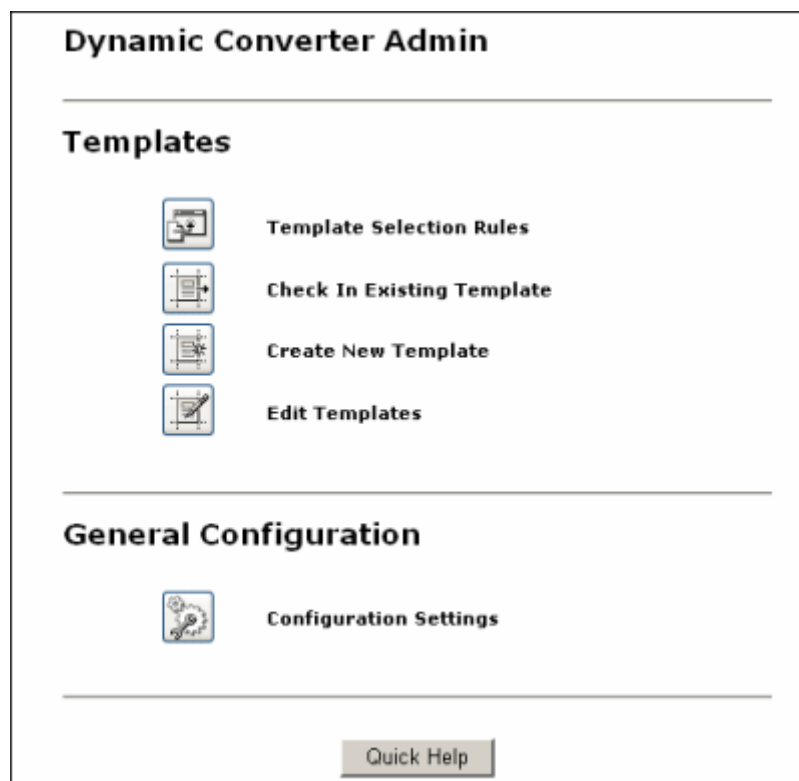


**注意：**Dynamic ConverterAdmin リンクが見つからない場合、Dynamic Converter コンポーネントが正しくインストールされていないか、有効になっていません。Dynamic Converter コンポーネントのインストール方法の詳細は、Dynamic Converter 配布パッケージ (documentation ディレクトリ) にある『Dynamic Converter インストレーション・ガイド』を参照してください。

## 「Dynamic Converter Admin」 ページ

いずれかの「[Dynamic Converter Admin](#)」 [リンク](#)（1-12 ページを参照）をクリックすると、「Dynamic Converter Admin」 ページが表示されます。

図 1-3 「Dynamic Converter Admin」 ページ



「Dynamic Converter Admin」 ページでは、次のことができます。

- ❖ [テンプレート選択ルール](#)の作成および管理（[第 3 章](#)を参照）
- ❖ [既存テンプレート](#)のチェックイン（[第 4 章](#)を参照）
- ❖ [新規 GUI テンプレート](#)の作成（[第 5 章](#)を参照）
- ❖ [既存の GUI テンプレート](#)の編集（[第 5 章](#)を参照）
- ❖ [Dynamic Converter 設定](#)の構成（[第 2 章](#)を参照）

はじめに



# 2

## DYNAMIC CONVERTER の構成

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [「Dynamic Converter Configuration」 ページ](#) (2-1 ページ)
- ❖ デフォルトの GUI テンプレートおよびレイアウト・テンプレートの設定 (2-10 ページ)
- ❖ 変換形式の設定 (2-10 ページ)
- ❖ PowerPoint プレゼンテーション用スライドショー・テンプレート・ファイルの構成 (2-12 ページ)
- ❖ ワイヤレス・テンプレートの削除 (2-14 ページ)
- ❖ Dynamic Converter の使用前 (2-16 ページ)

### 「DYNAMIC CONVERTER CONFIGURATION」 ページ

---

Dynamic Converter でのソース・ドキュメントの処理方法を決定するいくつかの構成設定があります。ソース・ドキュメント用に使用するデフォルトのテンプレート、変換するファイル・タイプ、テンプレート選択ルールでページで使用可能な基準フィールド数、およびその他の Dynamic Converter 変換オプションをいくつか指定できます。

これらの構成オプションは、「Dynamic Converter Configuration」 ページで設定します。このページには、[「Dynamic Converter Admin」 ページ](#) (1-13 ページを参照) の「Configuration Settings」をクリックしてアクセスします。

このページには次のセクションがあります。

- ❖ [一般の変換設定](#) (2-2 ページ)
- ❖ [UNIX の構成設定](#) (2-5 ページ)
- ❖ [GUI テンプレート変換の構成設定](#) (2-6 ページ)
- ❖ [スクリプト・テンプレート変換の構成設定](#) (2-8 ページ)
- ❖ [変換およびキャッシュの最適化](#) (2-9 ページ)

設定が終了したら、ページの下部にある「**Update**」ボタンをクリックして、構成の変更を適用します。「Dynamic Converter Configuration」ページで行った変更はただちに有効になり、コンテンツ・サーバーを再起動する必要はありません。

## 一般の変換設定

図 2-1 「Dynamic Converter Configuration」ページの一般設定

**Dynamic Converter Configuration**

**Default Template**  
Template that will be used if none of the other selection rules match.  
Template  Available Templates  Template Types

**Default Layout**  
Layout that will be used if none of the other selection rules match.  
Layout  Available Layouts

**Conversion Formats**  
These are the formats that are eligible for dynamic conversion. Note that only these formats will display an (HTML) conversion link on the Search Result page.

**Maximum File Size**  **Bytes**  
The maximum size of file that will be processed by Dynamic Converter.

**Time Out**  **Minutes**  
Dynamic Conversions that take longer than this amount of time will fail.

**Rule Criteria**  **Criteria per rule**  
The number of individual criteria that can be specified per template selection rule.


**Rendition**   
The rendition of a content item to be converted.

「Dynamic Converter Configuration」ページの一般設定セクションでは、デフォルトのテンプレートおよびレイアウト、サポートされる変換形式など、多くの変換設定を設定できます。

次のオプションがあります。

オプション	定義
<b>Default Template</b>	
Template	テンプレート選択ルールに該当しないソース・ドキュメントに適用されるテンプレートの名前です。デフォルトのテンプレートは、まだテンプレート選択ルールを設定中である場合に特に便利です。たとえば、デフォルトとして空白、つまり必要最低限のテンプレートを作成できます。
Available Templates	現在コンテンツ・サーバーに格納されている使用可能なすべてのテンプレートのリストです。
Template Types	様々な <a href="#">テンプレートのタイプ</a> （GUI Template、Layout Template および Script Template）のリストです。テンプレート・タイプを選択するときに、そのタイプの使用可能なテンプレートのリストが、「Available Templates」フィールドに表示されます。様々なテンプレート・タイプの詳細は、 <a href="#">4-2</a> ページを参照してください。
<b>Default Layout</b>	
Layout	テンプレート選択ルールに該当しないソース・ドキュメントに適用されるレイアウト・テンプレートの名前です。Content Server の枠線やナビゲーションを含むデフォルトのレイアウト・テンプレートを作成できます。
Available Layouts	現在コンテンツ・サーバーに格納されている使用可能なすべてのレイアウト・テンプレートのリストです。

オプション	定義
<b>Conversion Formats</b>	
Formats	<p>これらは、Dynamic Converter によって変換され、その結果、隣に「(HTML)」リンクが含まれることになるサポート・ファイル形式です。ファイル形式は MIME タイプと同じで、同じカンマ区切りの値 (application/rtf, application/msword, など) を使用して指定できます。この「Format」設定は、ファイル・タイプに基づいてソース・ドキュメントにテンプレートを割り当てる「<a href="#">Template Selection Rules</a>」ページ (3-2 ページ) の「Format」フィールドとは用途が異なることに十分注意してください。</p> <p> <b>注意:</b> Dynamic Converter を Inbound Refinery (もう 1 つの変換アドオン) とともに使用するとき、「Available Templates」ドロップダウン・リストに似たファイル形式のリストが使用可能になります。Dynamic Converter がスタンドアロン・システムとして使用される場合、ドロップダウン・リストは空で、ファイル形式を手動で追加することが必要になります。詳細は、2-11 ページの「<a href="#">動的変換用のファイル形式の追加</a>」を参照してください。</p>
<b>Other Settings</b>	
Maximum File Size	<p>Dynamic Converter で処理されるソース・ファイルの最大サイズです。値はバイトで入力します。</p> <p>デフォルトは 20,000,000 バイト (約 19MB) です。</p>
Time Out	<p>Dynamic Converter でソース・ドキュメントの処理に費やされる時間です。ここで指定した値より変換に時間がかかった場合、Dynamic Converter では変換を中止し、エラーを生成します。</p> <p>デフォルトは 3 分です。</p>
Rule Criteria	<p>「<a href="#">Template Selection Rules</a>」ページで、ルールごとに使用可能な個々の基準フィールドの数です。</p> <p>デフォルトでは、1 ルール当たりの基準は 2 つです。</p>

オプション	定義
Rendition	<p>Dynamic Converter によって変換されるソース・コンテンツ・アイテムです。オプションには、「native」（ソース・ドキュメント）、「alternate file」（ソース・ドキュメントに使用可能な代替ファイル）および「web-viewable」（ソース・ドキュメントの Web 互換バージョン）があります。</p> <p>デフォルトは「Native」です。</p> <p> <b>技術ヒント:</b> 最近のリリースの Dynamic Converter では、プライマリ・ファイルと代替ファイルのデフォルトの処理が多少異なります。6.0 より前のリリースでは、代替ファイルがサポートされるファイル形式のリストにあれば、そのファイルが使用されました。現在の Dynamic Converter では、変換するソース・ドキュメントの正確なバージョン（ネイティブ（プライマリ）、代替または Web 表示可能）を指定できるようになりました。</p>

## UNIX の構成設定

図 2-2 「Dynamic Converter Configuration」ページの UNIX の設定

**Unix System Configuration**  
 These settings apply to Unix-like systems.


**DISPLAY**


The DISPLAY environment variable tells the X-Windows application where to send its data.

**Font Path**


The colon delimited directory paths containing fonts. The directory should contain TrueType and FreeType fonts. **The Font Path value must reference a valid directory with these fonts or conversions may fail.**

構成ページの「UNIX System Configuration」セクションでは、いくつかの UNIX 固有の設定を構成できます。これらの設定は、Windows システムで Dynamic Converter を実行している場合は構成ページに表示されません。

オプション	定義
DISPLAY	<p>「DISPLAY」環境変数に値を入力します (:1.7 など)。この値により、表示情報の送信先が決まります。この変数は、X-Windows アプリケーションにデータの送信先を伝えます。</p> <p> <b>注意:</b> この設定は、「Use X-Windows for Rasterization」チェック・ボックスが選択されている場合にのみ適用されます。</p>
Font Path	<p>この値により、TrueType または FreeType フォントが格納されているディレクトリのパスを設定します。このフォント・パスが空か、有効なフォントがない場合、変換は失敗します。ディレクトリ・パスを区切るには、次のようにコロンを使用します。</p> <pre>/usr/X11R6/lib/X11/fonts/truetype:/usr/share/fonts/default/TrueType:/usr/X11R6/lib/X11/fonts/TTF</pre>

## GUI テンプレート変換の構成設定

図 2-3 「Dynamic Converter Configuration」ページでの GUI テンプレート変換の構成設定

**GUI Template Conversion Configuration**  
 These settings alter how conversions are rendered.

☐ **Use X-Windows for Rasterization**  
 When checked, the X-Windows graphics device is used for rendering graphics and fonts during GUI Template conversions. For Linux and Solaris, you can uncheck this box to use the Stellent software rendering.

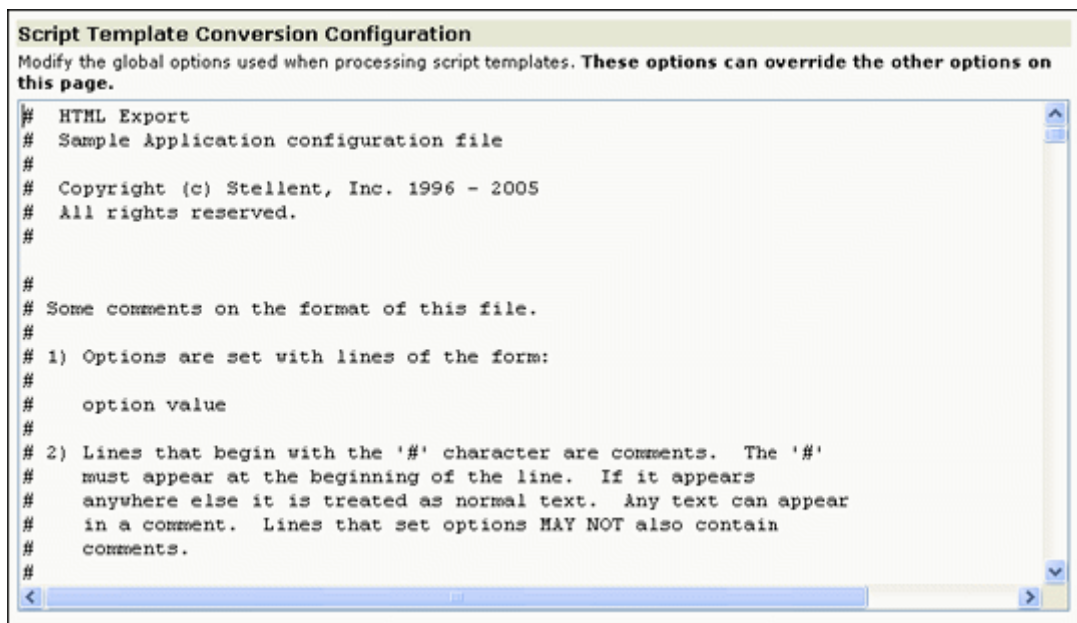
☒ **Use Services For Intradocument Hyperlinks**  
 When checked, hyperlinks to targets within the same document use service calls instead of file locations in the weblayout conversion cache.

構成ページの「GUI Template Conversion Configuration」セクションでは、[GUI テンプレート](#)の変換に関連したいくつかの設定を構成できます。

オプション	定義
Use X-Windows for Rasterization	<p>このオプションは、UNIX システムでのみ表示されます。</p> <p>このチェック・ボックスを選択すると、GUI テンプレートの変換時に、画像およびフォントのレンダリングに X-Windows グラフィック・デバイスが使用されます。Linux および Solaris の場合は、このボックスの選択を解除して、Dynamic Converter の内部ソフトウェアのレンダリング・メカニズムを使用できます。</p>
Use Services For Intradocument Hyperlinks	<p>このチェック・ボックスを選択すると、変換されたドキュメント内のハイパーリンクは、サービス呼出し付きの URL（たとえば、GET_DYNAMIC_CONVERSION を使用）として書き込まれ、Web Layout 変換キャッシュ内のファイルの場所ではなく、ターゲットを参照します。これは、参照される変換済アイテム（PowerPoint プレゼンテーション内のシートなど）が変換キャッシュ内で使用できなくなった場合（最大キャッシュ期間が期限切れになり、キャッシュ・ファイルが削除された場合など）、リンクの中断防止に役立ちます。参照する変換済アイテムがキャッシュに存在しない場合、呼び出されたサービスにより、このアイテムが再生成されます。</p> <p>デフォルトでは、このオプションは選択されています。</p>

## スクリプト・テンプレート変換の構成設定

図 2-4 「Dynamic Converter Configuration」 ページでのスクリプト・テンプレート変換の構成設定



構成ページの「Script Template Conversion Configuration」セクションでは、グローバルなスクリプト・テンプレート設定に直接アクセスできます。このファイルの一部を追加またはコメント・アウトすることによって行った変更は、他の変換オプションに優先します。このファイルには、使用可能な各オプションを説明するコメントが含まれています。

このボックスでの編集は、`[CS_Install]/shared/os/[OS_Name]/lib/htmlexport/htmlexport.cfg` ファイルに保存されます。このファイルは別のテキスト・エディタを使用して直接編集することもできます。このボックスのテキストは、構文が正しいかどうかは検証されません。



## 変換およびキャッシュの最適化

図 2-5 「Dynamic Converter Configuration」 ページでの変換およびキャッシュの最適化

**Conversion and Caching Optimizations**  
 These settings modify how Dynamic Converter convert and cache files and may significantly improve the overall performance of your intranet or external Web site.

☐ **Use Upfront and Forced Conversions**  
 When checked, documents will be converted when indexed and multiple conversions may occur based on the Forced Conversion Rules found on the Template Selection Rules page.

☐ **Reevaluate conversion rules during re-indexing**  
 When checked, re-evaluation of all upfront and forced conversions will occur during a re-index cycle. You might temporarily enable this feature to retranslate all relevant content items using a new conversion rule by enabling this option, rebuilding the content server index, and then disabling this option.

☐ **Reconvert when metadata is updated**  
 This option permits reconversion of content items when their metadata is updated.

「Conversion and Caching Optimizations」の設定は、これまで config.cfg ファイルにありましたが、構成ページ上に表示されるようになりました。これらの設定の正式な場所は、構成ページ上です。これらを以前の config.cfg ファイルで設定していた場合、その値を使用して構成ページの値が移入されます。

オプション	定義
Use Upfront and Forced Conversions	すべての <b>事前変換</b> および <b>強制変換</b> を有効にするかどうかを選択します（1-5 ページおよび 1-6 ページを参照）。
Reevaluate conversion rules during re-indexing	すべての <b>事前</b> および <b>強制</b> 変換を、再索引付けサイクル中に再評価するかどうかを選択します。たとえば、作成した新しい変換ルールを使用してすべての関連コンテンツ・アイテムを再変換するために、一時的にこの機能を有効にすることができます。そうするには、このオプションを有効にして、コンテンツ・サーバー索引を再構築してから、オプションを再び無効にします。
Reconvert when metadata is updated	メタデータが更新された場合に、アイテムを再び変換するかどうかを選択します。詳細は、1-8 ページの「 <b>メタデータの変更</b> 」を参照してください。

## デフォルトの GUI テンプレートおよびレイアウト・テンプレートの設定

---

デフォルト・テンプレートは、定義したテンプレート基準に一致しないコンテンツ・アイテムに適用されます。コンテンツ・アイテムと関連付けられたデフォルトの GUI テンプレートまたはレイアウト・テンプレートを変更するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Configuration Settings**」 をクリックします。  
「[Dynamic Converter Configuration](#)」 ページ (2-1 ページ) が表示されます。
3. 「Default Template」 見出しの下にある 「**Template**」 テキスト・ボックスで、テンプレートのコンテンツ ID を入力します。「**Template Types**」 ドロップダウン・メニューからテンプレートのタイプを選択し、「**Available Templates**」 ドロップダウン・メニューから必要なテンプレートを選択できます。
4. 「Default Layout」 見出しの下にある 「**Layout**」 テキスト・ボックスで、レイアウト・テンプレートのコンテンツ ID を入力します。「**Available Layouts**」 ドロップダウン・メニューから必要なレイアウト・テンプレートを選択することもできます。
5. 「Dynamic Converter Configuration」 ページの下部にある 「**Update**」 をクリックして、デフォルトのテンプレートを有効にします。



**注意:** Dynamic Converter の旧リリースでは、コンテンツ・アイテムがどのテンプレート基準にも一致せず、デフォルト・テンプレート (plain.hcst など) が指定されていなかった場合、次のエラー・メッセージが表示されました。

"Content Server Request Failed. Could not convert the content to html. The default conversion template has not been set."

現在は異なります。テンプレート基準のどれにも一致しないコンテンツ・アイテムには、空白の GUI テンプレートが自動的に割り当てられます。前述の手順に従うことで、このテンプレートを独自のデフォルト・テンプレートに置き換えることができます。

## 変換形式の設定

---

コンテンツ・アイテムのファイル形式 (MS Word、RTF、プレーン・テキストなど) は、Dynamic Converter でコンテンツ・アイテムを認識し変換するために、変換形式リストに含まれている必要があります。このリストに含まれている形式のみが、検索結果ページ、コンテンツ情報ページなどで、隣に 「(HTML)」 リンクが付きます。

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [動的変換用のファイル形式の追加](#) (2-11 ページ)
- ❖ [動的変換からのファイル形式の削除](#) (2-11 ページ)

## 動的変換用のファイル形式の追加

---

「Dynamic Converter Configuration」ページでは、いつでも 1 つ以上のファイル形式を追加できます。新しいファイル形式を追加するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Configuration Settings**」をクリックします。  
「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-1 ページ) が表示されます。
3. 「**Conversion Formats**」見出しの下にある形式のテキスト・ボックスに、**Web** ページに変換するファイル形式を入力（または右側のドロップダウン・メニューから選択）します。テキスト・ボックスの形式は、次のようにカンマまたは空白で区切ります。  
application/msword, application/vnd.ms-excel



**注意:** ファイル形式は、Content Server の構成マネージャでのネーミング規則に従う必要があります。たとえば、Microsoft Word ドキュメントは、application/doc または application/msword として入力します。ファイル形式のネーミング規則の詳細は、Content Server の管理ドキュメントを参照してください。

4. 「**Update**」をクリックして、Dynamic Converter にファイル形式を追加します。

## 動的変換からのファイル形式の削除

---

「Dynamic Converter Configuration」ページでは、いつでもファイル形式を削除できます。ファイル形式を削除するには、次のようにします（この操作は元に戻せません）。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Configuration Settings**」をクリックします。  
「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-1 ページ) が表示されます。
3. 「**Conversion Formats**」見出しの下にある形式のテキスト・ボックスで、削除するファイル形式を選択します。

4. キーボードで [Del] キーを押して、テキスト・ボックスからファイル形式を削除します。ボックスにリスト表示されているすべての形式ではなく、必ず削除が必要な形式のみを削除してください。
5. 「Update」をクリックして、Dynamic Converter からファイル形式を削除します。



**注意:** 誤って正しくないファイル形式を削除した場合、その形式をもう一度追加してから、「Update」をクリックします。

## POWERPOINT プレゼンテーション用スライドショー・テンプレート・ファイルの構成

PowerPoint プレゼンテーションを変換するために Dynamic Converter テンプレートを使用する場合は、hcst スライドショー・ファイルの使用をお勧めします。このファイルは、[CS\_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/script\_templates/ ディレクトリにあります ([CS\_Dir] は、Content Server のインストール・ディレクトリです)。3つのスライドショー・ファイル (slideshow.hcst、slideshowb.hcst および slideshowc.hcst) のすべてをチェックインする必要があります。サンプル・ディレクトリには、サンプル PowerPoint ファイル (dc\_powerpoint.ppt) も含まれています。

ファイルのチェックインと同時にコンテンツ ID を自動的に割り当てるように Dynamic Converter を構成した場合は、これを反映するために、各スライドショー・テンプレート・ファイルを編集する必要があります。その後、各ファイルを再びチェックインすることにより、そのテンプレートの使用を開始できます。

PowerPoint プレゼンテーションの変換用にスライドショー・テンプレート・ファイルを構成するには、次のようにします。

1. 3つのスライドショー・ファイル (slideshow.hcst、slideshowb.hcst および slideshowc.hcst) をすべてコンテンツ・サーバーにチェックインします。それらをスクリプト・テンプレートとしてチェックインしてください。  
詳細は 4-5 ページの「[テンプレートのチェックイン](#)」を参照してください。



**重要:** ファイルが確実に正しい Web Layout ディレクトリにチェックインされるようにするには、3つのファイルすべてに同じコンテンツ・タイプ、セキュリティ・グループおよびアカウント（該当する場合）を使用します。

コンテンツ ID が自動的に生成される場合、自動生成された各スライドショー・ファイルのコンテンツ ID を検索し、書き留めます。

コンテンツ ID が自動的に生成されない場合、DC-Slideshow、DC-SlideshowB および DC-SlideshowC のような ID を使用することをお勧めします。

2. [CS\_Dir]/samples/DynamicConverter ディレクトリにあるスライドショー・ファイルにアクセスします。

3. 各 hcst スライドショー・ファイルをテキスト・エディタ（WordPad や vi など）で開き、次のスライドショー参照を検索し、適切なコンテンツ ID で置換します。



**注意:** 各ファイルを閉じる前に、必ず変更を保存してください。

❖ **slideshow.hcst:**

検索: slideshowbtemplate

置換: チェックインした slideshowb.hcst テンプレートのコンテンツ ID (1002 または DC-SlideshowB など)

❖ **slideshowb.hcst:**

検索: slideshowctemplate

置換: チェックインした slideshowc.hcst テンプレートのコンテンツ ID (1003 または DC-SlideshowC など)

❖ **slideshowc.hcst:**

検索: slideshowbtemplate

置換: チェックインした slideshowb.hcst テンプレートのコンテンツ ID (1002 または DC-SlideshowB など)



**重要:** ファイル拡張子は、必ず `{## link element=sections.current.bodyorimage template=slideshowbtemplate.hcst}` のように保持してください。そうしないと、HTML 変換中にアプリケーションから例外がスローされる可能性があります。



**重要:** UNIX システムでは、コンテンツ ID は大 / 小文字が区別されるため、dc-slideshow は DC-Slideshow や DC-SLIDESHOW と同じにはなりません。

4. コンテンツ・サーバーでスライドショー・ファイルを検索し、検索結果ページで「Info」リンクをクリックします。  
コンテンツ情報ページが表示されます。
5. 「Check out」をクリックします。
6. チェックアウト確認ページで「Check In」をクリックします。
7. `[CS_Dir]/samples/DynamicConverter` ディレクトリで変更されたスライドショー・ファイルを参照し、コンテンツ・チェックイン・フォーム上の「Check In」をクリックします。
8. スライドショー・ファイルごとに、手順 4～7 を繰り返します。

これで、PowerPoint プレゼンテーション用の変換形式の設定 (2-10 ページを参照) と、チェックイン・テンプレートのテンプレート・ルールへの割当て (第 3 章を参照) ができるようになりました。

## ワイヤレス・テンプレートの削除

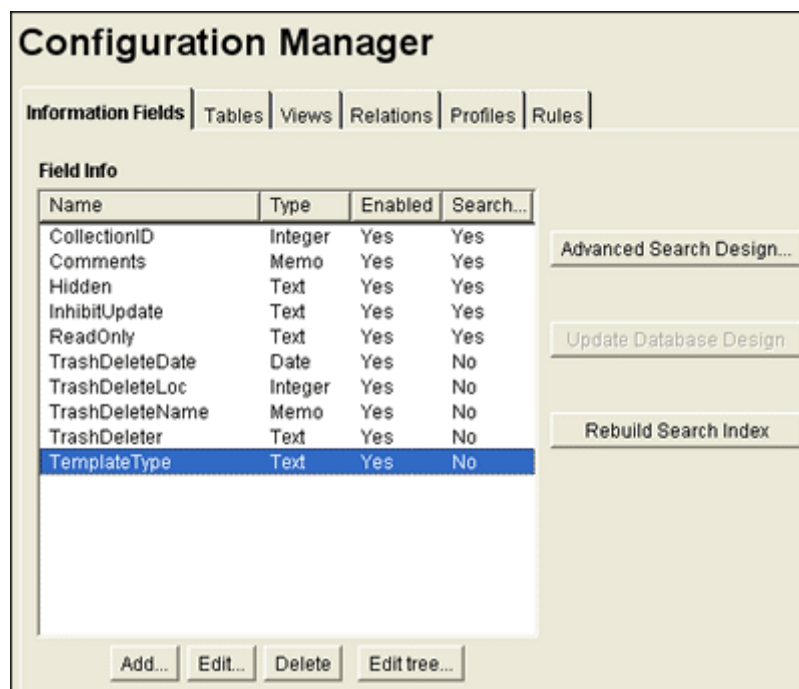
Dynamic Converter 10g リリース 3 ではワイヤレス・テンプレート・タイプをサポートしていません。しかし、GUI テンプレートに基づいたワイヤレス・サポートは提供しています。Dynamic Converter の旧リリースがインストールされている既存のコンテンツ・サーバーには、まだワイヤレス・テンプレート・タイプが残っている可能性があります。これを使用しようとするとう失敗の原因となります。

ワイヤレス・テンプレートを使用可能なテンプレートのリストから削除するには、次のようにします。

1. 新規のブラウザ・ウィンドウを開き、Oracle Content Server にシステム管理者 (sysmanager ロールを持つ) としてログインします。
2. 「Admin Applets」ページを開きます。
3. 「Administration Applets」セクションの下にある「Configuration Manager」をクリックします。

Configuration Manager ウィンドウが表示されます。

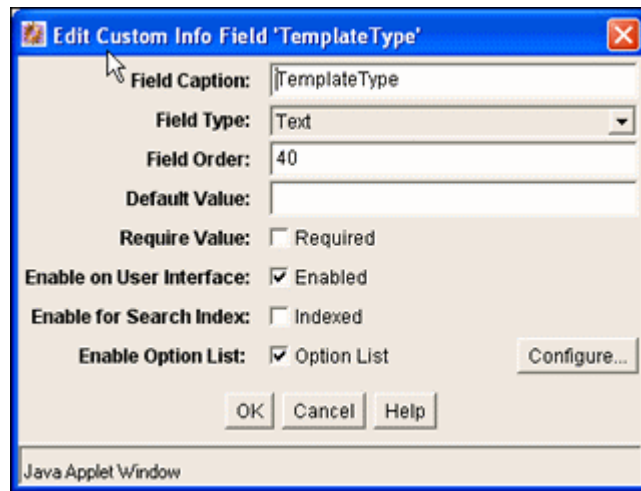
図 2-6 Configuration Manager ウィンドウ



4. 「Information Fields」タブで、「TemplateType」の行を選択して「Edit」をクリックします。

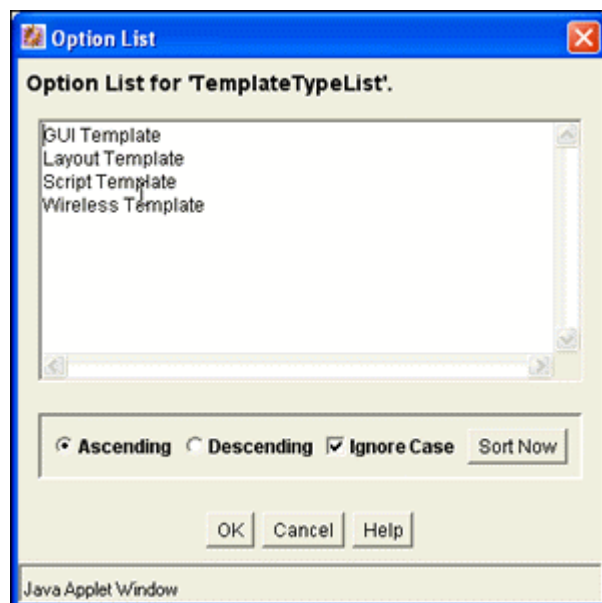
「TemplateType」フィールドの編集ダイアログが表示されます。

図 2-7 TemplateType 編集ダイアログ



5. 「**Configure**」をクリックします。  
「Option List」構成ダイアログが表示されます。
6. 「**Edit**」をクリックします。  
「Option List」ダイアログが表示されます。

図 2-8 TemplateType のオプション・リスト



7. 「**Wireless Template**」を強調表示し、[Del] キーを押してオプションとしての Wireless Template を削除します。

8. 「OK」を3回クリックして、Configuration Manager ウィンドウに戻ります。
9. メニュー・バーから「Options」を選択します。
10. 「Publish Schema」を選択します。これにより変更をコンテンツ・サーバーに伝播します。
11. 構成マネージャ・アプリケーションを終了し、2、3分待機します。次にテンプレート・チェックイン・フォームを再び参照します。

## DYNAMIC CONVERTER の使用前

---

コンテンツ・アイテムのテンプレートを設計するために Dynamic Converter の使用を開始する前に、次のものを準備しておく必要があります。

- ❖ コンテンツ・サーバーにチェックインしたコンテンツ・アイテム。コンテンツのチェックイン方法については、『Content Server ユーザー・ガイド』を参照してください。
- ❖ 正しいテンプレート・タイプでコンテンツ・サーバーにチェックインされた Dynamic Converter テンプレート。詳細は、[第4章「変換テンプレート」](#)を参照してください。
- ❖ 関連のメタデータおよびテンプレートとともに追加されたテンプレート選択ルール。詳細は、[第3章「テンプレート・ルール」](#)を参照してください。
- ❖ 「[Dynamic Converter Configuration](#)」[ページ](#)（2-1 ページ）で指定された変換形式およびその他の関連情報。



# 3

## テンプレート・ルール

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [テンプレート・ルールの概要](#) (3-1 ページ)
- ❖ [「Template Selection Rules」 ページ](#) (3-2 ページ)
- ❖ [テンプレート・ルールの管理](#) (3-7 ページ)
- ❖ [ルールへのメタデータ基準の割当て](#) (3-8 ページ)
- ❖ [ルールのテンプレートの選択](#) (3-9 ページ)

### テンプレート・ルールの概要

---

ルールとは、Dynamic Converter で変換プロセスを進める一連の手順です。これらの手順により、コンテンツ・サーバー内でソース・ドキュメントが識別され、それらのドキュメントをそのメタデータ（コンテンツ ID、タイプ、作成者など）およびファイル・タイプに基づいて変換するかどうかが決まります。次に、ルールにより、そのルールに関連付けられた[テンプレート](#)を使用したドキュメントの変換がリクエストされます（テンプレートの詳細は、[第 4 章](#)を参照）。Dynamic Converter では複数のルールを使用できます。その場合、ソース・ドキュメントのメタデータと一致する最初のルールが、動的変換に使用されます。システム構成に応じて、その他の一致ルールも適用できます（1-6 ページの「[強制変換](#)」を参照）。

[「Template Selection Rules」 ページ](#)（次の項を参照）では、ルールの追加、削除および再編成、ルールの基礎となる基準（メタデータ）の指定、ルールへのテンプレートの割当てができます。

いくつかの機能が集まって、「Template Selection Rules」ページを構成しています。複数のルールを追加し、その後それらのルールがソース・ドキュメントに適用される順序を変更できます。ルールの基礎となるいくつかのメタデータ・フィールドを選択できます（構成ページを使用してさらに多くのフィールドを追加することもできます）。最後に、テンプレートをそのルールに割り当て、「Edit Template」ボタンを使用してそれらのテンプレートを編集できます。

## 「TEMPLATE SELECTION RULES」ページ

「Template Selection Rules」ページを使用して、ルールの追加、削除および並替えを行います。このページにアクセスするには、「[Dynamic Converter Admin](#)」ページ（1-13 ページ）で「Template Selection Rules」をクリックします。

図 3-1 「Template Selection Rules」ページ

**Template Selection Rules**

**Template Selection Rules (In order of evaluation)**

[List Box] [Move Up] [Move Down] [Delete Rule]

New rule name: [Text Input] [Add New Rule]

**Criteria for selected rule**

Field [Dropdown] = Value [Dropdown] [Dropdown] And [Dropdown]

Field [Dropdown] = Value [Dropdown] [Dropdown]

**Template and layout for selected rule**

Template [Text Input] Available Templates [Dropdown] Template Types [Dropdown] (GUI Template)

[Edit Template]

Layout [Text Input] Available Layouts [Dropdown]

**File Extension** [Text Input]

File extension of the dynamic converted page.

☐ **Forced Conversion**

Indicates that this rule is to be used for forced conversions. This rule will always be applied to content items as long as the content items match the rule criteria. The conversion results can be retrieved using the `incDynamicConversionByRule` Idoc Script function or the `GET_DYNAMIC_CONVERSION` service with the `conversionRule` parameter specified.

☐ **Exclude From User Request**

Use this option to prevent the rule to be used when a user clicks on the HTML Rendition link or menu item. Rules designed for fragments and used by the `incDynamicConversionByRule` Idoc Script function should be excluded from Dynamic Converter's rule evaluation during a user request.

[Update] [Quick Help]

ルールは、一番上から順に処理されます。ユーザーが **Content Server** 内のソース・ドキュメントをリクエストすると、このリストの一番上のルールが処理されます。このルールが当てはまらない場合（たとえば、ソース・ドキュメントにルールで指定されていないメタデータが含まれている場合）、次のルールが処理されます。このプロセスは、リストの最後のルールに到達するまで続きます。

ルールが追加されると、基準セクションを使用して、ルールを定義したり、コンテンツ・サーバーに格納されているソース・ドキュメントにルールを適用したりできます。たとえば、カテゴリとして「**Type**」を、名前として「**Report**」を選択して、ルールが「**Report**」タイプのすべてのドキュメントに適用されるようにします。

最後に、ルール用のテンプレートを選択します。2 番目のテンプレート・フィールドでは、変換されたドキュメント用に一貫したページ・レイアウト（枠線、ナビゲーション、スクリプトなど）を設定することで、GUI テンプレートを補足するレイアウト・テンプレートを指定できます。




**技術ヒント:** リリース 6.1 より前の **Dynamic Converter** で作成されたルールは、このリリースの **Dynamic Converter** では、番号付きのルールとして表示されます。このルールを引き続き使用することも、削除して **Dynamic Converter 10g** リリース 3 で再作成することもできます（ルールの名前は変更できません）。

## ページの機能

次のオプションがあります。

オプション	定義
<b>Template Selection Rules</b>	
Move Up	このボタンをクリックすると、リスト上でルールが上に移動し、下のルールに優先されます。テンプレート選択ルールは、上から順に処理されます。
Move Down	このボタンをクリックすると、リスト上でルールが下に移動し、上のルールより重要度が下がります。テンプレート選択ルールは、上から順に処理されます。
Delete Rule	このボタンをクリックすると、リストからルールが削除されます。ルールを削除すると、そのルール用にカスタマイズされた設定（メタデータ基準およびテンプレート）が削除されます。
Add New Rule	このボタンをクリックすると、「 <b>Template Selection Rules</b> 」リストに新規ルールが追加されます。ルールを追加すると、それをリスト内で上下に移動して、 <b>Dynamic Converter</b> で処理される順序を変更できます。

オプション	定義
<b>Criteria For Selected Rule</b>	
Field	<p>これらは、テンプレート選択ルールの基礎となるメタデータ・フィールドです（すべてのフィールドで大 / 小文字が区別されます）。各ルールに指定できる基準の数は、「<a href="#">Dynamic Converter Configuration</a>」ページ（2-1 ページを参照）の設定によって制御されます。</p> <p>次のメタデータ・フィールドを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>❖ <b>Content ID:</b> コンテンツ・アイテムの一意的識別子。コンテンツ ID は、ユーザーが割り当てることも、<b>Content Server</b> によって自動的に生成することもできます。その結果、テンプレートは、1 つのコンテンツ・アイテムに対してのみ割り当てられます。</li> <li>❖ <b>Title:</b> ユーザーによってコンテンツ・アイテムに割り当てられる記述的な名前。その結果、テンプレートは、1 つのコンテンツ・アイテムに対してのみ割り当てられます。</li> <li>❖ <b>Author:</b> コンテンツ・アイテムを作成または改訂した人。テンプレートは、この作成者によって作成されたすべてのコンテンツ・アイテムに割り当てられます。</li> <li>❖ <b>Type:</b> コンテンツ・アイテムのカテゴリ（カテゴリは、<b>Content Server</b> の構成マネージャで作成されます）。テンプレートは、このカテゴリに一致するすべてのコンテンツ・アイテムに割り当てられます。</li> <li>❖ <b>Security Group:</b> 同じアクセス権限（一般にパブリックとセキュア）を持つ一連のファイル。テンプレートは、このセキュリティ・グループに一致するすべてのコンテンツ・アイテムに割り当てられます。</li> <li>❖ <b>Template Type:</b> コンテンツ・サーバーでのテンプレートの検索を容易にします。</li> <li>❖ <b>Format:</b> コンテンツ・アイテムのファイル形式（これは、ファイルの作成に使用されたアプリケーションによって決まります）。ファイル形式は MIME タイプと同じで、同じカンマ区切りの値（application/rtf, application/msword, など）を使用して指定できます。「<a href="#">Dynamic Converter Configuration</a>」ページ（2-1 ページを参照）の「Conversion Formats」フィールドは用途が異なり、Dynamic Converter によって実際に変換されるファイル形式を制御するためのフィールドであることに注意してください。</li> </ul>

オプション	定義
Field (続き)	<p>❖ <b>User Agent:</b> Web サーバーからコンテンツをリクエストまたはダウンロードする表示デバイス。一般にこれは、コンピュータで実行されている Web ブラウザ (Microsoft Internet Explorer、Mozilla Firefox または Opera など) です。このテキスト・ボックスに値を入力することで、特定の Web ブラウザを対象に指定できます (Internet Explorer 7 は *msie 7*、Mozilla Firefox 2 は *firefox 2*、WebTV ビューアは *webtv 1* など)。この設定は、コンテンツをモバイル機器の対象にするときに特に役立ちます。</p> <p> <b>注意:</b> コンテンツ・サーバーにカスタム・メタデータを追加した場合、それらの値もこのリストに表示されます。</p>
Value	<p>これは、基準のための特定のメタデータ値です。ソース・ドキュメントは、メタデータ値がここにリスト表示された値と一致した場合、関連付けられたテンプレートで変換されます。</p> <p>「Value」フィールドの右側のドロップダウン・メニューから、必要なメタデータを選択できます。「Value」フィールドでは、ワイルドカードも使用できます (*report* など)。* (アスタリスク) ワイルドカードは任意の数の文字を表し、? (疑問符) は 1 文字を表します。たとえば、report* という値には、report2001、reporting および reports が含まれます。report? という値には、reports と report8 は含まれますが、report10 は含まれません。</p>
<b>Template and Layout For Selected Rule</b>	
Template	前述の基準に一致するソース・ドキュメントに適用するテンプレートの名前 (コンテンツ ID)。
Available Templates	現在コンテンツ・サーバーに格納されている使用可能なすべてのテンプレートのリストです。
Template Types	<p>様々なテンプレートのタイプ (GUI Template、Layout Template および Script Template) のリストです。テンプレート・タイプを選択すると、そのタイプの使用可能なテンプレートのリストが、「Available Templates」フィールドに表示されます。</p> <p>テンプレートの詳細は、<a href="#">第 4 章「変換テンプレート」</a>を参照してください。</p>

オプション	定義
Edit Template	このボタンは、「Template」テキスト・ボックスに認識された GUI テンプレートを入力すると、アクティブになります。テンプレート・エディタを開くには、このボタンをクリックします。 (テンプレート・エディタには、GUI テンプレート用の一連の編集オプションが、すべてグラフィカル・ユーザー・インタフェースの形で含まれています。) このボタンを初めてクリックする際には、テンプレート・エディタをダウンロードするように求められます。詳細は、5-2 ページの「 <a href="#">テンプレート・エディタ</a> 」を参照してください。
Layout	レイアウト・テンプレートの名前です。レイアウト・テンプレートは、通常、Web ページ上でのアイテム、特に変換済コンテンツ以外の領域（枠線、ナビゲーション、会社のロゴ、カスタム・スクリプトなど）の配置を制御するために、GUI テンプレートとともに使用されます。
Available Layouts	現在 Content Server に格納されている使用可能なすべてのレイアウト・テンプレートのリストです。
<b>Other Settings</b>	
File Extension	このルールを使用する変換済ページのファイル拡張子を設定します。
Forced Conversion	このルールが <a href="#">強制変換</a> (1-6 ページを参照) に使用されるものであることを示します。コンテンツ・アイテムがルール基準に一致するかぎり、このルールは常にコンテンツ・アイテムに適用されます。 変換結果は、incDynamicConversionByRule Idoc Script 関数、または conversionRule パラメータを指定した GET_DYNAMIC_CONVERSION サービスを使用して取得できます。
Exclude From User Request	ユーザーが HTML レンディション・リンクまたはメニュー項目をクリックしたときに、そのルールを使用できないことを示します。 <a href="#">フラグメント</a> (1-6 ページを参照) 用に設計され、incDynamicConversionByRule Idoc Script 関数によって使用されるルールは、ユーザー・リクエスト中の Dynamic Converter のルール評価から除外する必要があります。
Update	「Template Selection Rules」ページで行った変更を適用するには、このボタンをクリックします。
Quick Help	このページに関する状況依存のヘルプ情報を表示するには、このボタンをクリックします。

# テンプレート・ルールの管理

---

「[Template Selection Rules](#)」 [ページ](#) (3-2 ページ) の上部セクションでは、ソース・ドキュメントの変換に使用されるテンプレート・ルールを管理できます。次のことができます。

- ❖ [ルールの追加](#) (3-7 ページ)
- ❖ [ルールの削除](#) (3-7 ページ)
- ❖ [ルールの並替え](#) (3-8 ページ)

## ルールの追加

---

新しいテンプレート・ルールを追加するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 [ページ](#) (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Template Selection Rules**」をクリックします。  
「[Template Selection Rules](#)」 [ページ](#) (3-2 ページ) が表示されます。
3. 「**New rule name**」テキスト・ボックス (「**Template Selection Rules**」見出しの下) にルールの名前を入力します。
4. 「**Add New Rule**」をクリックします。

ルールが強調表示されたら、そのルールの基準フィールドとテンプレート・フィールドが空白であることに注意してください。このルールに対する必要なメタデータ基準とテンプレートの入力をただちに開始できます。

5. 「**Template Selection Rules**」ページの下部にある「**Update**」をクリックします。

## ルールの削除

---

「**Template Selection Rules**」リストからテンプレート・ルールを削除するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 [ページ](#) (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Template Selection Rules**」をクリックします。  
「[Template Selection Rules](#)」 [ページ](#) (3-2 ページ) が表示されます。
3. 削除するルールを強調表示し、「**Delete Rule**」をクリックします。
4. 「**Template Selection Rules**」ページの下部にある「**Update**」をクリックします。



**重要:** ルールを削除すると、そのルールの設定 (メタデータ基準およびテンプレート) がすべて削除されます。この操作を元に戻すことはできません。

## ルールの並替え

---

テンプレート・ルールが処理される順序を変更するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Template Selection Rules**」 をクリックします。  
「[Template Selection Rules](#)」 ページ (3-2 ページ) が表示されます。
3. 次のいずれかを行います。
  - ❖ ルールをリスト内で上に移動して、他のルールより優先させるには、ルールを強調表示し、「**Move Up**」 をクリックします。次に、「**Update**」 をクリックします。
  - ❖ ルールをリスト内で下に移動して、他のルールより優先度を下げるには、ルールを強調表示し、「**Move Down**」 をクリックします。次に、「**Update**」 をクリックします。

## ルールへのメタデータ基準の割当て

---

コンテンツ・アイテムに変換テンプレートを割り当てる際、ここで指定するメタデータがソース・ドキュメントに割り当てられたメタデータと一致することを確認する必要があります。これは、コンテンツ・サーバーでソース・ドキュメントのコンテンツ情報ページを開くと確認できます。

テンプレート選択ルールにメタデータを割り当てるには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Template Selection Rules**」 をクリックします。  
「[Template Selection Rules](#)」 ページ (3-2 ページ) が表示されます。
3. 最初の「**Field**」 ドロップダウン・リスト（「**Criteria for selected rule**」 見出しの下）からメタデータ・フィールドを選択します。「**Type**」、「**Author**」、「**Title**」、「**Content ID**」、「**Title**」、またはその他いくつかのフィールドを選択できます。
4. 「**Value**」 テキスト・ボックスに、ルールを適用するメタデータを入力します。



**注意：**「**Value**」 テキスト・ボックスの右側のドロップダウン・メニューから、メタデータ値を選択できます。メタデータ値の指定には、ワイルドカードも使用できます。

5. 必要に応じて、ルールに 2 番目および 3 番目のメタデータ・フィールドを選択します。





**注意:** メタデータ・フィールド間には常に AND の関係があります。つまり、すべての基準を満たすコンテンツ・アイテムのみがこのルールによって変換されます。



**技術ヒント:** 各ルールに指定できる基準の最大数は、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-1 ページ) での設定によって制御されます。

6. 「Template Selection Rules」ページの下部にある「**Update**」をクリックして、ルールを更新します。

## ルールのテンプレートの選択

テンプレート選択ルールは、ルールのテンプレートを選択するまで完成しません。テンプレートにより、変換されたドキュメントの外観が最終的に決まります。

ルールにテンプレートを割り当てるには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Template Selection Rules**」をクリックします。  
「[Template Selection Rules](#)」ページ (3-2 ページ) が表示されます。
3. 「**Template**」テキスト・ボックス (「Template and layout for selected rule」見出しの下) に、テンプレートのコンテンツ ID を入力します。



**注意:** 「**Template Types**」ドロップダウン・メニューからテンプレートのタイプ (GUI、Layout または Script) を選択し、「**Available Templates**」ドロップダウン・メニューから必要なテンプレートを選択できます。

4. 前の手順で GUI テンプレートを選択した場合、レイアウト・テンプレートを使用して補足できます。その場合、「**Layout**」テキスト・ボックスにレイアウト・テンプレートのコンテンツ ID を入力します (再び、「**Available Layouts**」ドロップダウン・メニューからレイアウト・テンプレートを選択してもかまいません)。
5. 「**Update**」をクリックして、ルールにテンプレートを追加します。

テンプレート選択ルールを作成し、適切な基準を割り当て、ルールにテンプレートを選択したら、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ (2-1 ページ) で構成設定を確認する必要があります。特に、「**Conversion Formats**」リストに必要なファイル・タイプを追加したことを確認します。



**注意:** テンプレートの詳細は、[第 4 章「変換テンプレート」](#)を参照してください。



# 4

## 変換テンプレート

### 概要

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [テンプレートの概要](#) (4-2 ページ)
- ❖ [テンプレート・タイプ](#) (4-2 ページ)
- ❖ [テンプレートの方針](#) (4-3 ページ)
- ❖ [テンプレート・チェックイン・フォーム](#) (4-4 ページ)
- ❖ [テンプレートのチェックイン](#) (4-5 ページ)

#### 関連項目：

- [第5章「GUI テンプレート」](#)
- [第6章「レイアウト・テンプレート」](#)
- [第7章「スクリプト・テンプレート」](#)

## テンプレートの概要

---

Dynamic Converter の能力、柔軟性および複雑さの大部分は、変換プロセスを機能させるテンプレートの使用と密接な関係があります。テンプレートを使用することで、変換された Web ページの視覚およびナビゲーションのプロパティを強力に制御できます。

テンプレートはプレーンテキスト HTML または XML ファイルで、そこに含まれている特殊なタグを使用して、テンプレートの作成者はソース・ドキュメント内の様々な要素について挿入、繰返し、条件付けや関連付けができます。これらの書式設定の指示セットを、コンテンツ・サーバーに格納されている 1 つまたは複数のコンテンツ・アイテムと関連付けられます。「[Template Selection Rules](#)」ページ (3-2 ページを参照) でテンプレートをコンテンツ・アイテムに割り当てる際に、コンテンツ・アイテムを Web ページとしてどのように表示するかを制御します。

ユーザーがコンテンツ・アイテムの「(HTML)」リンク (Dynamic Converter で生成) をクリックすると、そのコンテンツ・アイテムと関連付けられたテンプレートを使用して、[動的変換](#)が行われます (1-4 ページを参照)。

## テンプレート・タイプ

---

Dynamic Converter で使用可能なテンプレートには次の 3 つのタイプがあります。

- ❖ **GUI テンプレート:** GUI テンプレートは、XML (eXtensible Markup Language) で書かれ、Dynamic Converter テンプレート・エディタとともに使用するように設計されています。テンプレート・エディタを使用すると、これらのテンプレートで変更を加え、それらをリアルタイムで表示できます。GUI テンプレートには、.ttp ファイル拡張子が付いています。Dynamic Converter の新機能の多くは、GUI テンプレート用に設計されたものです。新しい GUI テンプレートを作成するときに、形式タイプとして HTML (従来の Web ブラウザの場合) または WML (モバイル機器の場合) を選択できます。GUI テンプレートの詳細は、[第 5 章](#)を参照してください。
- ❖ **レイアウト・テンプレート:** レイアウト・テンプレートは、変換済のコンテンツ・アイテムの全体的なページ・レイアウトの制御という面で、GUI テンプレートを補足するために設計されています。レイアウト・テンプレートは、変換済の各 Web ページ上で、枠線、サイト・ナビゲーションまたは会社ロゴの共通セットを作成するために使用できます。Content Server のルック・アンド・フィールを「Home」や「Search」などへのリンクを使用して維持するためにも使用されます。レイアウト・テンプレートには通常、HTML コード (特に HTML の表)、トークン (GUI テンプレートの設定を表す)、および Idoc Script または別のスクリプト言語が含まれます。レイアウト・テンプレートの詳細は、[第 6 章](#)を参照してください。

- ❖ **スクリプト・テンプレート**: スクリプト・テンプレートは、テキストベースの変換テンプレートで、一連のスクリプト化されたルールを変換済ドキュメントに適用します。プレーンテキスト・ファイルであるため、要素、索引、マクロ、プラグマ、Idoc Script を使用して手動でコード化する必要があります。スクリプト・テンプレートを変更するには、書かれた言語の知識が必要です。スクリプト・テンプレートには、.hcst ファイル拡張子が付いています。スクリプト・テンプレートの詳細は、[第7章](#)を参照してください。



**技術ヒント**: GUI テンプレートとスクリプト・テンプレートの詳細な相違点および移行のための提案は、5-20 ページの「[スクリプト・テンプレートから GUI テンプレートへの移行](#)」を参照してください。

## テンプレートの方針

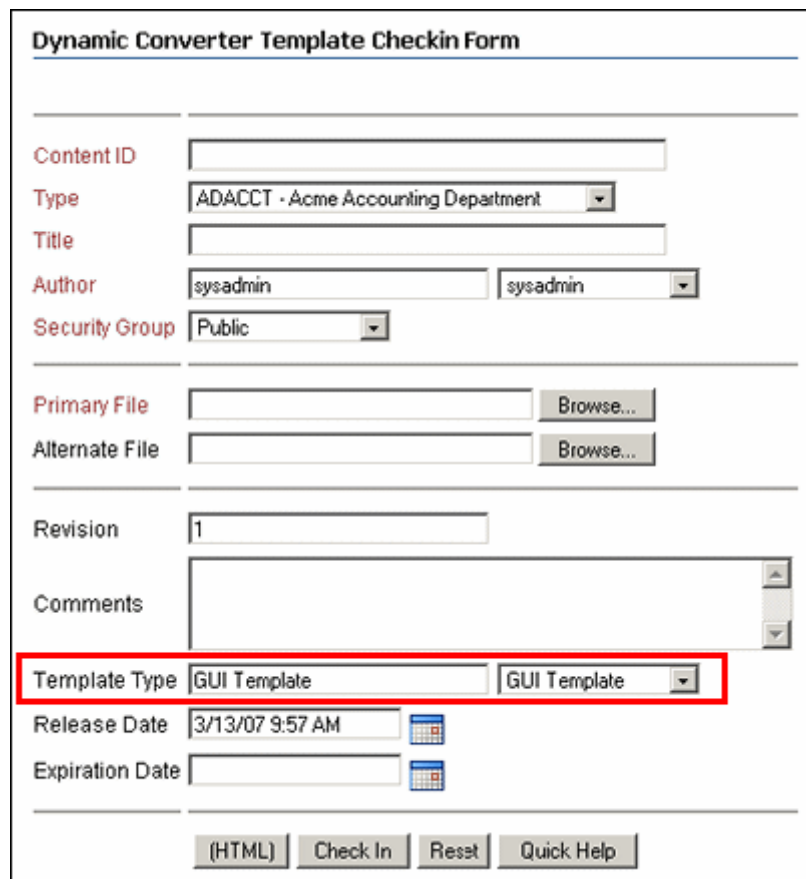
テンプレートを使用することにより、Dynamic Converter ユーザーは、柔軟に変換済ドキュメントを提示できます。ユーザーは通常、次の 3 つの方針のいずれかを使用して、テンプレートを選択します。

1. Dynamic Converter には、いくつかのサンプル・テンプレートが付属しており、これらは Dynamic Converter ユーザーの様々なニーズを満たすように設計されています（洗練されたナビゲーション、ドキュメントの索引付けエンジン用の簡単な HTML など）。サンプル・テンプレートは、`[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/` ディレクトリ（`[CS_Dir]` は、Content Server インストール・ディレクトリ）にあります。
2. 少しの手間で、Dynamic Converter 付属のサンプル・テンプレートの 1 つを変更できます。画像または静的テキストの追加などの簡単な変更は、これらのテンプレートを使用して試す意欲があれば容易にできます。
3. 上級ユーザーは、特に自分のニーズに合わせてカスタマイズした独自のデザインで、テンプレートを作成できます。そのようなテンプレートは、広範な Web 標準（Java など）から要素を組み込むことができます。言うまでもなく、この方法を取るユーザーには、まず高い技術的スキルが必要です。

## テンプレート・チェックイン・フォーム

このページを使用して、既存の Dynamic Converter テンプレート・ファイルをチェックインします。このページにアクセスするには、「[Dynamic Converter Admin](#)」ページ (1-13 ページ) で「**Check In Existing Template**」をクリックします。

図 4-1 Dynamic Converter Template Check-In Form



The image shows a web form titled "Dynamic Converter Template Checkin Form". The form contains several input fields and dropdown menus. A red rectangle highlights the "Template Type" field, which has "GUI Template" entered in the text box and selected in the dropdown menu. Other fields include "Content ID", "Type" (set to "ADACCT - Acme Accounting Department"), "Title", "Author" (set to "sysadmin"), "Security Group" (set to "Public"), "Primary File" and "Alternate File" (each with a "Browse..." button), "Revision" (set to "1"), "Comments" (a large text area), "Release Date" (set to "3/13/07 9:57 AM"), and "Expiration Date". At the bottom, there are buttons for "(HTML)", "Check In", "Reset", and "Quick Help".

このページは、通常の Content Server チェックイン・フォームと非常に似ています。主な違いは、テンプレート・タイプを選択するためのオプションです。Dynamic Converter のドロップダウン・メニューやテンプレート・エディタが正しく機能するように、適切な [テンプレート・タイプ](#) (4-2 ページを参照) を選択することが非常に重要です。

## テンプレートのチェックイン

---

テンプレートを[テンプレート選択ルール](#)（第 3 章を参照）に割り当て、Dynamic Converter で変換プロセスに使用できるようにするには、その前にテンプレートをコンテンツ・サーバーにチェックインする必要があります。

テンプレートをチェックインするには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ (1-13 ページ) を開きます。

2. 「**Check In Existing Template**」 をクリックします。

[テンプレート・チェックイン・フォーム](#) (4-4 ページ) が表示されます。

3. そのテンプレートに必要なすべてのメタデータを指定します。



**重要:** 必ず正しいテンプレート・タイプを選択してください。正しいタイプを選択しないと、テンプレートが特定のタイプの使用可能なテンプレート・リストに含まれない可能性があります。その場合、チェックインするテンプレートのコンテンツ情報ページを開き、そのテンプレート・タイプを更新する必要があります。

4. 指定が終わったら、「**Check In**」 をクリックして、テンプレート・ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。



**注意:** コンテンツのコンテンツ・サーバーへのチェックインの詳細は、『Content Server ユーザー・ガイド』を参照してください。

変換テンプレート



# 5

## GUI テンプレート

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [GUI テンプレートの概要](#) (5-1 ページ)
- ❖ [テンプレート・エディタ](#) (5-2 ページ)
- ❖ [テンプレートの要素](#) (5-3 ページ)
- ❖ [サンプル GUI テンプレート](#) (5-5 ページ)
- ❖ [新規の GUI テンプレート・フォーム](#) (5-16 ページ)
- ❖ [「Edit Templates」 ページ](#) (5-17 ページ)
- ❖ [新規 GUI テンプレートの作成](#) (5-17 ページ)
- ❖ [既存の GUI テンプレートの編集](#) (5-18 ページ)
- ❖ [ワイヤレス GUI テンプレートの設計](#) (5-19 ページ)
- ❖ [スクリプト・テンプレートから GUI テンプレートへの移行](#) (5-20 ページ)

## GUI テンプレートの概要

---

GUI テンプレートは、XML (eXtensible Markup Language) で書かれ、Dynamic Converter テンプレート・エディタで使用するために設計されています。Dynamic Converter の新機能の多くは、GUI テンプレート用に設計されたものです。新しい GUI テンプレートを作成するときに、形式タイプとして HTML (従来の Web ブラウザの場合) または WML (モバイル機器の場合) を選択できます。

## テンプレート・エディタ

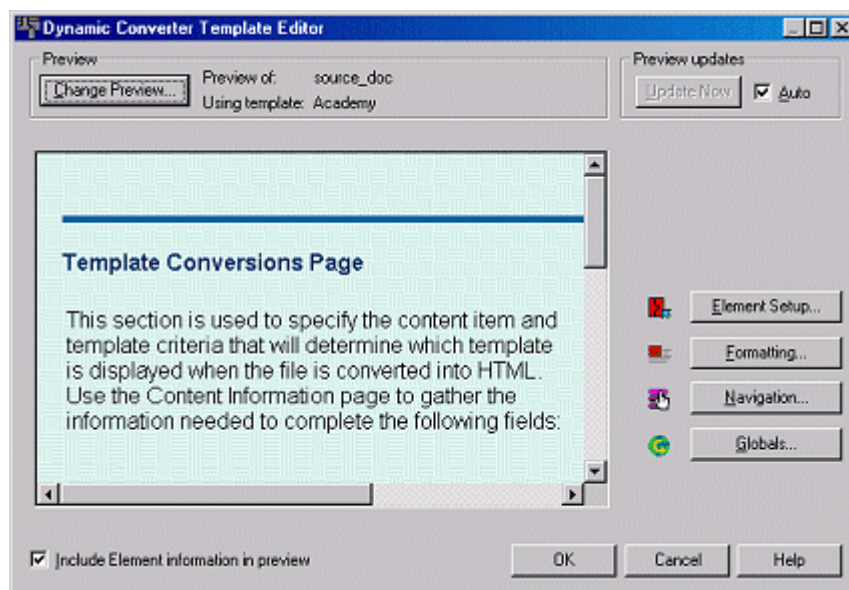
Dynamic Converter には、テンプレート・エディタが含まれています。これは、「[Edit Templates](#)」ページ (5-17 ページ) または「[Template Selection Rules](#)」ページ (3-2 ページ) で初めて「**Edit Template**」ボタンをクリックしたときに、クライアント・マシンにダウンロードされます。テンプレート・エディタは ActiveX コントロールであり、Internet Explorer 4.0 以上が存在する Microsoft Windows 上で実行する必要があります。テンプレート・エディタには、Dynamic Converter で使用可能な様々な GUI テンプレート設定を制御するためのグラフィカル・ユーザー・インタフェース (GUI) が用意されています。



**注意:** 旧リリースの Dynamic Converter テンプレート (リリース 6.0 より前) は、引き続き使用できますが、テンプレート・エディタでは開けません。スクリプト・テンプレートを GUI テンプレート形式に更新するには、5-20 ページの「[スクリプト・テンプレートから GUI テンプレートへの移行](#)」を参照してください。

認識された GUI テンプレートの名前を「[Edit Templates](#)」ページ (5-17 ページ) または「[Template Selection Rules](#)」ページ (3-2 ページ) で指定すると、「**Edit Template**」ボタンがアクティブになります。テンプレート・エディタを開くには、このボタンをクリックします。テンプレート・エディタには、テンプレート・プレビュー領域と、4 つの編集ボタン（「**Element Setup**」、「**Formatting**」、「**Navigation**」および「**Globals**」）があります。各ボタンをクリックすると、テンプレートの多数の設定が含まれるプロパティ・シートが開きます。設定はすべて、グラフィカル・ユーザー・インタフェースで編集できます。

図 5-1 Dynamic Converter Template Editor



Dynamic Converter を使用して Web ページに変換する予定の各ソース・ドキュメントには、個々の書式設定属性が含まれています。ソース・ドキュメントにスタイルを用意して、それらのスタイルを特定の書体やフォントに割り当てる場合があります。あるいは、各ソース・ドキュメント内で、コンテンツの書式を手動で設定する場合があります（たとえば、見出しが 14 ポイントの太字、小見出しが 12 ポイントのイタリックなど）。

Dynamic Converter 内の GUI テンプレートでは、どちらも認識できます。

GUI テンプレートとテンプレート・エディタでは、手動で書式設定されたドキュメントと同様にスタイルも認識できます。ソース・ドキュメントのこれら個々のパーツに要素が割り当てられると、テンプレート・エディタを使用して、それらの要素の外観や機能の変更を開始できます。ソース・ドキュメントが Web ページに変換される際に、最終的に Web ページの外観を制御するのは、テンプレートに格納された要素です。



**技術ヒント:** テンプレート・エディタには、非常に便利なスクリーンチップ機能が備わっています。この機能では、プレビュー・ドキュメント内のテキストの一部にカーソルを置くと、そのテキストに割り当てられている要素を確認できます。

テンプレート・エディタでの設定の多くは、単一の要素に適用されます。各要素の定義が増えれば増えるほど、変換された Web ページに対する制御力は大きくなります（すべてソース・ドキュメントに触れずに制御できます）。



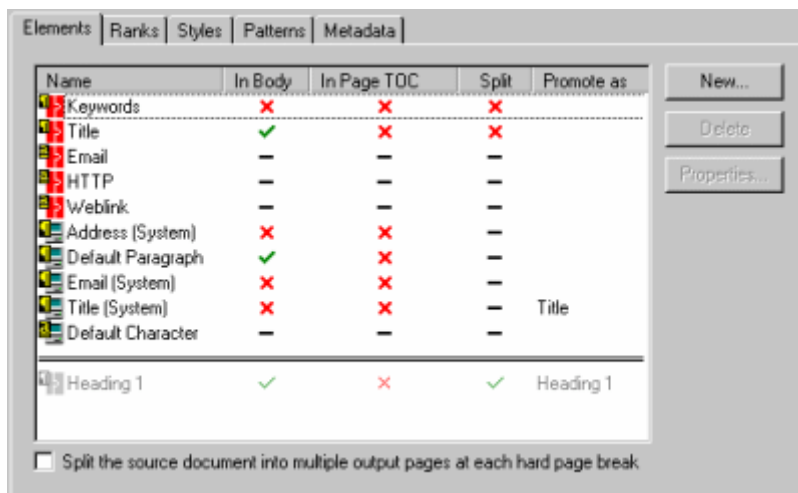
**注意:** テンプレート・エディタには独自の広範囲なヘルプ・システムが付属しており、テンプレート・エディタのユーザー・インタフェースから呼び出せます。

## テンプレートの要素

---

ほぼすべてのソース・ドキュメントには、タイトル、ヘッダー、本文があります。たいいてい、それぞれに独自のフォント・サイズと文字の太さが設定されています。テンプレート・エディタを使用すると、各テキストに独自の要素を割り当て、その情報を GUI テンプレートに保存できます。

図 5-2 テンプレート・エディタ内の要素



要素は、ランク、スタイルまたはパターンから作成されます。

- ❖ **ランク**：ドキュメントのコンテンツの構造をそのコンテンツの階層に基づいて識別するために、テンプレート・エディタで使用されます。ランクは、「Element Setup」でパターンとともに使用し、編集用にテンプレートを準備できます。
- ❖ **スタイル**：テキストがドキュメント内でどのように表示されるかを定義する、名前を割り当てられた一連の書式設定特性。スタイルを組み合わせ、スタイル・シートまたは Cascading Style Sheet (CSS) を構成できます。
- ❖ **パターン**：テンプレート・エディタで識別でき、要素と関連付けることのできる、ソース・ドキュメント内の一連のテキスト属性。手動で書式設定されたソース・ドキュメントの見出しが Arial、18 ポイント、太字である場合、これらの属性をパターンの基礎とし、このパターンを 1 つの要素に関連付けることができます。次に、この要素を使用して、このパターンに関連付けられたコンテンツの書式を設定できます。

ソース・ドキュメント内のスタイルは、変換の目的のために最も便利で管理しやすいものであることがわかります。そのようなものとして、まずスタイルをソース・ドキュメントに実装し、場合によってはコンテンツのコントリビュータにスタイル・シートを配布する必要があります。



**重要**：Dynamic Converter のテンプレートは、Content Publisher など、Content Server 関連のその他の製品と互換性があるように設計されています。Web 公開の参照ページに適用される機能は、Dynamic Converter では適用されず、機能しません（その例として、複数ソース・ドキュメントの目次の追加があります）。



**注意:** テンプレート・エディタには、個別の総合的なオンライン・ヘルプ・システムが含まれています（これはテンプレート・エディタとともにダウンロードされます）。テンプレート・エディタ内の各ダイアログ・ボックスやプロパティ・シートには、その機能を説明する「Help」ボタンが付いています。これらのトピックにアクセスするには、「Help」をクリックします。

## サンプル GUI テンプレート

---

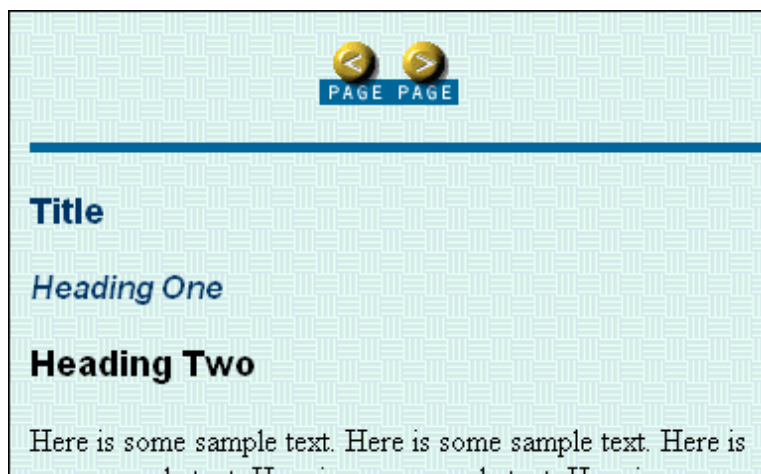
Dynamic Converter には、多数のサンプル GUI テンプレートが付属しており、これを Content Server にチェックインして、ただちにテンプレート・エディタでの使用を開始できます。サンプル GUI テンプレートは、  
[CS\_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/gui\_templates/ ディレクトリ ([CS\_Dir] は Content Server のインストール・ディレクトリ) にあります。

- ❖ [Academy](#) (5-6 ページ)
- ❖ [Acclaim CSS](#) (5-6 ページ)
- ❖ [Account](#) (5-7 ページ)
- ❖ [Adagio CSS](#) (5-7 ページ)
- ❖ [Administration](#) (5-8 ページ)
- ❖ [Analysis](#) (5-8 ページ)
- ❖ [Archive CSS](#) (5-9 ページ)
- ❖ [Blank](#) (5-9 ページ)
- ❖ [Business](#) (5-10 ページ)
- ❖ [Ceremonial](#) (5-10 ページ)
- ❖ [Courtesy](#) (5-11 ページ)
- ❖ [Executive](#) (5-11 ページ)
- ❖ [Introduction CSS](#) (5-12 ページ)
- ❖ [Lotus 1-2-3](#) (5-12 ページ)
- ❖ [Lotus Freelance](#) (5-13 ページ)
- ❖ [MS Excel](#) (5-13 ページ)
- ❖ [MS PowerPoint](#) (5-14 ページ)
- ❖ [Purple Frost](#) (5-14 ページ)

- ❖ [Retrofied! CSS](#) (5-15 ページ)
- ❖ [ワイヤレス GUI テンプレート](#) (5-15 ページ)

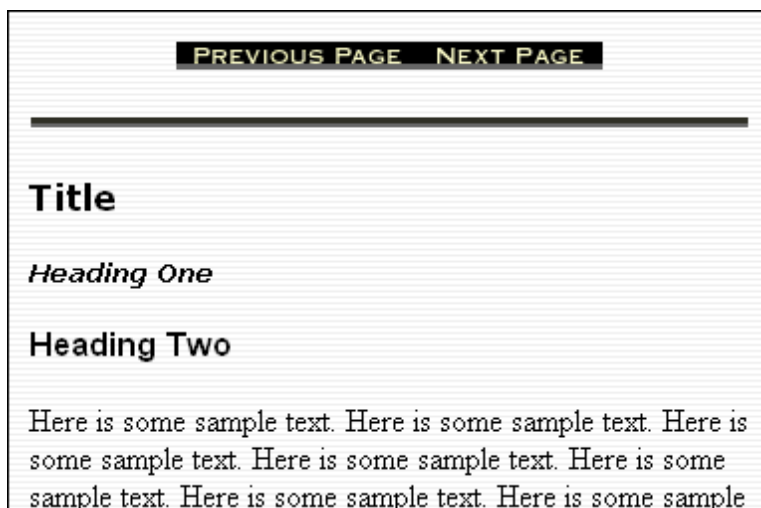
## Academy

---



## Acclaim CSS

---



## Account

[previous page](#) | [next page](#)

## Title

### Heading One

## Heading Two

Here is some sample text. Here is some sample text. Here is  
some sample text. Here is some sample text. Here is some  
sample text. Here is some sample text. Here is some sample  
text. Here is some sample text. Here is some sample text.  
Here is some sample text. Here is some sample text. Here is

## Adagio CSS

[Previous Page](#)    [Next Page](#)

---

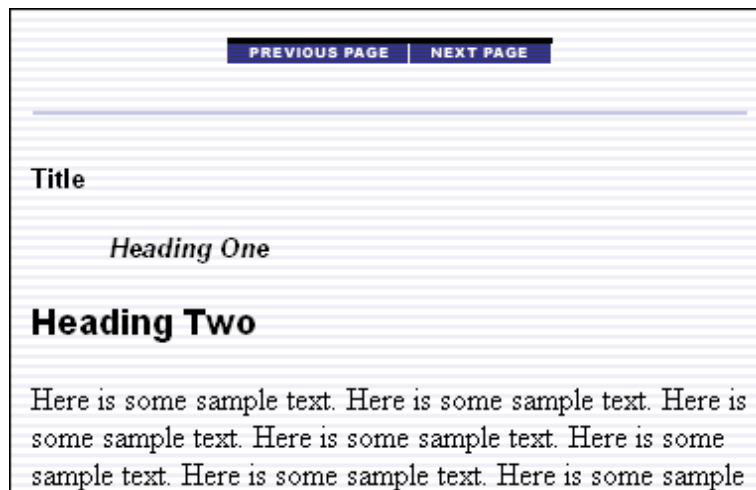
Title

*Heading One*

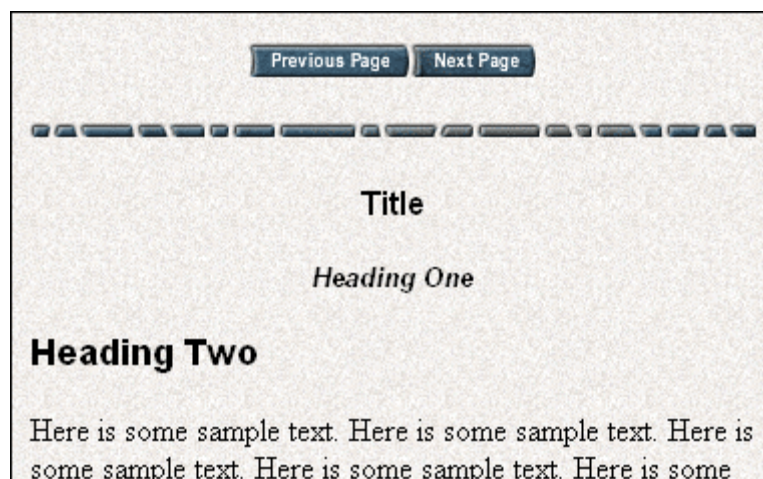
**Heading Two**

Here is some sample text. Here is some sample text. Here is  
some sample text. Here is some sample text. Here is some  
sample text. Here is some sample text. Here is some sample

## Administration



## Analysis

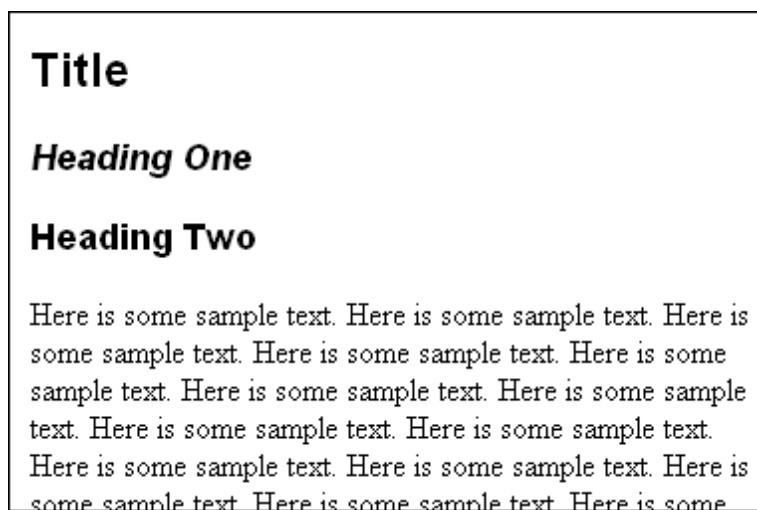




## Archive CSS



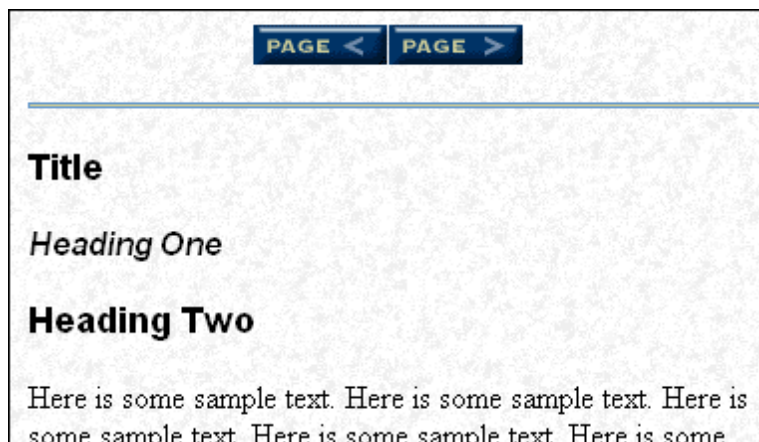
# Blank



**注意:** これはデフォルトのテンプレートです。

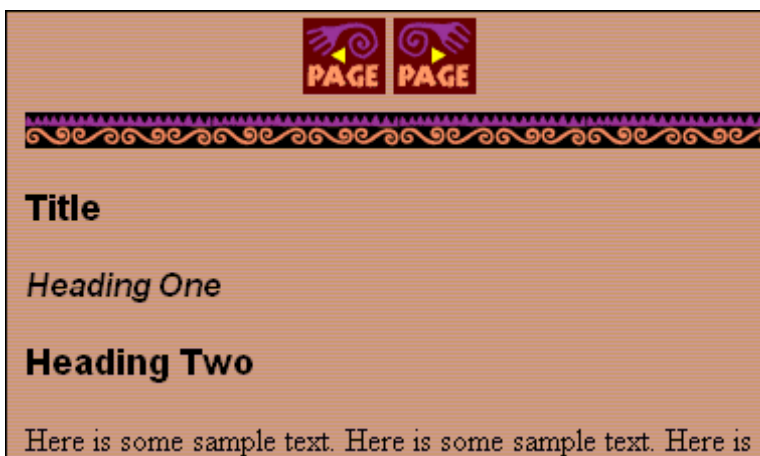
## Business

---



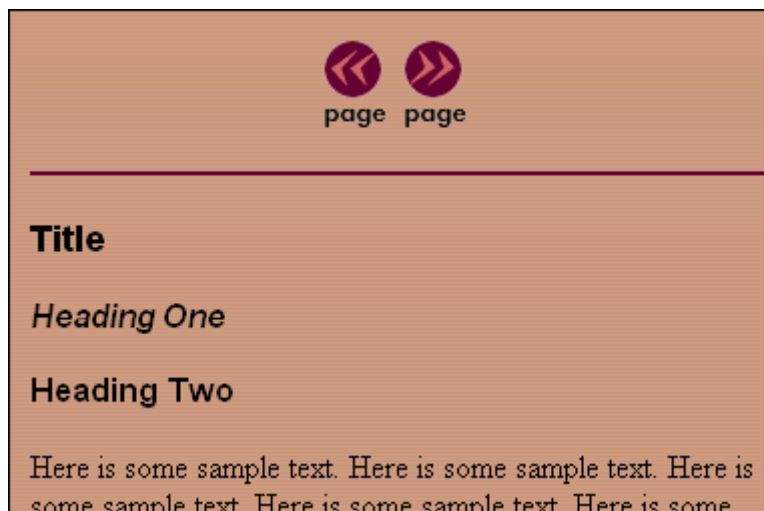
## Ceremonial

---



## Courtesy

---



## Executive

---



# Introduction CSS



## Lotus 1-2-3

PAGE
<
PAGE
>

---

Sheet1

70.55475	77.47401							
53.3424	1.401764							
57.95186	76.07236							

## Lotus Freelance

< PAGE		PAGE >					
70.55475	77.47401						
53.3424	1.401764						
57.95186	76.07236						
28.95625	81.44901						
22.1242	72.22272						

## MS Excel

[previous page](#) | [next page](#)

Title

---

*Heading One*

**Heading Two**

Here is some sample text. Here is some sample text. Here is  
some sample text. Here is some sample text. Here is some  
sample text. Here is some sample text. Here is some sample

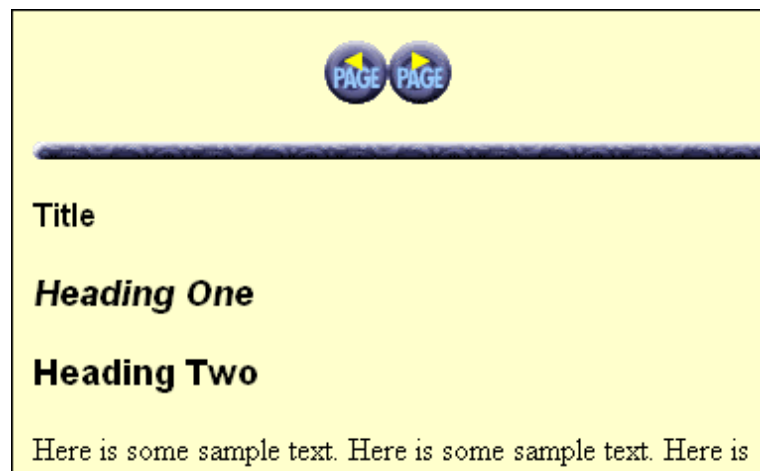
## MS PowerPoint

---



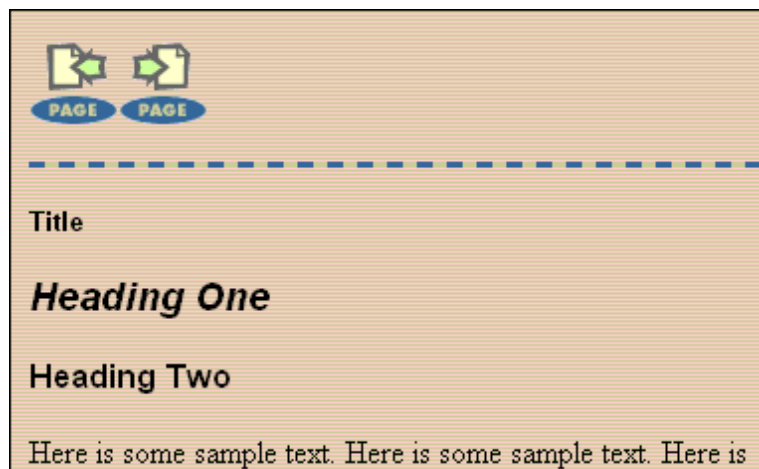
## Purple Frost

---



## Retrofied! CSS

---



## ワイヤレス GUI テンプレート

---

Dynamic Converter には次のワイヤレス GUI テンプレート・サンプルが用意されています。これらも `[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/gui_templates/` ディレクトリ (`[CS_Dir]` は Content Server インストール・ディレクトリ) にあります。

- ❖ Nokia (WAP 1.1)
- ❖ Nokia (WAP 1.2)
- ❖ Phone.com

これらの GUI テンプレートにより、最も人気のある携帯電話形式のいくつかで簡単に表示できるコンテンツが生成されます。

## 新規の GUI テンプレート・フォーム

このページを使用して、新規の GUI テンプレートをコンテンツ・サーバーにチェックインします。このページにアクセスするには、「[Dynamic Converter Admin](#)」ページ (1-13 ページ) の「**Create New Template**」リンクをクリックします。

図 5-3 新規の GUI テンプレート・フォーム

**Dynamic Converter New GUI Template Form**

Content ID:

Type:

Title:

Author:

Security Group:

Template Format: ☒ HTML ☐ WML

Revision:

Comments:

Template Type:

Release Date:

Expiration Date:

このページは、通常の Content Server チェックイン・フォームと非常に似ています。主な違いは、テンプレート形式を選択するオプション（標準ページ用の「HTML」、または携帯電話や PDA など、ワイヤレスの携帯機器用の「WML」と、追加された「Template Type」（「GUI Template」に事前設定済）です。



**注意:** コンテンツのコンテンツ・サーバーへのチェックインの詳細は、『Content Server ユーザー・ガイド』を参照してください。



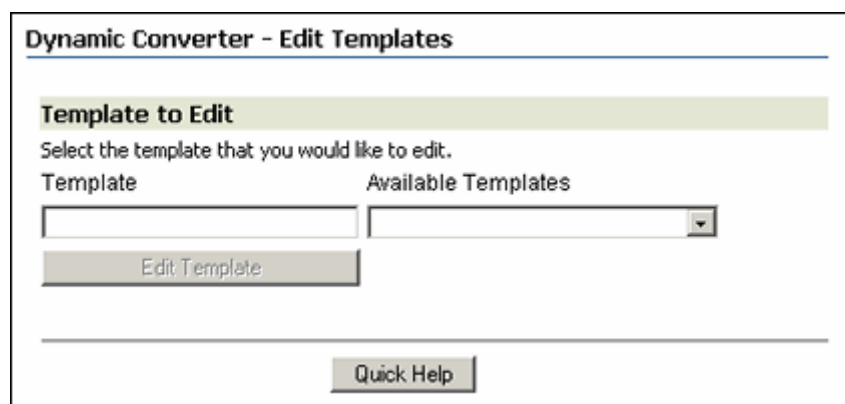
**技術ヒント:** GUI テンプレートをコンテンツ・サーバーにチェックインすると、[テンプレート・エディタ](#) (5-2 ページを参照) を使用して、GUI テンプレートを定義および編集できます。



## 「EDIT TEMPLATES」 ページ

このページを使用して、既存の GUI テンプレート（すでに [コンテンツ・サーバー](#) に [チェックイン](#) されている GUI テンプレート。5-16 ページを参照）を編集します。このページにアクセスするには、「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ（1-13 ページ）で「[Edit Existing Template](#)」をクリックします。

図 5-4 「Edit Templates」 ページ



既存の GUI テンプレートのコンテンツ ID を入力することも、もっと簡単にコンテンツ・サーバーの GUI テンプレートのリストからテンプレートを選択することもできます。



**注意：** 既知の GUI テンプレートが使用可能なテンプレートのリストに含まれていない場合、[コンテンツ・サーバーにチェックイン](#)（4-5 ページを参照）したときに、GUI テンプレート・[タイプ](#)に割り当てられなかったものと考えられます。その場合、チェックインしたテンプレートのコンテンツ情報ページを開き、そのテンプレート・タイプを更新する必要があります。

GUI テンプレートを指定すると、「[Edit Template](#)」ボタンが使用可能になります。このボタンをクリックすると、[テンプレート・エディタ](#)（5-2 ページを参照）が開き、GUI テンプレートを編集できます。



**注意：** テンプレート・エディタには独自の広範囲なヘルプ・システムが付属しており、テンプレート・エディタのユーザー・インタフェースから呼び出せます。

## 新規 GUI テンプレートの作成

新規 GUI テンプレートを作成するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ（1-13 ページ）を開きます。
2. 「[Create New Template](#)」をクリックします。

新規の [GUI テンプレート・フォーム](#) (5-16 ページ) が表示されます。

3. テンプレート形式 (「**HTML**」または「**WML**」) を選択します。  
WML は、携帯電話や PDA などのワイヤレスの携帯機器用に使用されます。
4. そのテンプレートに必要なその他すべてのメタデータを指定します。



**注意:** テンプレート・タイプは、すでに「**GUI Template**」に設定されています。

5. 指定が終わったら、「**Check In**」をクリックして、GUI テンプレート・ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインします。



**注意:** コンテンツのコンテンツ・サーバーへのチェックインの詳細は、『**Content Server ユーザー・ガイド**』を参照してください。

新規の GUI テンプレートをコンテンツ・サーバーにチェックインすると、[テンプレート・エディタ](#)を使用して、GUI テンプレートを[編集](#)できます (次の項を参照)。

## 既存の GUI テンプレートの編集

既存の GUI テンプレート (すでに[コンテンツ・サーバーにチェックイン](#)されている GUI テンプレート。5-16 ページを参照) を編集するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 [ページ](#) (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Edit Existing Template**」 をクリックします。  
[「Edit Templates」 ページ](#) (5-17 ページ) が表示されます。
3. 既存の GUI テンプレートのコンテンツ ID を入力するか、もっと簡単にコンテンツ・サーバーの GUI テンプレートのリストからテンプレートを選択します。



**注意:** 既知の GUI テンプレートが使用可能なテンプレートのリストに含まれていない場合、[コンテンツ・サーバーにチェックイン](#) (4-5 ページを参照) したときに、GUI テンプレート・タイプに割り当てられなかったものと考えられます。その場合、チェックインしたテンプレートのコンテンツ情報ページを開き、そのテンプレート・タイプを更新する必要があります。

4. 「**Edit Template**」 ボタンをクリックします。



**注意:** 「Edit Template」 ボタンは、既存のテンプレートの名前を指定するまで使用可能になりません。

[テンプレート・エディタ](#) (5-2 ページを参照) が起動します。以前にエディタを実行したことがない場合は、まずインストールして、いくつかのプロンプトを確認する必要があります。

これで、[テンプレート・エディタ](#)で GUI テンプレートを編集できます。



**注意:** テンプレート・エディタには独自の広範囲なヘルプ・システムが付属しており、テンプレート・エディタのユーザー・インタフェースから呼び出せます。



**注意:** 「[Template Selection Rules](#)」 ページ (3-2 ページ) から既存の GUI テンプレートを編集することもできます。

## ワイヤレス GUI テンプレートの設計

ワイヤレス・テンプレートは、携帯電話、携帯端末 (PDA)、その他の携帯機器で簡単に表示できるように、変換済コンテンツ・アイテムのコンパクトなビューを作成するために使用されます。ワイヤレス・テンプレートは、外出中にビジネスに不可欠な情報に素早くアクセスする必要のあるユーザーにとって、非常に便利であることがわかります。ワイヤレスに適したドキュメントを作成し配布するには、使用するテンプレートがモバイル機器の最新技術仕様に準拠していることを確認する必要があります。

コンテンツ・アイテムにワイヤレス・テンプレートを用意する場合は、GUI テンプレートを選択してから、形式タイプとして「**WML**」を選択できます。

次の GUI テンプレート (WML 形式を使用) が、サンプルとして用意されています。

- ❖ Nokia (WAP 1.1) .ttp
- ❖ Nokia (WAP 1.2) .ttp
- ❖ Phone.com.ttp

各テンプレートは、現在使用されている最も人気のあるモバイル機器のいくつかの技術仕様に準拠しています。これらのテンプレートの使用を開始し、ニーズに合わせてすぐにカスタマイズできます。これらのテンプレートにアクセスするには、Dynamic Converter のサンプル GUI テンプレート・ディレクトリ `[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/gui_templates/` を参照します。

### ワイヤレス変換テンプレートの実装

GUI テンプレートを WML 形式で使用する場合は、コンテンツ・タイプ (HTTP レスポンス・ヘッダーの一部) を Content Server によってドキュメントに関連付けられたデフォルトの値から変更して、そのテンプレートをカスタマイズする必要があります。

テンプレートでコンテンツ・タイプを変更するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ (1-13 ページを参照) を開きます。
2. 「**Edit Template**」 をクリックします。  
「[Edit Templates](#)」 ページ (5-17 ページ) が表示されます。

3. 「**Template**」テキスト・ボックスに必要なテンプレートのコンテンツ ID を入力するか、「**Available Templates**」ドロップダウン・メニューから選択します。
4. 「**Edit Template**」をクリックします。(認識された GUI テンプレートがテンプレート・テキスト・ボックスに入力されると、「Edit Template」ボタンがアクティブになります)。

テンプレート・エディタが起動します。

5. テンプレート・エディタで「**Globals**」をクリックします。
6. 「Globals」ダイアログで、「**Head**」タブをクリックします。
7. 「**Include WML before the first <card>**」タグをクリックします。
8. 「**Use the following**」をクリックして、用意されたテキスト・ボックスに、次のコードを入力します (text/vnd.wap.wml は、コンテンツ・タイプに固有)。  
`<$setContentType("text/vnd.wap.wml")$>`
9. 「**OK**」をクリックし、「Globals」ダイアログを閉じ、もう一度「**OK**」をクリックして、テンプレート・エディタを閉じます。



**重要:** デフォルトでは、Content Server により HTTP レスポンス・ヘッダーのコンテンツ・タイプは text/html に設定されます。ワイヤレス・コンテンツ・タイプを指定しないと、変換された WML ファイルは、モバイル機器で機能しません。

## スクリプト・テンプレートから GUI テンプレートへの移行

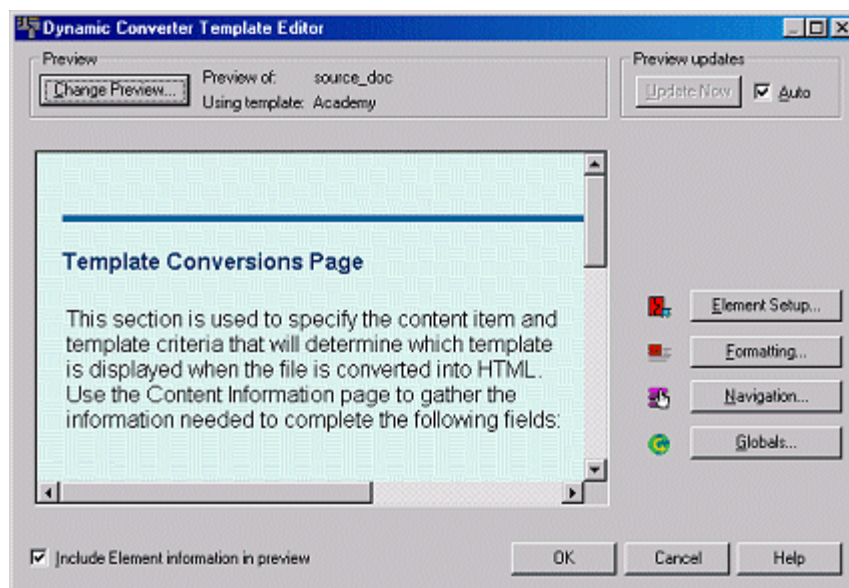
旧リリースの Dynamic Converter ではスクリプト・テンプレート (第7章を参照) は、要素、マクロ、プラグマ、索引および Idoc Script を含む手動でコード化されたテキスト・ファイルでした。基本のスクリプト・テンプレートは、次のようなものでした。

```
<HTML>
<BODY>
<P>Here is the document you requested.
{## INSERT ELEMENT=Property.Title} by
{## INSERT ELEMENT=Property.Author}
<P>Below is the document itself
{## INSERT ELEMENT=Body}
</BODY>
</HTML>
```

現在の Dynamic Converter では、GUI で操作するテンプレート・エディタ (5-2 ページを参照) で使用するよう設計された XML ベースの GUI テンプレートもサポートされるようになりました。

基本の GUI テンプレートは、テンプレート・エディタで次のように表示されます。

図 5-5 テンプレート・エディタ内の GUI テンプレート



これらの違いのため、以前のスクリプト・テンプレートから現行リリースの GUI テンプレートへの自動でアップグレードするプロセスはありません。ただし、お薦めできる移行パスがあります（次の項を参照）。これにより、Dynamic Converter で強力な GUI テンプレートの使用を開始できます。

## 旧テンプレートの更新

旧リリースの Dynamic Converter のスクリプト・テンプレートから GUI テンプレート形式へ更新するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ（1-13 ページを参照）を開きます。
2. 新規 GUI テンプレートを作成します。
3. 「Dynamic Converter Admin」 ページで「**Template Selection Rules**」をクリックします。  
「[Template Selection Rules](#)」 ページ（3-2 ページ）が表示されます。
4. 以前のテンプレート（スクリプト・テンプレート）に関連付けられたルールを強調表示し、「Template and layout for selected rule」領域までスクロール・ダウンします。



**注意:** 旧リリースの Dynamic Converter (リリース 6.1 より前) で作成されたルールは、このリリースの Dynamic Converter で番号付きのルールとして表示されます。このルールを引き続き使用することも、削除して Dynamic Converter 10g リリース 3 で再作成することもできます (ルールの名前は変更できません)。

Dynamic Converter で使用可能な追加のメタデータ・フィールドを使用して、以前のルールに割り当てられた基準を変更してもかまいません。3-8 ページの「[ルールへのメタデータ基準の割当て](#)」を参照してください。

5. 「**Available Templates**」 ドロップダウン・メニューから、手順 2 で作成した GUI テンプレートを選択します (テンプレートはコンテンツ ID でリスト表示されています)。
6. 「**Edit Template**」 をクリックして、テンプレート・エディタを開きます。
7. テンプレート・エディタで、「**Change Preview**」 をクリックして、テンプレートでプレビューするソース・ドキュメントを (コンテンツ ID で) 選択します。
8. [テンプレート・エディタ](#) を使用して、以前のスクリプト・テンプレートの設定を再作成します (5-2 ページを参照)。これは、おそらく移行プロセスで最も時間のかかる部分です。作業しながらテンプレートを比較できるように、もう 1 つブラウザを開いて、以前のテンプレートを使用していたドキュメントの動的な変換をプレビューできます。変更が終了したら、「**OK**」 をクリックしてテンプレート・エディタを閉じます。
9. 「**Layout**」 フィールドに、以前のスクリプト・テンプレートのコンテンツ ID を入力します (これにより、以前のスクリプト・テンプレートを、GUI テンプレートで使用するレイアウト・テンプレートに変換できます)。
10. 「**Update**」 をクリックして、新規の GUI テンプレートとレイアウト・テンプレートをテンプレート選択ルールに関連付けます。
11. コンテンツ・サーバーでレイアウト・テンプレート (以前のスクリプト・テンプレート) を検索し、それをチェックアウトして、テキスト・エディタで開きます。

次の変更を加えます。

- ❖ ファイルの一番上で、最初の <HTML> タグの前に次のトークンを挿入します。

```
<!--TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (TOP) -->
```

- ❖ HTML の <HEAD> タグの間に次のトークンを挿入します。

```
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (HEAD) -->
```

- ❖ HTML の <BODY> タグ内に次のトークンを挿入します。

```
%%TRANSIT-BODYATTRIBUTES%%
```

- ❖ 既存の **Insert Body Element** タグを次のトークンと置換します (このトークンは、以前の要素設定の大部分を置き換えます)。

```
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (BODY) -->
```

- ❖ 要素、マクロ、プラグマおよび索引に対するすべての参照を削除します。
- ❖ **Idoc Script** タグは所定の場所に残します（外部のフィールドまたはサービスを呼び出すタグ）。

12. 新規のレイアウト・テンプレートを保存し、それをコンテンツ・サーバーにチェックインします。



**注意:** スクリプト・テンプレートと異なり、コンテンツ・サーバー内のレイアウト・テンプレートには、HCST ファイル拡張子は必要ありません。

## (6.0 より前のリリースから) 新規に変換されたテンプレートのサンプル

以前の **Dynamic Converter** スクリプト・テンプレート（リリース 6.0 より前）を現行リリースの GUI テンプレートに更新するには、元のテンプレート設定を[テンプレート・エディタ](#)（5-2 ページを参照）で再作成し、以前のスクリプト・テンプレートをレイアウト・テンプレートに変換する必要があります。**Idoc Script** タグはすべて残すことができますが、[要素](#)、[マクロ](#)、[プラグマ](#)および[索引](#)の構文は削除する必要があります。これらの値は、テンプレートの[トークン](#)、特にテンプレート・エディタで作成された設定のほとんどすべてを示す `CUSTOMLAYOUT (BODY)` トークンに置き換えられます。

次の例では、旧リリースの **Dynamic Converter**（リリース 6.0 より前）で作成され、現行リリースのレイアウト・テンプレートに変換される非常に単純なスクリプト・テンプレートを示しています。もちろん、すべての要素の書式設定は、新しいテンプレート・エディタで再作成する必要があります。（太字テキストは、置換されるタグを示しています。）

### 元のスクリプト・テンプレート（例）

```
<html>
<head>
<title>
{## insert element=property.title suppress=tags}
</title>
<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>
<body>
<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>
<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="100%">
<tr><td>
{## INSERT ELEMENT=Property.Title}
</td></tr>
<tr><td>
{## INSERT ELEMENT=Body}
```

```
</td></tr>
</table>
<$include std_page_end$>
</body>
</html>
```

## 移行済のレイアウト・テンプレート（例）

```
<!--TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (TOP) -->
<html>
<head>
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (HEAD) -->
<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>
<body %%TRANSIT-BODYATTRIBUTES%%>
<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>
<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="100%">
<tr><td>
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (BODY) -->
</td></tr>
</table>
<$include std_page_end$>
</body>
</html>
```



# 6

## レイアウト・テンプレート

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [レイアウト・テンプレートの概要](#) (6-1 ページ)
- ❖ [レイアウト・テンプレートのコンテンツ](#) (6-3 ページ)
- ❖ [レイアウト・テンプレート内のトークン](#) (6-3 ページ)
- ❖ [サンプル・レイアウト・テンプレート](#) (6-4 ページ)
- ❖ [コンテンツ・アイテム用のレイアウト・テンプレートの作成](#) (6-7 ページ)
- ❖ [レイアウト・テンプレートのテンプレート・ルールとの関連付け](#) (6-7 ページ)
- ❖ [デフォルト・レイアウト・テンプレートの指定](#) (6-8 ページ)
- ❖ [レイアウト・テンプレートへのスクリプト、イメージおよび CSS の組み込み](#) (6-9 ページ)

## レイアウト・テンプレートの概要

---

レイアウト・テンプレートは、[GUI テンプレート](#) (第 5 章を参照) を補足するために使用します。レイアウト・テンプレートを使用すると、Web ページでのアイテム、特に変換されたドキュメントの外側の領域の配置を制御できます。共通の枠線、ナビゲーション、カスタム・スクリプト、その他をレイアウト・テンプレートに追加できます。レイアウト・テンプレートを使用して、変換済ドキュメントの周囲にハイパーリンクの共通セット (追加のリソースなど) を作成することも、Idoc Script のヘッダーおよびフッターのタグを使用して、ドキュメントの周囲にコンテンツ・サーバーのルック・アンド・フィールを維持することもできます。

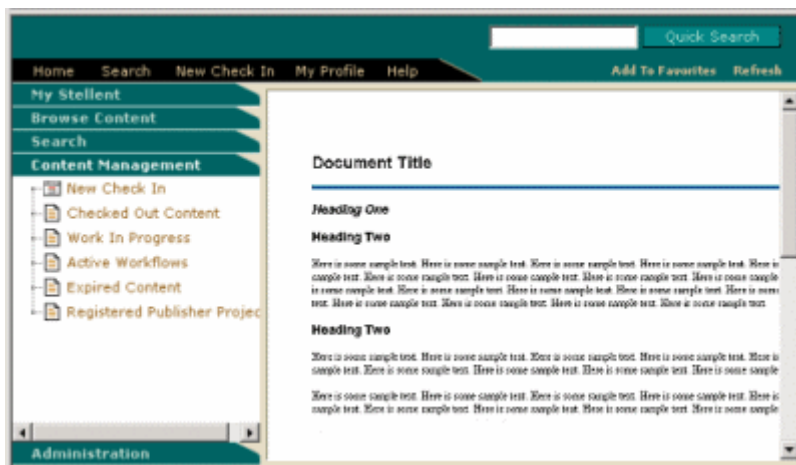
「[Template Selection Rules](#)」 ページ (3-2 ページ) でレイアウト・テンプレートを指定しない場合は、ユーザーが [Content Server インタフェース](#) で「(HTML)」リンクをクリックしたときに、変換済ドキュメントが Web ブラウザの画面領域全体を占めます。

図 6-1 レイアウト・テンプレートなしの変換済ドキュメント



default\_layout.txt サンプル ([CS\_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/gui\_layouts/ にあります。[CS\_Dir] は Content Server インストール・ディレクトリ) などのレイアウト・テンプレートを指定すると、コンテンツ・アイテムの周囲に一貫したルック・アンド・フィールを追加できます。

図 6-2 レイアウト・テンプレートを使用した変換済ドキュメント



# レイアウト・テンプレートのコンテンツ

---

典型的なレイアウト・テンプレートには、次の部分があります。

- ❖ HTML のトップおよびヘッドの情報
- ❖ HTML の表（ページ・レイアウトの制御に使用）
- ❖ テンプレート設定用の [トークン](#)（次の項を参照）
- ❖ Idoc Script コード（様々な目的用）

これらを併用すると、変換したドキュメントの外観を全体レベルで微調整でき、オンライン情報のルック・アンド・フィールが本格的で一貫したものになります。

## レイアウト・テンプレート内のトークン

---

トークンは、テンプレート・エディタで作成する GUI テンプレート設定用のプレースホルダまたは変数です。レイアウト・テンプレートは、変換済コンテンツの周囲でアイテムの配置を制御するために使用されます。GUI テンプレートの特定の TOP または HEAD 設定を含める必要がある場合（レイアウト・テンプレートは、しばしば GUI テンプレートとともに使用されることに留意してください）、通常は情報をレイアウト・テンプレート（HTML の TOP または HEAD タグ）にコピーして貼り付ける必要があります。トークンを使用すると、その領域を GUI テンプレートの設定用に予約できます。

次の 4 つのトークンを使用できます。

- ❖ **<!--TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(TOP)-->**  
このトークンは、レイアウト・テンプレートの一番上の、<HTML> タグの前に置きます。テンプレートでは、この値を HTML 宣言（W3C ドキュメント・タイプ識別子など）に置き換えることができます。
- ❖ **<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(HEAD) -->**  
このトークンは、<HEAD> タグの間に置きます。テンプレートでは、この値を Web ページのタイトル、メタ・タグ・キーワードなどに置き換えることができます。
- ❖ **%%TRANSIT-BODYATTRIBUTES%%**  
このトークンは、<BODY> タグ内に置きます。テンプレートでは、この値を背景色、文字色、ハイパーリンクの動作などに置き換えることができます。
- ❖ **<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(BODY) -->**  
このトークンは、Web ページ上で実際のコンテンツ・アイテムを表示する場所に置きます。これをレイアウト・テンプレートの中央のいずれかの場所に置きます。テンプレートでは、この値を各コンテンツ・アイテムに置き換えます。このトークンは、最小の HTML 出力を生成するために単独で使用して、コンテンツ・アイテムを別の Web ページに組み込むことができます。第 8 章「[HTML スニペット](#)」を参照してください。

## サンプル・レイアウト・テンプレート

Dynamic Converter には、多数のサンプル・レイアウト・テンプレートが付属しており、これを Content Server にチェックインして、ただちに使用を開始できます。サンプル・レイアウト・テンプレートは、`[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/gui_layouts/` ディレクトリ (`[CS_Dir]` は、Content Server インストール・ディレクトリ) にあります。

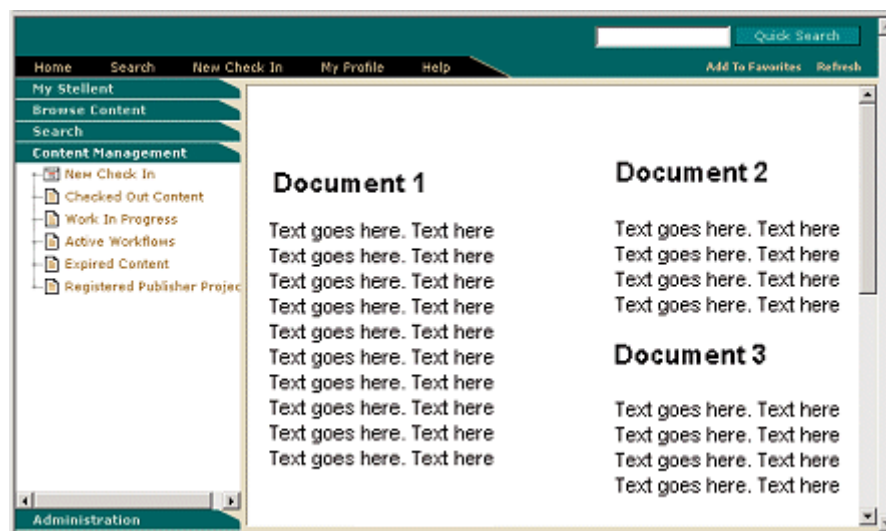
次のレイアウト・テンプレートを使用できます。

- ❖ [default\\_layout.txt](#) (6-4 ページ)
- ❖ [snippet\\_layout.txt](#) (6-5 ページ)

### default\_layout.txt

default\_layout.txt テンプレートでは、Idoc Script と HTML の表を使用して、変換済ドキュメントの周りに Content Server の枠線とナビゲーションを配します。

図 6-3 デフォルトのレイアウト



default\_layout.txt レイアウト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```
<html>
<head>
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (HEAD) -->
<${defaultPageTitle="Converted Content"}$>
<${include std_html_head_declarations}$>
</head>

<${include body_def}$>
<${include std_page_begin}$>
<${include std_header}$>

<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
<tr><td>

<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (BODY) -->

</td></tr>
</table>

<${include std_page_end}$>

</body>
</html>
```

## snippet\_layout.txt

---

snippet\_layout.txt テンプレートでは、top、head、または body の HTML マークアップなしに、単独で変換済ドキュメントを Web ページに配置します。結果は、レイアウト・テンプレートが関係付けられていない場合の結果に非常によく似ていますが、このコンテンツを別の Web ページ（場合によってはポータル・サイト）に HTML スニペットとして簡単に組み込むことができるという利点があります。

snippet\_layout.txt レイアウト・テンプレートは、次の 1 行のコードで構成されています。

```
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT (BODY) -->
```

これは、実際のコンテンツを Web ページに表示する [トークン](#) です。ここでは単独で使用されているため、別の Web ページまたは [HTML スニペット](#)（[第 8 章](#)を参照）に組み込むことのできる最小の HTML 出力が生成されます。

## スニペットのデモ

snippet\_demo.hcst サンプル ([CS\_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/ ディレクトリ) には、コンテンツ・サーバー内に格納されている他のコンテンツ・アイテムの情報 (HTML スニペット) を枠線とナビゲーションを保持しながら描画する、ポータルスタイルの Web ページの基本要素が含まれています。

snippet\_demo.hcst サンプルには、次のコードが含まれています。

```
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=iso-8859-1">
<title>This is my incDynConv script test page</title>
<meta name="GENERATOR" content="Dynamic Converter">
<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>

<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>

This is a sample page that shows how to include multiple snippets of dynamically<br>
converted content on a single page using the new Idoc function incDynamicConversion.

<table border="1" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
  <tr>
    <td>

<$incDynamicConversion("<source_contentID_1>","latest","<template_contentID_1>","snippet_la
yout")$>
    </td>
    <td>

<$incDynamicConversion("<source_contentID_2>","latest","<template_contentID_2>","snippet_la
yout")$>
    </td>
  </tr>
  <tr>
    <td colspan=2>

<$incDynamicConversion("<source_contentID_3>","latest","<template_contentID_3>","snippet_la
yout")$>
    </td>
  </tr>
</table>

<$include std_page_end$>

</body>
</html>
```

# コンテンツ・アイテム用のレイアウト・テンプレートの作成

レイアウト・テンプレートを作成するには、次のようにします。

1. 新規レイアウト・テンプレートをテキスト・エディタまたは WYSIWYG ツールで作成します。レイアウト・テンプレートのコンテンツについては、6-3 ページの「[レイアウト・テンプレートのコンテンツ](#)」を参照してください。



**技術ヒント**: Dynamic Converter には、起点として使用できるいくつかの[サンプル・レイアウト・テンプレート](#)が付属しています (6-4 ページを参照)。

2. 「[Dynamic Converter Admin](#)」ページ (1-13 ページ) を開きます。
3. 「[Check In Existing Template](#)」をクリックして、[既存テンプレートのチェックイン](#)手順に従います (4-5 ページを参照)。テンプレートとして必ず「[Layout Template](#)」を選択します。
4. 「[Dynamic Converter Admin](#)」ページに戻ります。
5. [レイアウト・テンプレートをテンプレート・ルールに関連付けます](#) (次の項を参照)。

## レイアウト・テンプレートのテンプレート・ルールとの関連付け

特定のレイアウト・テンプレートを「[Template Selection Rules](#)」ページ (3-2 ページを参照) でテンプレート・ルールに関連付けることができます。次の例では、default\_layout というテンプレート・サンプルが選択されています。

図 6-4 「Template Selection Rules」ページでのレイアウト・テンプレートの選択

Template and layout for selected rule		
Template	Available Templates	Template Types
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="Edit Template"/>		
Layout	Available Layouts	
<input type="text" value="default_layout"/>	<input type="text"/>	
<input type="button" value="Update"/> <input type="button" value="Quick Help"/>		

テンプレート・ルールにレイアウト・テンプレートを指定するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Template Selection Rules**」 をクリックします。  
「[Template Selection Rules](#)」 ページ (3-2 ページ) が表示されます。
3. レイアウト・テンプレートを指定する対象のルールを強調表示します。
4. 「**Layout**」 テキスト・ボックス (「**Template and layout for selected rule**」 見出しの下) に、レイアウトのコンテンツ ID を入力します。「**Available Layouts**」 ドロップダウン・メニューからレイアウト・テンプレートを選択することもできます。
5. ページの下部にある 「**Update**」 をクリックします。

## デフォルト・レイアウト・テンプレートの指定

レイアウト・テンプレートを特定のテンプレート・ルールに関連付ける (前の項を参照) ことに加えて、定義したテンプレート基準に一致しないすべてのコンテンツ・アイテムに適用されるデフォルト・レイアウトを指定することもできます。デフォルト・レイアウトは「[Dynamic Converter Configuration](#)」 ページ (2-1 ページ) で指定できます。次の例では、default\_layout というテンプレート・サンプルが選択されています。

図 6-5 「Dynamic Converter Configuration」 ページ上のデフォルト・レイアウト・テンプレート

The screenshot shows the 'Dynamic Converter Configuration' page. It has two main sections: 'Default Template' and 'Default Layout'. Each section has a text box for the name, a dropdown for 'Available' options, and a dropdown for 'Template Types' (only in the Default Template section). In the 'Default Template' section, the 'Template' field is empty, 'Available Templates' is empty, and 'Template Types' is set to 'GUI Template'. In the 'Default Layout' section, the 'Layout' field is empty and 'Available Layouts' is empty.

Dynamic Converter Configuration		
<b>Default Template</b>		
Template that will be used if none of the other selection rules match.		
Template	Available Templates	Template Types
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text" value="GUI Template"/>
<b>Default Layout</b>		
Layout that will be used if none of the other selection rules match.		
Layout	Available Layouts	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	

コンテンツ・アイテムと関連付けられたデフォルトのレイアウト・テンプレートを設定するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Configuration Settings**」 をクリックします。  
「[Dynamic Converter Configuration](#)」 ページ (2-1 ページ) が表示されます。



3. 「Default Layout」見出しの下にある「Layout」テキスト・ボックスに、レイアウト・テンプレートのコンテンツ ID を入力します。「Available Layouts」ドロップダウン・メニューから必要なレイアウト・テンプレートを選択することもできます。
4. ページの下部にある「Update」をクリックして、デフォルトのテンプレートを有効にします。

## レイアウト・テンプレートへのスクリプト、イメージおよび CSS の組み込み

コンテンツ・アイテムと関連付けるレイアウト・テンプレートには、カスタム・スクリプト、イメージ、Cascading Styles Sheet (CSS) など、他のファイルに対する参照が含まれている場合があります。実際に、旧リリースの Dynamic Converter で作成された [スクリプト・テンプレート](#) がいくつかある場合、それらのテンプレートから Idoc Script タグをコピーして、新規のレイアウト・テンプレートに貼り付けることができます。スクリプト・テンプレートの詳細は、[第7章](#)を参照してください。

組み込まれたファイルに使用する適切なパスの識別が困難な場合があります。メタデータが変わると、コンテンツ・サーバーにチェックインされた各コンテンツ・アイテムの場所が変わる可能性があるためです（メタデータによって最終的にコンテンツ・アイテムの URL が決定します）。そのため、新規のコンテンツ・アイテムのアドレスは、アイテムが割り当てられたメタデータとともにコンテンツ・サーバーにチェックインされるまでわかりません。

このタイプの環境では、相対パスはただちに問題になります。コンテンツ・サーバーのどこからでも機能するパスを使用する必要があります。解決策は、10-5 ページの「[テンプレートおよびレイアウト・ファイル内の相対 URL](#)」を参照してください。



**注意:** コンテンツ・アイテムにデフォルトのレイアウト・テンプレートを割り当てるには、2-10 ページの「[デフォルトの GUI テンプレートおよびレイアウト・テンプレートの設定](#)」を参照してください。旧リリースの Dynamic Converter（リリース 6 より前）では、デフォルト・レイアウトは、Content Server で構成変数として割り当てられていました。この設定は、「[Dynamic Converter Configuration](#)」ページ（2-1 ページ）でできるようになりました。



# 7

## スクリプト・テンプレート

### 概要

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [スクリプト・テンプレートの概要](#) (7-2 ページ)
- ❖ [要素](#) (7-3 ページ)
- ❖ [索引](#) (7-14 ページ)
- ❖ [マクロ](#) (7-17 ページ)
- ❖ [プラグマ](#) (7-46 ページ)
- ❖ [サンプル・スクリプト・テンプレート](#) (7-48 ページ)
- ❖ [スクリプト・テンプレートの書式設定オプションの設定](#) (7-61 ページ)
- ❖ [構造によるドキュメントの分割](#) (7-63 ページ)
- ❖ [コンテンツ・サイズによるドキュメントの分割](#) (7-66 ページ)
- ❖ [スプレッドシートおよびデータベース・ファイルをナビゲートするためのグリッドの使用](#) (7-69 ページ)

## スクリプト・テンプレートの概要

スクリプト・テンプレートは、テキストベースの変換テンプレートで、主に旧リリースの **Dynamic Converter** で使用されていました。プレーンテキスト・ファイルであるため、**要素**、**索引**、**マクロ**、**プラグマ**、**Idoc Script** を使用して手動でコード化する必要があります。このテンプレート形式は引き続き **Dynamic Converter** で使用できますが、スクリプト・テンプレートの大部分は **GUI テンプレート**（第 5 章を参照）で置き換えられています。



**注意:** **Idoc Script** の詳細は、**Content Server** の開発者ドキュメントを参照してください。

次の例は、非常に単純なスクリプト・テンプレートのコードです。

```
{## unit}{## header}
<html>
<body>
{## /header}
<p>Here is the document you requested.
{## insert element=property.title} by
{## insert element=property.author}</p>

<p>Below is the document itself</p>
{## insert element=body}

{## footer}
</body>
</html>
{## /footer}{## /unit}
```

**{## unit}**、**{## /unit}**、**{## header}**、**{## /header}**、**{## footer}** および **{## /footer}** マクロは、今のところ無視してかまいません。これらの目的については、7-17 ページの「**マクロ**」で説明しています。

ファイルの残りの部分は、**{## insert element=xxx}** 書式の 3 つのマクロを除いて、通常の HTML コードです。**Dynamic Converter** では、このテンプレートとソース・ファイルを使用して、出力を作成します。これを実行するために、**Dynamic Converter** ではテンプレート・ファイルを読み通し、テンプレート上でキャラクタ・マッピングが実行されない場合は、出力ファイルにテンプレート・ファイルをバイトごと書き込みます。これは、テンプレートに正しく書式設定されたマクロが含まれるまで続きます。**Dynamic Converter** によりマクロが読み取られ、マクロのコマンドが実行されます。通常、これは、ソース・ファイルのいくつかの要素の HTML バージョンを出力ファイルに挿入することを意味します。**Dynamic Converter** では、テンプレートの読取りとマクロの実行を、テンプレート・ファイルの最後に到達するまで続けます。

前述の例では、最初の **{## insert}** マクロで要素構文（7-20 ページを参照）を使用して、ドキュメントのタイトルを挿入します。2 番目のマクロはドキュメントの作成者を挿入

し、3 番目のマクロはドキュメントの本体を挿入します。結果として作成される HTML は、次のようになります（マクロの結果である HTML は**太字**の部分です）。

```
<html>
<body>
<p>Here is the document you requested.
A Poem by
Phil Boutros</p>

<p>Below is the document itself</p>
<p>Roses are red</p>
<p>Violets are blue</p>
<p>I'm a programmer</p>
<p>and so are you</p>

</body>
</html>
```

## 要素

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [要素ツリー](#)（7-3 ページ）
- ❖ [リーフ要素](#)（7-5 ページ）
- ❖ [反復可能要素](#)（7-5 ページ）
- ❖ [要素の定義](#)（7-5 ページ）

## 要素ツリー

---

Dynamic Converter では、要素ツリーの概念を使用して、ソース・ファイルの様々な要素および属性を個々にスクリプト・テンプレートからアドレス指定できるようにします。

要素ツリーのノードは、特定の要素へのパスを生成するために使用されます。このパスではピリオドを使用してノードを区切ります。たとえば、ドキュメントの作成者プロパティのパスは **Property.Author** です。

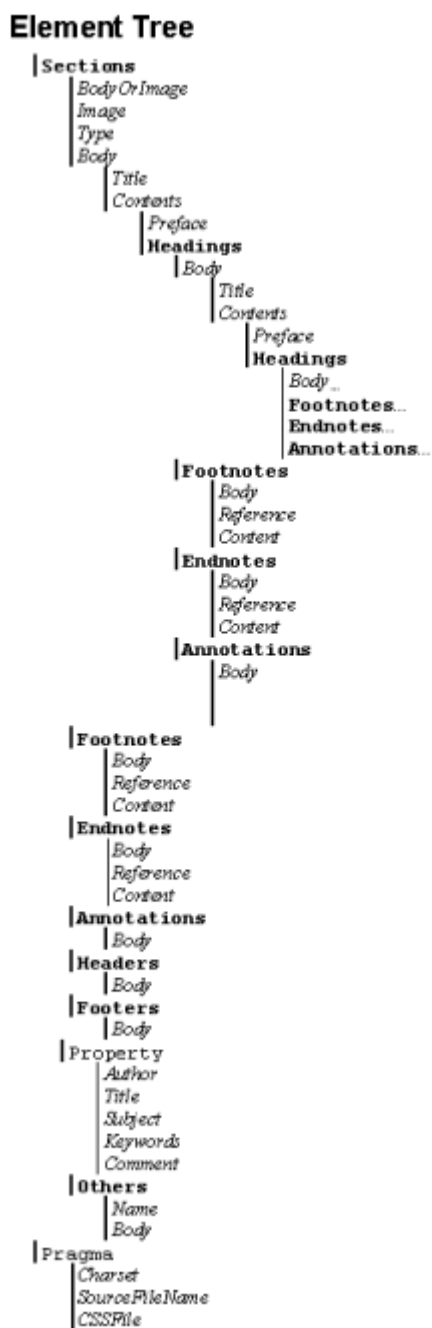
便宜上、要素パス内の一部のノードは、明らかなデフォルト動作を表すためにスキップされる場合があります。これらのノードには、**Sections** ノード（**Sections.Current.Body.Title** は **Body.Title** に相当）、**Body** および **Contents** ノード（**Body.Contents.Headings.1.Body** は **Headings.1.Body** に相当）が含まれます。



**重要：**これらのノードがパスの最後のノードである場合はスキップされません（**Heading.1.Body** は **Headings.1** に相当しません）。

要素ツリーには、[リーフ要素](#)と[反復可能要素](#)の2つのタイプの要素があります（次のページを参照）。

図 7-1 要素ツリーの例



## リーフ要素

リーフ要素は、作成者のプロパティ (Property.Author) またはドキュメントの前書き (Body.Contents.Preface) のような、ソース・ファイルの単一の識別可能な要素です。このタイプの要素は、{## INSERT}、{## IF} および {## LINK...} マクロを使用する挿入、テストおよびリンクの有効なターゲットです。このタイプのパスの最後のノードは、ドキュメント・ツリー内の有効なリーフ・ノードである必要があります。有効なリーフ・ノードは、[要素ツリーの例](#) (図 7-1) ではイタリックで示されています。

## 反復可能要素

反復可能要素には、ドキュメント内の脚注 (Sections.1.Footnotes) のように、関連付けられた複数のインスタンスがあります。このタイプの要素は、直接挿入、テストまたはリンクはできませんが、そのインスタンスを {## REPEAT} マクロを使用してループできます。このタイプのパスの最後のノードは、ドキュメント・ツリー内の有効な反復可能ノードである必要があります。有効な反復可能ノードは、[要素ツリーの例](#) (図 7-1) では太字で示されています。

一部のテンプレートでは、{## REPEAT} ループを使用して、反復可能要素ごとに 1 つの出力ファイルを生成します。たとえば、テンプレートでは、プレゼンテーション・ファイルを出力ファイルの集合として、スライドごとに 1 つの出力ファイルをレンダリングします。入力ファイルに非常に多数のセクションが含まれている場合、オペレーティング・システムでファイル・ハンドルが使い果される可能性があります。使用できるオープン・ファイル・ハンドルの数を確認するには、オペレーティング・システムのドキュメントを参照するか、システム管理者に問い合せてください。この非常にまれな問題を回避するには、{## REPEAT} マクロの maxreps 属性の値を設定するか、もっと多くのファイル・ハンドルが使用できるようにオペレーティング・システムを構成します。

## 要素の定義

次の表では、サポートされているすべての要素とそれぞれの簡単な説明を示しています (x の有効値の説明は、7-14 ページの「[索引](#)」を参照してください)。

要素	タイプ	説明
Property.Author	リーフ	ソース・ファイルの作成者プロパティ。
Property.Title	リーフ	ソース・ファイルのタイトル・プロパティ。
Property.Subject	リーフ	ソース・ファイルのサブジェクト・プロパティ。
Property.Keywords	リーフ	ソース・ファイルのキーワード・プロパティ。

要素	タイプ	説明
Property.Comments	リーフ	ソース・ファイルのコメント・プロパティ。
Property.Others	反復可能	<p>これにより、特に前述のプロパティ要素を介してアクセスできないすべてのプロパティへのアクセスが可能になります。また、これにはプロパティの <b>Name</b> と <b>Body</b> の両方が含まれます。どの <b>Other</b> プロパティがサポートされているかは、ファイル形式により異なります。一部のファイル形式では、ユーザーが定義できる追加のプロパティも使用できます。</p> <p> <b>注意:</b> テキスト・プロパティのみがアクセス可能です。Yes/No、数値および日付などのプロパティはサポートされていません。</p>
Property.Others.x.Name	リーフ	プロパティの説明的な名前。
Property.Others.x.Body	リーフ	プロパティのテキスト。
Sheets	反復可能	後述の <b>Sections</b> を参照。
Slides	反復可能	後述の <b>Sections</b> を参照。
Sections	反復可能	<p>ソース・ファイル内の最高レベルの抽象化を表すために使用されます。一般に、ワード・プロセッサのドキュメントは、1 セクション、つまりドキュメントそのものしかありません。スプレッドシートは、各シートまたはグラフが 1 セクションです。プレゼンテーションは、各スライドが 1 セクションです。画像は、一般に 1 セクションですが、複数ページの TIFF のように複数になる場合もあります。</p> <p>便宜上および読みやすさのため、<b>Sheets</b> と <b>Slides</b> は <b>Sections</b> と同義です。</p>





要素	タイプ	説明
Sections.x.Body	リーフ	<p>この要素は、ソース・ファイルのメインの本体領域です。ワード・プロセッサ文書の場合、この要素には、脚注、文末脚注、ヘッダー、フッターおよび注釈を除くドキュメント全体が含まれます（脚注参照 / 文末脚注の参照は、必ず本体中に自動的に含まれます）。テンプレートに脚注 / 文末脚注が含まれる場合、これらの参照が脚注へのリンクを提供します。注釈の参照は、テンプレートに注釈が含まれていないかぎり、本体には配置されません。注釈がテンプレートに含まれている場合は、注釈の参照が注釈へのリンクを提供します。</p> <p>スプレッドシートの場合、この要素には、シート全体が含まれます。</p> <p>画像の場合、この要素には、テキストとして実際に表示されるテキストがファイル形式で含まれます。</p>
Sections.x.Body.Title	リーフ	<p>ワード・プロセッサ文書の場合、この要素は、タイトル・スタイルでマークされたテキストです。これは、<b>Property.Title</b> とは異なる場合があります。その他すべてのタイプの場合、この要素はセクションの名前になります。たとえば、ソース・ファイルがスプレッドシートの場合、この要素は、スプレッドシート・アプリケーションのナビゲーション・タブに表示されるシートの名前になります。</p>
Sections.x.Body.Contents	リーフ	<p>ワード・プロセッサ文書の場合、この要素は <b>Sections.x.Body</b> と同じです。</p> <p>その他すべてのドキュメント・タイプの場合、この要素は本体からタイトルを除いたもの（タイトルがある場合）と同じです。</p>
Sections.x.Body.Contents.Preface	リーフ	本体の先頭と最初のヘッダーとの間のテキスト。
Sections.x.Body.Contents.Headings	反復可能	<p>ヘッダーは、ドキュメント構造を示すために作成者によって挿入されたワード・プロセッサ文書内のラベルです。ヘッダーの詳細は、7-63 ページの「<a href="#">構造によるドキュメントの分割</a>」を参照してください。Dynamic Converter ではこの構造を読み取り、Headings 要素を使用することで、アクセスできるようにします。</p>

要素	タイプ	説明
Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Body...	下に複数のリーフおよび反復可能要素を持つリーフ	各ヘッダーの下で、Body から下の完全なドキュメントの構造が繰り返されます。これらの要素がドキュメントの各部分にどのようにマップされるかは、7-63 ページの「 <a href="#">構造によるドキュメントの分割</a> 」を参照してください。
Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Footnotes...	下に複数のリーフを持つ反復可能	このヘッダーには脚注のみが含まれます。
Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Endnotes...	下に複数のリーフを持つ反復可能	このヘッダーには文末脚注のみが含まれます。
Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Annotations...	下に複数のリーフを持つ反復可能	このヘッダーには注釈のみが含まれます。
Sections.x.Grids	反復可能	スプレッドシートおよびデータベース形式にのみ有効です。この要素により、スプレッドシートまたはデータベース・ファイルのセクションまたはシート内のグリッドにアクセスできます。
Sections.x.Grids.x.Body	反復可能	スプレッドシートおよびデータベース形式にのみ有効です。この要素により、スプレッドシートまたはデータベース・ファイルのセクションまたはシート内のグリッドにアクセスできます。
Sections.x.Image	リーフ	この要素は、セクションのコンテンツのグラフィック・イメージを表します。ビットマップ、図形、グラフおよびプレゼンテーションのセクションにのみ有効です。
Sections.x.BodyOrImage	リーフ	この要素は、一連のセクション・タイプを処理するテンプレートの作成を容易にするためのものです。ワード・プロセッサ文書、スプレッドシートおよびデータベースのセクションでは、BodyOrImage は Body と同義です。ビットマップ、図形、グラフおよびプレゼンテーションのセクションでは、BodyOrImage は Image と同義です。

要素	タイプ	説明
Sections.x.Title	リーフ	Sections.x.Body.Title と同じ。ワード・プロセッサ文書の場合、この要素は、タイトル・スタイルでマークされたテキストです。これは、Property.Title とは異なる場合があります。その他すべてのタイプの場合、この要素はセクションの名前になります。たとえば、ソース・ファイルがスプレッドシートの場合、この要素は、スプレッドシート・アプリケーションのナビゲーション・タブに表示されるシートの名前になります。
Sections.x.Type	リーフ	この要素は、問合せのためにのみ存在します。{## IF...} マクロの ELEMENT でのみ有効です。  この要素は、通常問合せの目的にのみ使用されますが、挿入することもできます。この要素を {## IF} マクロで使用方法の詳細は、7-27 ページの「条件 : {## IF...}、{## ELSEIF...} および {## ELSE}」の項を参照してください。
Sections.x.Footnotes	反復可能	すべての脚注。
Sections.x.Footnotes.x.Body	リーフ	完全な脚注参照とコンテンツ・テキスト。
Sections.x.Footnotes.x.Reference	リーフ	脚注の参照番号。
Sections.x.Footnotes.x.Content	リーフ	脚注のコンテンツ・テキスト。
Sections.x.Footnotes	反復可能	すべての脚注。
Sections.x.Endnotes.x.Body	下に複数のリーフを持つ反復可能	完全な文末脚注参照とコンテンツ・テキスト。
Sections.x.Endnotes.x.Reference	下に複数のリーフを持つ反復可能	文末脚注の参照番号。
Sections.x.Endnotes.x.Content	下に複数のリーフを持つ反復可能	文末脚注のコンテンツ・テキスト。
Sections.x.Annotations	反復可能	すべての注釈。

要素	タイプ	説明
Sections.x.Annotations.x.Body	リーフ	完全な注釈参照とコンテンツ・テキスト。
Sections.x.Annotations.x.Reference	リーフ	注釈の参照テキスト。
Sections.x.Annotations.x.Content	リーフ	注釈のコンテンツ・テキスト。
Sections.x.Slidenotes	反復可能	すべてのスライド・ノート。  <b>注意:</b> スライド・ノートの変換は、PowerPoint ファイルの変換プロセスの速度を落とします。
Sections.x.Slidenotes.x.Body	リーフ	現行スライドのノート。  <b>注意:</b> パフォーマンス上の理由から、スライド・ノートは出力ファイルの最後書き込むことをお勧めします (PowerPoint ファイルでは、スライド・ノートは、各スライドの次ではなく、ファイルの最後に保持されます)。そうしない場合、入力ファイルで過度の検索を実行することになり、変換が遅くなります。
Sections.x.Headers	反復可能	すべてのヘッダー。
Sections.x.Headers.x.Body	リーフ	ヘッダーのテキスト。
Sections.x.Footers	反復可能	すべてのフッター。
Sections.x.Footers.x.Body	リーフ	フッターのテキスト。

要素	タイプ	説明
Pragma.Charset	リーフ	<p>Dynamic Converter が生成する文字のキャラクタ・セットと関連付けられた HTML テキスト文字列。Dynamic Converter で、生成する HTML にキャラクタ・セットを正しくコーディングするには、すべてのテンプレートに {## INSERT} マクロを次のように使用する META タグを含める必要があります。</p> <pre>&lt;META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset={## INSERT ELEMENT=pragma.charset}"&gt;</pre> <p>テンプレートにこの行が含まれていない場合、ユーザーがブラウザで正しいキャラクタ・セットを手動で選択する必要があります。</p>
Pragma.SourceFileName	リーフ	<p>変換されるソース・ドキュメントの名前。これにはパス名が含まれないことに注意してください。</p>
Pragma.CSSFile	リーフ	<p>この要素は、Cascading Style Sheet (CSS) ファイルの名前を HTML ドキュメントに挿入するために使用します。この名前は、通常、Dynamic Converter で生成される CSS ファイルに含まれるスタイルを参照するために、HTML の &lt;LINK&gt; タグとともに使用されます。</p> <p>{## INSERT} マクロで使用すると、このプラグマは作成される CSS ファイルの URL を生成します。このマクロは、ソース・ファイルのコンテンツを挿入するすべてのテンプレート・ファイル内で、選択した HTML フレーバが CSS をサポートしている場合に、{## INSERT} とともに使用する必要があります。CSS ファイルは、選択した HTML フレーバで CSS がサポートされている場合にのみ作成されます。</p> <p>{## IF} マクロで使用する場合は、選択した HTML フレーバで Cascading Style Sheet がサポートされていれば、条件は true になります。</p>

要素	タイプ	説明
Pragma.CSSFile (続き)		<p> <b>注意:</b> CSS が出力に必要な場合、  <code>{## IF element=pragma.embeddedcss}</code> または  <code>{## IF element=pragma.cssfile}</code> を使用します。しかし、Dynamic Converter では 2 つの区別をしません。埋込み CSS を使用するか外部の CSS を使用するかは作成者が選択でき、出力で 2 つを混在させることもできるからです。</p> <p>HTML の CSS または非 CSS フレーバのいずれかをエクスポートするときに機能するこのプラグマの使用例は、次のようになります。</p> <pre>{## IF ELEMENT=Pragma.CSSFile} &lt;LINK REL=STYLESHEET HREF="{## INSERT ELEMENT=Pragma.CSSFile}"&gt; &lt;/LINK&gt; {## /IF}</pre>
Pragma.EmbeddedCSS	リーフ	<p>この要素は、ドキュメントの &lt;HEAD&gt; の単一ブロックに CSS スタイルの定義を挿入するために使用します。</p> <p><code>{## INSERT}</code> マクロで使用する場合、このプラグマにより、ファイルで後から使用するために必要な CSS スタイル定義のブロックが挿入されます。このマクロは、ドキュメント・コンテンツを挿入するために <code>{## INSERT}</code> が使用されるすべての出力 HTML ファイルで使用する必要があります。</p> <p><code>{## IF}</code> マクロで使用する場合は、選択した HTML フレーバで CSS がサポートされていれば、条件は <code>true</code> になります。</p> <p> <b>注意:</b> CSS が出力に必要な場合、  <code>{## IF element=pragma.embeddedcss}</code> または  <code>{## IF element=pragma.cssfile}</code> を使用します。しかし、Dynamic Converter では 2 つの区別をしません。埋込み CSS を使用するか外部の CSS を使用するかは作成者が選択でき、出力で 2 つを混在させることもできるからです。</p>

要素	タイプ	説明
Pragma.EmbeddedCSS (続き)		<p>入力ドキュメントのどこかでスタイルが使用される場合、そのスタイルは、入力ファイルに対して生成されるすべての出力 HTML ファイル用に生成される埋込み CSS 内に示されます。出力を複数の HTML ファイルに分割するテンプレートを考えてみます。この例では、入力ファイルに MyStyle スタイルが含まれています。変換中に実際に MyStyle スタイルを参照する出力 HTML ファイルが 1 つのみでも問題ありません。その場合にも、MyStyle スタイルの定義は、このスタイルをまったく参照していないファイルも含めたすべての出力ファイルの埋込み CSS 内に示されます。</p>
Pragma.JsFile	リーフ	<p>この要素は、JavaScript ファイルの名前を HTML ドキュメントに挿入するために使用します。この名前は、通常、HTML Export で生成される .js ファイルに含まれる JavaScript を参照するために、HTML の &lt;SCRIPT&gt; タグとともに使用されます。</p> <p>{## INSERT} マクロで使用すると、このプラグマは作成される JavaScript ファイルの URL を生成します。このマクロは、ソース・ファイルのコンテンツを挿入するすべてのテンプレート・ファイル内で、次の場合に {## INSERT} とともに使用する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選択した HTML フレーバで JavaScript がサポートされている。</li> <li>2. javaScriptTabs オプションが true に設定されている。</li> </ol> <p>JavaScript ファイルは、選択した HTML フレーバで JavaScript がサポートされている場合にのみ作成されます。</p> <p>{## IF} マクロで使用する場合、選択した HTML フレーバで JavaScript がサポートされているかどうかによって、条件は異なります。</p>

# 索引

---

反復可能ノードには、エクスポート・プロセスの任意の時点での現行値を持つ索引変数が関連付けられています。パスの一部として反復可能ノードが含まれる要素の場合、反復可能要素のインスタンスは、数値、または索引変数キーワードの1つを使用して指定します。

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [索引変数キーワード](#) (7-14 ページ)
- ❖ [プレゼンテーションでのスライドごとの HTML ファイル・セットの作成](#) (7-17 ページ)

## 索引変数キーワード

---

この索引に使用可能な値 (7-5 ページの「[要素の定義](#)」では x として参照) は、次のとおりです。

- ❖ [整数](#) (7-14 ページ)
- ❖ [Current、Next、Previous、First および Last](#) (7-15 ページ)
- ❖ [Up、Down、Left および Right](#) (7-16 ページ)

## 整数

数値の場合、数は単にパス内の別のノードとして挿入されます。



**注意:** Dynamic Converter の索引は、1 (0 ではない) からカウントが始まります。

たとえば、`Slides.1.Image` は、プレゼンテーション内の最初のスライドを参照し、`Footnotes.2.Body` は、ドキュメント内の 2 番目の脚注を参照します。

テンプレートが適用されるドキュメント内に要素があることが保証できない場合、要素を明示的に参照しないでください。たとえば、`Sections.4.Body` を参照すると、4 セクション未満のドキュメントでは予期しない動作が発生する可能性があります。



**注意:** 存在しない要素をリクエストしても、Dynamic Converter ではエラーは発生しません。挿入は単に無視されます。ただし、挿入の周囲の他の HTML が挿入の結果に依存する場合、出力は無効な HTML になる可能性があります。



## Current、Next、Previous、First および Last

`current`、`next`、`previous`、`first` および `last` のキーワードは見た目のとおりです。スクリプト・テンプレートが処理される時、これらの変数は適切な索引値に置き換えられます。たとえば、`Slides.Current.Image` は現行スライドを参照し、`Slides.Next.Image` は次のスライドを参照します。

`next` および `previous` は、これまでの Dynamic Converter の場合と同様に、索引の値を変更しません。結果として、索引が変更される場所は、`{## REPEAT}` ループ内のみで、`{## LINK}` 文の結果としてです。

### {## REPEAT...}

任意の反復可能要素の索引変数の初期値は通常 1 です。`{## REPEAT}` ループの場合、索引の値は反復ごとに増加します。`{## REPEAT}` ループの終了により、カウンタは初期値にリセットされます。実際には、索引の有効範囲は繰返しループという方が正確です。

次のテンプレート・フラグメントでは、繰返しループで `current` を使用し、ソース・ファイル内のすべての脚注を出力します。

```
{## REPEAT element=footnotes}
{## INSERT element=footnotes.current.body}
{## /REPEAT}
```

繰返し文を含むテンプレートが、繰返し要素として使用される要素を指定する `{## link}` 文のターゲットの場合、索引の初期値は `{## LINK}` 処理によって決まります。

### {## LINK...}

`{## LINK}` 文は、現行テンプレートのコンテキストで索引変数に影響を与えません。`{## LINK}` 文は、要素とテンプレートの両方が指定されているときにのみ索引変数に影響を与えます。この場合、指定した要素のターゲット内の索引変数のみが影響を受けます。

`{## LINK}` で指定された要素に `next` または `previous` キーワードが含まれている場合、ターゲット・ファイル内の `current` の値が影響を受けます。ターゲット内の `current` の初期値は、`next` の場合は（ソースの `current`）+1 の値になります。同様に、`previous` には、`current` の値を減らす効果があります。

次の例では、単一のテンプレート・ファイルと、一連の HTML ファイル（プレゼンテーション内のスライドごとに 1 つ）を作成する `{## link}` マクロを使用します。`{## link}` は、HTML ファイルの生成を促し、ナビゲーションのために `next` リンクを提供するという 2 つのジョブを実行します。次のスライドがあるかどうかを確認する `{## if}` マクロ内の `next` キーワードの使用に注意してください。

```
{## unit}
<html>
<body>
<!-- insert the current slide -->
{## insert element=slides.current.image width=300}
<hr />
<!-- Is there a next slide? -->
{## if element=slides.next.image}
  <!-- If yes, generate a URL to an HTML file containing
        the next slide. The HTML file is generated using
        the current template (because there is no template
        attribute). While generating the new HTML file, the
        value of the index on slides will be its current
        value plus 1 once control returns to this template,
        the value of the index on slides is unchanged. -->
  <p><a href="{## link element=
slides.next.image}">Next</a></p>
{## else}
  <!-- If no, create a link to the HTML containing the
        first slide. -->
  <p><a href="{## link element=
slides.1.image}">First</a></p>
{## /if}
</body>
</html>
{## /unit}
```

## Up、Down、Left および Right

前述の索引変数キーワードに加えて、反復可能グリッド要素には、さらに4つのキーワードがあります。

- ❖ Up
- ❖ Down
- ❖ Left
- ❖ Right

これらのキーワードは、ドキュメント・ツリーの **Grids** ノードの直後にのみ出現します。たとえば、**Grids.Up.Body** は有効ですが、**Sections.Left.Grids.1.Body** は無効です。これらのキーワードのそれ以外の使用法は見た目のとおりです。

個々のグリッドは、互いに対してのみアドレス指定可能であることにも注意してください。すなわち、**up** グリッドを指定することはできますが、任意にグリッドを直接指定すること ("5,7" など) はできません。

## プレゼンテーションでのスライドごとの HTML ファイル・セットの作成

---

次の例では、単一のスクリプト・テンプレート・ファイルと、一連の HTML ファイル（プレゼンテーション内のスライドごとに 1 つ）を作成する `{## LINK...}` マクロを使用します。`{## Link...}` は、HTML ファイルの生成を促し、ナビゲーションのために `next` リンクを提供するという 2 つのジョブを実行します。次のスライドがあるかどうかを確認する `{## IF...}` マクロ内の `Next` キーワードの使用に注意してください。

```
<html>
<body>
<!-- Insert the current slide -->
{## INSERT ELEMENT=Slides.Current.Image WIDTH=300}
<hr />
<!-- Is there a next slide? -->
{## IF ELEMENT=Slides.Next.Image}
<!-- If yes, generate a URL to an HTML file containing the next slide. The HTML file is
generated using the current template (because there is no TEMPLATE attribute). While
generating the new HTML file, the value of the index on Slides is its current value plus 1
once control returns to this template, the value of the index on Slides is unchanged. -->
<p><a href="{## LINK ELEMENT=Slides.Next.Image}">Next</a></p>
{## ELSE}
<!-- If no, create a link to the HTML containing the first slide. -->
<p><a href="{## LINK ELEMENT=Slides.1.Image}">First</a></p>
{## /IF}
</body>
</html>
```

## マクロ

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [マクロの概要](#) (7-18 ページ)
- ❖ [単位: {## UNIT}、{## HEADER} および {## FOOTER}](#) (7-19 ページ)
- ❖ [要素の挿入: {## INSERT}](#) (7-20 ページ)
- ❖ [条件: {## IF...}、{## ELSEIF...} および {## ELSE}](#) (7-27 ページ)
- ❖ [ループ: {## REPEAT}](#) (7-29 ページ)
- ❖ [構造化ブレイクとのリンク: {## LINK}](#) (7-30 ページ)
- ❖ [コンテンツ・サイズ・ブレイクとのリンク: {## ANCHOR}](#) (7-34 ページ)
- ❖ [出力ファイルに挿入するコメント: {## IGNORE}](#) (7-36 ページ)
- ❖ [出力ファイルに挿入しないコメント: {## COMMENT}](#) (7-37 ページ)
- ❖ [その他テンプレートの組込み: {## INCLUDE}](#) (7-37 ページ)

- ❖ [テンプレート内でのオプションの設定: {## OPTION}](#) (7-38 ページ)
- ❖ [ファイルのコピー: {## COPY}](#) (7-44 ページ)

## マクロの概要

---

マクロは、スクリプト・テンプレート内の **Dynamic Converter** に対するコマンドです。HTML タグと似ていますが、タグが通常 HTML ファイル内で従うルール of のいずれにも拘束されません。マクロは、別のマクロ内を除き、スクリプト・テンプレート・ファイル内のどこにでも出現可能です。

ドキュメントや例では、マクロの構成要素は、常に空白で区切られて示されます。ただし、セミコロンでも区切ることができます。このオプションは、特定の HTML エディタに対応するために追加されました。一部のエディタでは、ダイアログ・ボックスに入力された URL には、引用符の付いていない空白は使用できません。このため、このような状況では、**{## LINK}** マクロの使用は困難または不可能でした。

たとえば、**{## INSERT ELEMENT=Sections.1.Body}** は、**{##;INSERT;ELEMENT=Sections.1.Body}** と書けます。

テンプレートのマクロ文字列のパラメータおよびオプションが、**sprintf** スタイルのエスケープ文字をサポートしていることに注意してください。つまり、**\x22**、**\r**、**%%** などの文字がサポートされています。また、大部分のテンプレート属性値には引用符が付いています。例外はテンプレート要素文字列で、現時点では引用符が付いていません。

次に例を示します。

```
{## ANCHOR aref="next" format="<a href=\"%url\">Next</a><br/>\r\n"}
```

## 単位 : {## UNIT}、{## HEADER} および {## FOOTER}

---

テンプレート・ファイルで {## UNIT} マクロを使用する場合、このマクロは、テンプレート・ファイルで最初のマクロにする必要があります。これは、各単位の初めと終わりを区切ります。単位の境界は、[コンテンツのサイズに基づいてブレイク](#)するときに、ドキュメントをブレイクする箇所を決定する際に使用されます（7-66 ページを参照）。

1 単位は、1 つのヘッダー、1 つのフッター（どちらもオプション）および 1 つの本体（空でもかまいません）で構成されています。必ずヘッダーがテンプレート内の最初のアイテムになり、フッターが最後のアイテムになるように、{## UNIT} タグと {## HEADER} タグの間のテキストと、{## /FOOTER} タグと {## /UNIT} タグの間のテキストは、空白も含め無視されます。単位のヘッダーおよびフッターは、その単位を含むどのページにも出力され、特定のページにはめ込むことのできる単位の本体の部分を囲みます。テンプレート全体が、追加の単位を含めることができる 1 つの単位です。

### 構文

```
{## UNIT [BREAK]}
  [{## HEADER}
    any HTML
  {## /HEADER}]

  any HTML

  [{## FOOTER}
    any HTML
  {## /FOOTER}]
{## /UNIT}
Attributes
BREAK
```

属性	説明
BREAK	<p>このオプション属性は、単位のコテンツを挿入する前に改ページを強制します。そうしない場合、最初のページの本体は空になります。この属性が役に立つ状況には、ドキュメントの各セクション間で改ページを強制する場合（1 ページ当たりのプレゼンテーション・スライドを 1 つにするため）などがあります。</p> <p>{## UNIT} マクロとその BREAK 属性は、SCCOPT_EX_PAGESIZEpagesize がゼロに設定されている場合、無視されます。</p> <p>同じページ上に配置するテキストの中央で改ページが発生しないようにすることが重要な場合があります。このような改ページの発生を防ぐには、同じページに配置する必要のあるテキストを {## UNIT}{## HEADER} ペアで囲みます。たとえば、リンクの作成中に改ページが発生しないようにするため、テンプレートの作成者が次のように記述する場合があります。</p> <pre>{## unit}{## header} &lt;a href="{## link element=sections.current.body}"&gt;Link&lt;/a&gt; {## /header}{## /unit}</pre>

## 要素の挿入 : {## INSERT}


このマクロは、ソース・ファイルの要素を現在の場所で出力ファイルに挿入します。

### 構文

```
{## INSERT [ELEMENT=element [WIDTH=width] [HEIGHT=height] [SUPPRESS=suppress]
[TRUNCATE=truncate]] | [NUMBER=number] [URLENCODE]}
```

属性	説明
ELEMENT	<p>この属性は、ソース・ファイルのどの部分が、マクロの場所で出力ファイルに配置されるかを説明します。この属性に指定できる値については、7-5 ページの「<a href="#">要素の定義</a>」を参照してください。この属性の値が要素ツリーにない場合、Dynamic Converter ではカスタム要素であるとみなされ、EX_CALLBACK_ID_PROCESSELEMENTSTR コールバックが呼び出されます。</p> <p>例 : {## INSERT ELEMENT=Sections.1.Body}</p>

属性	説明
WIDTH	<p>このオプション属性は、挿入される要素の幅をピクセル単位で定義します。現在のところは <b>Image</b> 要素に対してのみ有効です。</p> <p>WIDTH 属性がなく、HEIGHT 属性が指定されている場合、イメージの幅は、要素の形に基づいて自動的に計算されます。WIDTH 属性と HEIGHT 属性のどちらも存在しない場合、イメージの元の寸法が使用されます。イメージの元の寸法が不明の場合、デフォルトでは HEIGHT と WIDTH を 200 とみなします。</p> <p>例：{## INSERT ELEMENT=Slides.1.Image WIDTH=400}</p>
HEIGHT	<p>このオプション属性は、挿入される要素の高さをピクセル単位で定義します。現在のところは <b>Image</b> 要素に対してのみ有効です。</p> <p>HEIGHT 属性がなく、WIDTH 属性が指定されている場合、イメージの高さは、要素の形に基づいて自動的に計算されます。</p> <p>例：{## INSERT ELEMENT=Slides.1.Image HEIGHT=400}</p>

属性	説明
SUPPRESS	<p>このオプション属性を使用すると、特定の物が出力されないようにすることができます。これは、HTML が適切でない状況で、要素を挿入する必要がある場合に非常に役に立ちます (Java アプレットや ActiveX コントロールへの情報の受渡し、またはフォームの部品への値の移入など)。指定可能な値は次のとおりです。</p> <p><b>TAGS:</b> 要素の出力から HTML タグがすべて削除されますが、テキストには &amp;quot; や &amp;#123; のような HTML 文字コードが残っていてもかまいません。</p> <p> <b>注意:</b> プレゼンテーションや画像ファイルなどの埋込みでない画像の場合、変換済画像の URL は抑止されません。ただし、通常 URL を囲む &lt;img&gt; タグは抑止されます。</p> <p>ワード・プロセッシング・セクションやスプレッド・シートにあるような埋込み画像の場合、URL と &lt;IMG&gt; タグの両方が抑止されます。結果として生じる変換済埋込み画像にアクセスする方法がないため、画像の変換は行われません。</p> <p>例:</p> <pre>&lt;form method="POST"&gt; &lt;input type="text" size="20" name="Author" value="{## INSERT ELEMENT=Property.Author SUPPRESS=TAGS}"&gt; &lt;/form&gt;</pre> <p><b>BOOKMARKS:</b> 挿入されたセクション内のすべてのブックマークを無効にします。ブックマークは、他のテンプレート要素がリンクできるように、自動的に挿入された多くの要素の前に置かれます。SUPPRESS=BOOKMARKS は、ネストされた &lt;a&gt; タグによる問題を防ぐために用意されています。これは、SUPPRESS=TAGS によって発生する抑止動作のサブセットを表すことに注意してください。</p>



属性	説明
SUPPRESS (続き)	<p><b>INVALIDXMLTAGCHARS:</b> 出力から、XML タグ名で使用できないすべての文字を削除します。これは、テンプレート作成者が、カスタム・ドキュメント・プロパティ名を山形カッコ (&lt;と&gt;) 内に <b>{## INSERT}</b> で挿入して、XML タグを作成できるようにするためのものです。Unicode の大部分の文字およびそのサブセットのキャラクタ・セットは、XML タグ名の一部として使用できます。無効な文字には、ライン・フィードやキャリッジ・リターンなどの制御文字が含まれます。さらに、どの文字をタグ名の最初の文字にできるかという特別ルールがあります。</p> <p>例：</p> <pre>{## REPEAT Sections.Property.Others} &lt;{## INSERT ELEMENT=Property.Others.Current.Name SUPPRESS=InvalidXMLTagChars}&gt; &lt;{## INSERT ELEMENT=Property.Others.Current.Body SUPPRESS=InvalidXMLTagChars}&gt; &lt;/{## INSERT ELEMENT=Property.Others.Current.Name SUPPRESS=InvalidXMLTagChars}&gt; {/## REPEAT}</pre> <p>この結果は次のようになります。</p> <pre>&lt;MyProperty&gt;PropertyValue&lt;/MyProperty&gt;</pre>

属性	説明
TRUNCATE	<p>この属性を設定すると、挿入要素に対して文字の最大長が強制されます。これにより、ページ・サイズ・オプションが使用されている場合、ページをまたいで要素を分割するのではなく、切り捨てることができます。切り捨てられた要素は、切捨て識別子である 3 つのピリオド (...) で終了します。切捨て値のある要素はすべて、切捨て識別子の長さを含めて、指定した文字数以下の長さになります。</p> <p><b>Dynamic Converter</b> では、切捨てサイズが指定されていない場合、要素は完全な状態で挿入されます。この属性の値は、5 文字以上にする必要があります。</p> <p>要素の切捨てが役立つ状況の例としては、目次の作成時にエントリのサイズを制限する場合があります。</p> <p>TRUNCATE 属性は、挿入のタグが抑止されることを意味します。また、挿入に対してソースなしの書式設定オプションが自動的に適用されます。</p> <p>TRUNCATE 属性は、カスタム要素と一緒に使用できないことに注意してください。これは、カスタム要素定義では、{## INSERT} に対するその他の属性が排除されるからです。</p> <p>TRUNCATE 属性には、グリッドが挿入されときの動作に 3 つの特別な面があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 切捨てが有効な場合、切捨てサイズは、各セル内のコンテンツの文字数であり、グリッド全体の文字数ではありません。</li> <li>2. 切捨てでは、通常、すべてのマークアップ・タグが抑止されますが、グリッドを使用している場合は、(出力フレーバが表をサポートしていれば) 表タブは保持されます。</li> <li>3. ユーザーは、挿入されるスプレッド・シートまたはデータベースごとに、1 つしかグリッド・サイズを選択できない点に注意されます。グリッドの寸法の 1 つまたは両方が指定されておらず、SCCOPT_EX_PAGESIZE オプションが使用されている場合、グリッドのサイズは、部分的に TRUNCATE 値に基づいて決まります。この場合に、単一シートのグリッドがテンプレート内の複数箇所に挿入され、異なる TRUNCATE 値があると、グリッドの寸法は指定された最大の TRUNCATE 値に基づいて決まります。</li> </ol>

属性	説明
NUMBER	<p>この属性を使用すると、開発者は、任意の反復可能要素のインスタンス合计数または現行索引値を取得できます。これは、JavaScript、BasicScript などを書くときに非常に便利です。2 つの特殊キーワードは、要素ツリーには表示されませんが、次の特別な場合には、ノードとして使用できます。</p> <p><b>Count および CountB0:</b> 繰返し要素に追加され、NUMBER 属性とともに使用される場合、開発者はこれらのノードを使用し、指定された反復可能要素のインスタンス数のテキスト表現を挿入できます。Count は最初の索引を 1 と想定したカウントを、CountB0 は最初の索引を 0 と想定したカウントを示します。</p> <p>例: プレゼンテーションに 3 つのスライドがある場合のテンプレート・フラグメント</p> <pre>&lt;P&gt;{## INSERT NUMBER=Slides.Count} &lt;P&gt;{## INSERT NUMBER=Slides.CountB0}</pre> <p>次のテキストが作成されます。</p> <pre>&lt;P&gt;3 &lt;P&gt;2</pre> <p><b>Value および ValueB0:</b> 繰返し要素に追加され、NUMBER 属性とともに使用される場合、開発者はこれらのノードを使用し、指定された反復可能要素の現行索引値のテキスト表現を挿入できます。Value は最初の索引を 1 と想定したカウントを、ValueB0 は最初の索引を 0 と想定したカウントを示します。</p> <p>例: スライド上の索引の現行値が 2 の場合のテンプレート・フラグメント</p> <pre>&lt;P&gt;{## INSERT NUMBER=Slides.Current.Value} &lt;P&gt;{## INSERT NUMBER=Slides.Current.ValueB0}</pre> <p>次のテキストが作成されます。</p> <pre>&lt;P&gt;2 &lt;P&gt;1</pre>

属性	説明
URLENCODE	<p>このオプション属性により、挿入された要素は URL エンコードされます。ファイル名を含む挿入の一部として指定されないかぎり、これは無視されます。次の要素は URL エンコード可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• pragma.sourcefilename</li> <li>• pragma.cssfile</li> <li>• pragma.embeddedcss</li> <li>• pragma.jsfile</li> </ul> <p>さらに、次の要素は、セクション・タイプが Archive または AR の場合に URL エンコードされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• sections.x.fullname</li> <li>• sections.x.basename</li> <li>• sections.x.body</li> <li>• sections.x.title</li> <li>• sections.x.reflink</li> </ul> <p>他のすべての {## INSERT} タグの場合、この属性は無視されます。そのように、Dynamic Converter では、変換される入力ドキュメントに由来する URL が変更されないことに注意する必要があります。これらの URL は、引き続きそのままの形でパススルーされます。この属性は、URL が EX_CALLBACK_ID_CREATENEWFILE コールバックを使用して作成された場合も無視されます。このような URL は、すでに URL エンコードされたものとみなされます。</p>

## プロパティの挿入

ドキュメント内でのプロパティの特殊な使用方法のために、プロパティ文字列は、他の {## INSERT} マクロの機能とは多少異なる方法で、出力 HTML に挿入されます。

プロパティは常に、SCCOPT\_NO\_SOURCEFORMATTING オプションが設定されたかのように挿入されます。これにより、改行などの書式設定文字に対するプロパティ文字列の干渉を防ぎます。

プロパティは常に、スクリプト・テンプレートで Suppress=Tags が指定されたかのように挿入されます。これにより、プロパティ文字列がどのように表示されるかを最大限制御できます。

## 条件：{## IF...}、{## ELSEIF...} および {## ELSE}

このマクロを使用すると、ソース・ファイルの要素に関する情報に基づいて、スクリプト・テンプレートの 1 領域を使用できます。

### 構文

```
{## IF ELEMENT=element [CONDITION=Exists|NotExists]
[VALUE=value]}
    any HTML
{## /IF}
```

#### または

```
{## IF ELEMENT=element [[CONDITION=Exists|NotExists] |
[VALUE=value]]}
    any HTML
{## ELSE}
    any HTML
{## /IF}
```

#### または

```
{## IF ELEMENT=element [[CONDITION=Exists|NotExists] |
[VALUE=value]]}
    any HTML
{## ELSEIF ELEMENT=element [[CONDITION=Exists|NotExists] |
[VALUE=value]]}
    any HTML
{## ELSE}
    any HTML
{## /IF}
```



**注意：**複数の {## ELSEIF} 文は、{## IF} の後で使用できます。さらに、{## ELSEIF} を使用する場合、{## ELSE} は不要です。

属性	説明
ELEMENT	この属性は、ソース・ファイルのどの部分がテストされるかを説明します。この属性に指定できる値については、7-5 ページの「 <a href="#">要素の定義</a> 」を参照してください。CONDITION 属性と VALUE 属性のどちらも存在しない場合、要素の存在がテストされます。

属性	説明
CONDITION	要素でテストされる条件を定義します。指定可能な値は EXISTS と NOTEXISTS です。
VALUE	<p>要素に対してテストする必要がある値を定義します。VALUE 属性は、ソース・ファイルのセクションのタイプのテストについて、現在のところは Sections.x.Type 要素に対してのみ有効です。</p> <p>指定可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ar = アーカイブ</li> <li>• bm = ビットマップ</li> <li>• ch = グラフ</li> <li>• db = データベース</li> <li>• dr = 図面</li> <li>• mm = マルチメディア</li> <li>• pr = プレゼンテーション</li> <li>• ss = スプレッドシート</li> <li>• wp = ワード・プロセッサ文書</li> </ul> <p>例：</p> <pre> {## if element=property.comment} &lt;p&gt;&lt;b&gt;Comment property exists&lt;/b&gt;&lt;/p&gt; {## else} &lt;p&gt;&lt;i&gt;Comment property does not exist&lt;/i&gt;&lt;/p&gt; {## /if} {## if element=sections.1.type value=wp} &lt;p&gt;&lt;b&gt;The source file is a word processor file&lt;/b&gt;&lt;/p&gt; {## /if} {## if element=sections.1.type value=ss} &lt;p&gt;Spreadsheet&lt;/p&gt; {## elseif element=sections.1.type value=ar} &lt;p&gt;Archive&lt;/p&gt; {## elseif element=sections.1.type value=ch} &lt;p&gt;Chart&lt;/p&gt; </pre>

属性	説明
VALUE (続き)	<pre> {## else} &lt;p&gt;Not ss, ar, or ch&lt;/p&gt; {## /if} {## if element=sections.current.type value=pr condition=notexists} &lt;p&gt;We can do something here for all document types other than presentations.&lt;/p&gt; {## else} &lt;p&gt;This is used only for presentations.&lt;/p&gt; {## /if} </pre>

## ループ: {## REPEAT}

このコマンドを使用すると、スクリプト・テンプレートの 1 領域を、要素の出現ごとに 1 回繰り返すことができます。

### 構文

```

{## REPEAT ELEMENT=element [MAXREPS=maxreps] [SORT=sort]}
    any HTML
{## /REPEAT}

```

属性	説明
ELEMENT	<p>この属性は、ソース・ファイルのどの部分が繰り返されるかを説明します。その部分は、反復可能要素であることが必要です。この属性に指定できる値については、7-5 ページの「<a href="#">要素の定義</a>」を参照してください。</p> <p>どの HTML も、{## REPEAT...} マクロとその終了 {## /REPEAT} マクロの間で定義できます。この HTML は、指定した要素のインスタンスごとに 1 回繰り返されます。さらに、<b>Current</b> の語は、繰り返される要素の要素索引として他の {##} タグ内で使用できます。たとえば、テンプレート内の次の HTML は、ドキュメント内で脚注のリストを作成します。</p>

属性	説明
ELEMENT (続き)	<p>例:</p> <pre>&lt;HTML&gt; &lt;BODY&gt; &lt;P&gt;Here are the footnotes {## REPEAT ELEMENT=Footnotes} &lt;P&gt;{## INSERT ELEMENT=Footnotes.Current.Body} {## /REP} &lt;P&gt;No more footnotes &lt;/BODY&gt; &lt;/HTML&gt;</pre> <p>同様に、テンプレート内の次の HTML は、アーカイブ内のすべてのアイテムの名前を挿入します。</p> <pre>{## repeat element=sections}   {## insert element=sections.current.fullname} {## /repeat}</pre>
MAXREPS	この属性は、指定した値に対して繰り返し文が実行するループの合計数を制限します。非常に大きいドキュメントで、過剰な量の出力が生成されないようにするために役立ちます。
SORT	<p>このオプション属性は、出力をソートするかどうかを定義します。入力ファイルが <b>arctype</b> ファイルのアーカイブ・ファイルではない場合、この属性は無視されます。すべてのソートは、入力ファイル内の値の文字エンコーディングに基づいて実行されます。この時点では、ソートで大 / 小文字の区別もされます。ソート属性の有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>fullname:</b> Sections.Current.FullName でソート</li> <li>• <b>basename:</b> Sections.Current.BaseName でソート</li> <li>• <b>none:</b> ソートなし。これがデフォルトです。</li> </ul>

## 構造化ブレイクとのリンク : {## LINK}

このマクロは、Dynamic Converter によって作成されたドキュメントの要素への相対 URL を生成します。通常、この URL は、テンプレートによって、リンクを作成する HTML アンカー・タグでカプセル化されます。{## LINK} は、{## REPEAT} ループ内で使用すると、特に効果的です。



## 構文

```
{## LINK ELEMENT=element [TOP]}
```

または

```
{## LINK TEMPLATE=template}
```

または

```
{## LINK ELEMENT=element TEMPLATE=template [TOP]}
```

属性	説明
ELEMENT	<p>リンクのターゲットである要素を定義します。{## LINK...} マクロで生成される URL は、出力ファイル内のこの要素の最初のインスタンスを指します。この属性が存在しない場合、生成された URL は、指定したスクリプト・テンプレートで作成された出力ファイルにリンクします。そのようなファイルが存在しない場合、指定したスクリプト・テンプレートがファイルの生成に使用されます。</p> <p>各要素には 1 つ以上の索引値があり、そのいくつかは変数である可能性があることに留意してください。このタイプの索引変数の例は、Sections.Current.Body の current です。{## LINK} を使用すると、それらの索引変数の値に影響を及ぼし、リンクされたテンプレート・ファイルの動作に微妙な副作用が生じる可能性があります。</p> <p>{## LINK} が挿入された要素にどのように影響を与えるかについては、7-14 ページの「<a href="#">索引</a>」を参照してください。</p>
TEMPLATE	<p>元のテンプレート・ファイルと同じディレクトリに存在する必要があるテンプレート・ファイルの名前。この属性が存在しない場合、現行テンプレートが使用されます。{## LINK} で要素が指定された場合、テンプレートにはその要素を使用する {## INSERT} 文が含まれている必要があります。</p> <p>テンプレートの言語では、通常、大 / 小文字は区別されませんが、ここで指定されたテンプレート・ファイル名では大 / 小文字の区別が重要であることに注意してください。テンプレートに指定されたファイル名は、そのままの形でオペレーティング・システムに渡されます。UNIX などのオペレーティング・システムでは、テンプレート・ファイル名の大 / 小文字を間違えて指定すると、テンプレート・ファイルは見つからず、エラーが返されます。</p>

属性	説明
TOP	この属性は、要素が {## LINK} コマンドで指定される場合のみ意味を持ちます。この属性が存在すると、生成される URL にはブックマークが含まれません。したがって、生成されるリンクでは常に、指定された要素を含む HTML ファイルの上部にジャンプします。これは、スクリプト・テンプレートの上部に、開発者がユーザーに表示しようとするナビゲーションまたはその他の情報がある場合に便利です。

## {## LINK} の使用状況

この項の冒頭に示した最初の構文を使用すると、要素ブックマークの URL がドキュメントに挿入されます。通常、この構文は、ナビゲーションを助けるドキュメント内のリンクを作成するために使用されます。この例には、ドキュメントの次のセクションへのリンクの作成があります。

2 番目の構文では、指定したテンプレートによって生成された出力ファイルに対して URL が作成されます。このテンプレートは、同じソース・ドキュメントで実行されますが、ドキュメントの異なる部分を抽出します。通常、この構文では、メインのテンプレートには、2 番目の HTML ファイルへのリンクが含まれます。この 2 番目のファイルは、{## LINK} コマンドで指定したテンプレートを使用して生成され、他のドキュメント要素を含みます。この例として、メインのテンプレートでは、ドキュメントの本体と 2 番目の HTML ファイル（脚注と文末脚注を含む）へのリンクを含むファイルを作成できます。

3 番目の最も強力な構文でも、指定したテンプレートで生成されたファイルの URL が作成されます。このテンプレートには、指定した要素の挿入が含まれることが予想されます。通常この構文は、反復可能要素とともに使用されます。これにより、作成者はドキュメントの一連の要素で複数の出力ファイルを生成できます。そのようにして、大きなドキュメントを小さく、より読みやすい要素に分割する方法を提供します。この構文が使用される例は、1 つの HTML ファイルで目次（別の HTML フレーム）を生成するテンプレートです。目次内のエントリは、異なるテンプレートで生成された他の HTML ファイルへのリンクです。

テンプレートを指定する {## LINK} 文で、必ずしも新しいファイルが作成される結果にはならないことに注意してください。新しいファイルは、リンクのターゲットがまだ存在しない場合にのみ作成されます。したがって、たとえば 2 つの {## LINK} 文で同じ要素とテンプレートを指定した場合、HTML ファイルは 1 つしか作成されず、同じ URL が両方の {## LINK} 文で使用されます。

## ## LINK} アーカイブ・ファイルの例

次のテンプレートでは、ソース・アーカイブ・ファイルから抽出および変換されたすべてのファイルへのリンクのリストが生成されます（次の例では、`decompressedFile` で表されています）。

```
## repeat element=sections}
  <p><a href="{## link element=sections.current.decompressedFile}">
    {## insert Element=sections.current.fullname}</a></p>
## /repeat}
```

## ## LINK} プレゼンテーション・ファイルの例

次の例（`template.htm`）では、最初の構文を使用して一連の HTML ファイル（プレゼンテーション内のスライドごとに 1 つ）を生成します。各スライドには、前と次のスライドおよび最初のスライドへのリンクが含まれます。最初と最後のスライドにそれぞれ「Previous」と「Next」のリンクが付かないように、`## IF` マクロが使用されていることに注意してください。

```
template.htm
<html>
<body>
{## insert element=slides.current.image width=300}
<hr />
{## if element=slides.previous.image}
  <p><a href="{## link element=slides.previous.image}">
previous</a></p>
{## /if}
{## if element=slides.next.image}
  <p><a href="{## link element=
slides.next.image}">Next</a></p>
{## /if}
</body>
</html>
```

要素属性を使用する `## LINK` の副作用によって、各 `## LINK` が処理されるときに、`current`、`previous` および `next` にどんな値が入るかについて多少混乱が生じる可能性があります。このテンプレートがどのように機能するかをよりわかりやすく説明するために、3 つのスライドを含むプレゼンテーションで実行する場合を考えてみます。

## 最初の出力ファイル

`## LINK` 文でテンプレートが指定されていないため、`template.htm` がすべての `## LINK` 文用のテンプレートとして使用（再使用）されます。最初のスライドの場合、`slides.next` が出現するまで、関心を引くことは何も起こりません。この場合、`slides.current` が 1 であるため、`slides.next` は `slides.2` を参照し、`## LINK` は `slides.2.image` で実行されます。この `## LINK` は、アンカー・タグに 2 番目のスライドを含む出力ファイルの URL を埋め込みます。`slides.2` を含むファイルがないため、`## LINK` は新しいファイルを開きます。

## 2 番目の出力ファイル

2 番目のスライドの場合、テンプレートが再実行されます。今度は `slides.current` が `slides.2` を、`slides.previous` が `slides.1` を、`slides.next` が `slides.3` を参照します。  
{## INSERT} 文は、2 番目のスライドを挿入します。

`slides.previous` を参照する {## IF} 文は成功します。`slides.1` を含むファイルがすでに存在するため、追加のファイルは作成されません。アンカー・タグには、最初の出力ファイルの URL が埋め込まれます。

`slides.next` を参照する {## IF} 文も成功し、アンカー・タグには、3 番目のスライドを含む出力ファイルの URL が埋め込まれます。`slides.3` を含むファイルがないため、{## LINK} は新しいファイルを開きます。

## 3 番目の出力ファイル

3 番目のスライドの場合、テンプレートが再実行されます。今度は `slides.current` が `slides.3` を、`slides.previous` が `slides.2` を参照します。`slides.next` は、存在しない `slides.4` を参照します。{## INSERT} 文は、3 番目のスライドを挿入します。

`slides.previous` を参照する {## IF} 文は成功します。`slides.2` を含むファイルがすでに存在するため、追加のファイルは作成されません。アンカー・タグには、2 番目の出力ファイルの URL が埋め込まれます。

`slides.next` を参照する {## IF} 文は失敗します。この時点で処理は基本的に完了します。

## コンテンツ・サイズ・ブレイクとのリンク： {## ANCHOR}

---

このマクロは、コンテンツ・サイズに基づくドキュメント・ブレイクの実行中に、Dynamic Converter によって作成されるドキュメントの要素への相対 URL を生成します。

### 構文

```
{## ANCHOR AREF=type [STEP=stepval] FORMAT="anchorfmt" [ALTLINK="element"]  
[ALTTEXT="text"]}
```

属性	説明
AREF	<p>現行ファイルに対するリンクのターゲットの関係を示します。この属性に指定できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>nsertStart:</b> 挿入された要素の最初のページへのリンク</li> <li>• <b>InsertEnd:</b> 挿入された要素の最後のページへのリンク</li> <li>• <b>Next:</b> 挿入された要素内の次のページへのリンク</li> <li>• <b>Prev:</b> 挿入された要素内の前のページへのリンク</li> <li>• <b>FirstFile:</b> ドキュメント全体用に作成された最初のページへのリンク</li> <li>• <b>LastFile:</b> ドキュメント全体用に作成された最後のページへのリンク</li> </ul>
STEP	<p>この属性は、出力ページ間で先送り / 巻戻しのリンクを挿入するために使用されます。この属性は、AREF が <b>next</b> または <b>prev</b> の場合にのみ使用できます。ゼロ以外の正の整数として指定します。たとえば、ドキュメント内で 5 ページ先へスキップするリンクを挿入するには、次の文を使用します。</p> <pre>## unit aref="next" step="5" format="&lt;p&gt;&lt;a href=\"%url\"&gt;Next&lt;/a&gt;&lt;/p&gt;"</pre> <p>指定されていない場合、STEP 属性のデフォルト値は 1 で、これは次 / 前のページに対応します。この属性は、aref が <b>insertstart</b>、<b>insertend</b>、<b>firstfile</b> または <b>lastfile</b> に相当する場合は、無意味です。</p>
FORMAT	<p>これは、テキストをリンクとして出力するように指定する、<b>sprintf</b> スタイル形式の文字列です。Dynamic Converter は、書式文字列内で <b>%url</b> 形式の指定子をターゲット URL に置換します。次に例を示します。</p> <pre>## anchor aref="next" format="&lt;a href=\"%url\"&gt;Next&lt;/a&gt;&lt;br/&gt;\r\n"</pre>

属性	説明
ALTLINK	<p>アンカーのターゲットをアンカー・タイプに基づいて解決できない場合に、その指定に使用される属性です。たとえば、ブレイク可能な要素の最終ファイルには次のファイルがないため、解決できません。しかし、<code>altlink</code> 属性を指定すると、指定要素が含まれている最初のファイルへの URL を使用して、アンカーが生成されます。</p> <p><code>{## ANCHOR}</code> 文で <code>EX_CALLBACK_ID_ALTLINK</code> 属性が指定されている場合、<code>EX_CALLBACK_ID_ALTLINK</code> コールバックは作成されないので注意してください。</p> <p>次に例を示します。</p> <pre>{## anchor aref=next format="&lt;a href=\"%url\"&gt;Next&lt;/a&gt;" altlink=headings.next.body}</pre>
ALTTEXT	<p>アンカーを解決できない場合の出力テキスト。この属性を指定しないと、アンカー・ターゲットが存在しない場合に、テキストは出力されません。次に例を示します。</p> <pre>{## anchor aref=next format="&lt;a href=\"%url\"&gt;Next&lt;/a&gt;" alttext="Next"}</pre>

## 出力ファイルに挿入するコメント：{## IGNORE}

このマクロにより、テンプレート・ファイルのある領域内の `{##}` 文が、テンプレート・パーサーに無視されます。`{## IGNORE}` タグと `{## /IGNORE}` タグの間のテキストは、出力ファイルにそのまま書き込まれます。このマクロを使用すると、テンプレートのある領域内の `{##}` 文を、デバッグ目的でコメント・アウトしたり、実際に別の `{##}` マクロのテキストを書いたりできます。ただし、ブラウザでは、無視されたブロック内の HTML タグが解析され、それに応じてテキストが書式設定されます。このマクロでは、`{## /IGNORE}` マクロを除くすべての `{##}` マクロを無視できます。このためにエスケープ・シーケンスは実装されていません。結果として、`{## IGNORE}` 文はネストできません。ネストすると、ランタイム・テンプレート・パーサーのエラーが発生します。

### 構文

```
{## IGNORE}
any HTML or other {##} macros
{## /IGNORE}
```



**注意:** スクリプト・テンプレートの 1 セクションを完全にコメント・アウトするには、`## IGNORE` 文を次のように HTML コメントで囲みます。

```
<!--{## Ignore} (ここと最後の HTML コメントの間のすべてがコメントアウトされます)
{## /Ignore}-->
```

## 出力ファイルに挿入しないコメント： {## COMMENT}

{## COMMENT} マクロを使用すると、テンプレート作成者は、最終的な出力ファイルに含めることなく、テンプレートにコメントを入れることができます。{## COMMENT} には {## ignore} の機能がありますが、{## COMMENT} ブロック内のテキストは出力ファイルにレンダリングされず、ページ・サイズには含まれません。{## IGNORE} と同様に、{## COMMENT} マクロはネストできません。

### 構文

```
{## COMMENT}
    any HTML or other {##} macros
{## /COMMENT}
```

## その他テンプレートの組み込み：{## INCLUDE}

このコマンドを使用すると、他のテンプレートを現行テンプレートに挿入できます。これは、C/C++ の `# include` ディレクティブのような働きをします。

### 構文

```
{## INCLUDE TEMPLATE=template}
```

属性	説明
TEMPLATE	この属性は、挿入するテンプレートの名前を指定します。

## テンプレート内でのオプションの設定： {## OPTION}

このマクロは、オプションを指定された値に設定します。すべての {## OPTION} 文は、出現する順番に実行されます。このテンプレート・マクロを使用する場合は、どのテンプレートでも {## UNIT} タグを最初のテンプレート・マクロにする必要があることに留意してください。

テンプレートで設定されたオプションには、テンプレートの有効範囲があります。つまり、たとえば、{## LINK} マクロが別のテンプレートを参照する場合、参照されるテンプレート内のオプションは、親テンプレートのオプション設定の影響を受けません。同様に、アーカイブ・ファイルに含まれているファイルが変換される場合、アーカイブ内の子ドキュメントのエクスポートを実行するために、Export は自身を再帰的に呼び出します。各子ドキュメントは、親テンプレートのコピーを使用して変換され、そのコピーは親テンプレートのオプション値を継承しません。



**注意：**{## OPTION} を使用してテンプレート内で設定されたオプションは、アーカイブ内のファイルで実行される動的変換では継承されません。各子変換では、すべてのオプション値の新しいコピーを DASEtOption で最初に設定されたままの状態を受け取ります。



**注意：**テンプレートでオプションを設定すると、テンプレートの有効範囲内でアプリケーションによって設定されたすべてのオプション値は無視されます。

### 構文

```
{## OPTION OPTION=value}
```

属性	説明
OPTION	サポートされているオプションとその値は、次の表を参照してください。



## サポートされているオプションと値

オプション	説明
SCCOPT_GRAPHIC_TYPE	<p>このオプションは、Dynamic Converter でドキュメントの埋込みを変換するときに作成される画像の形式を設定します。</p> <p>サポートされる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>FI_GIF</b>: GIF 画像</li> <li>• <b>FI_JPEGFIF</b>: JPEG 画像</li> <li>• <b>FI_PNG</b>: PNG 画像</li> <li>• <b>FI_NONE</b>: 画像変換なし</li> </ul> <p>デフォルトは FI_JPEGFIF です。</p>
SCCOPT_GIF_INTERLACED	<p>このオプションは、GIF 出力をインタレースにするか、非インタレースにするかを指定します。インタレース GIF は、画像が低速のインターネット接続でダウンロードされるときに役立ちます。インタレース GIF を使用すると、ブラウザでは画像の低解像度ビューのレンダリングをただちに開始し、その後で画像品質を受信した品質まで向上します。インタレースの画像を使用しても、実際には不利はありません。</p> <p>サポートされる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>0</b> または <b>FALSE</b> (非インタレース)</li> <li>• <b>1</b> または <b>TRUE</b> (インタレース)</li> </ul>
SCCOPT_JPEG_QUALITY	<p>このオプションは、JPEG 圧縮の損失の大きさを設定します。これは 1 ～ 100 (パーセント) の値に設定します。100 は最高品質で圧縮率が最も低く、1 は最低品質で圧縮率が最も高くなります。</p>

オプション	説明
SCCOPT_GRAPHIC_ SIZEMETHOD	<p>このオプションは、画像のサイズを設定するために使用するメソッドを指定します。次の3つのメソッドから選択できます。各メソッドでは、最終的な画像品質と変換スピードの間である程度のトレードオフが行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SCCGRAPHIC_QUICKSIZING</li> <li>• SCCGRAPHIC_SMOOTHSIZING</li> <li>• SCCGRAPHIC_SMOOTHGRAYSCALE SIZING</li> </ul> <p><b>quick sizing</b> オプションを使用すると、カラー画像の変換は最も速くなりますが、変換された画像の品質はいくらか低下します。</p> <p><b>smooth sizing</b> オプションでは、アンチエイリアスを使用して、元の画像がより正確に表現されます。アンチエイリアスを行った画像は、より滑らかに見え、読み取りやすくなりますが、このオプションを設定した場合のレンダリングの処理時間は長くなります。</p> <p><b>smooth sizing</b> オプションは、幅または高さが4,096 ピクセルを超えるイメージに対しては機能しないので注意してください。</p> <p><b>grayscale-only</b> オプションもアンチエイリアスを使用しますが、グレースケール画像専用です。カラー画像に対しては <b>quick sizing</b> オプションを使用します。</p>

オプション	説明
SCCOPT_GRAPHIC_OUTPUTDPI	<p>このオプションは、出力画像デバイスの解像度を1インチ当たりのドット数 (dpi) で指定し、サイズが物理単位 (in/cm) で指定されている画像に対してのみ適用されます。たとえば、1平方インチ、100-dpi の画像を、50-dpi デバイス (このオプションを 50 に設定) でレンダリングする場合を考えてみます。この場合、生成される WBMP、TIFF、BMP、JPEG、GIF または PNG のサイズは、50 × 50 ピクセルになります。</p> <p>有効値は、0 ~ 2400 (dpi) の任意の整数です。</p>
SCCOPT_GRAPHIC_SIZELIMIT	<p>このオプションは、エクスポートされた画像の最大サイズ (ピクセル単位) を設定します。これは、異常に大きい画像が同様に扱いにくい出力ファイルに変換されることを防ぐのに役立ち、ひいてはバンド幅の無駄を防ぎます。</p> <p>このオプションは、変換された画像のサイズに影響を与える他のすべてのオプションや設定に優先します。</p>
SCCOPT_GRAPHIC_WIDTHLIMIT	<p>このオプションを使用すると、変換された画像の幅 (ピクセル単位) に厳しい制限を設定できます。この制限より幅が広いイメージは、制限に合うようにサイズが変更されます。</p> <p>SCCOPT_GRAPHIC_HEIGHTLIMIT オプションが設定されているかいないかに関係なく、サイズが変更されたイメージでは、元の縦横比が維持されることに注意する必要があります。この幅より小さい画像は、このオプションを使用しても拡大されません。</p>

オプション	説明
SCCOPT_GRAPHIC_HEIGHTLIMIT	<p>このオプションを使用すると、変換された画像の高さ（ピクセル単位）に厳しい制限を設定できます。この制限より高さが大きいイメージは、制限に合うようにサイズが変更されます。</p> <p>SCCOPT_GRAPHIC_WIDTHLIMIT オプションが設定されているかいないかに関係なく、サイズが変更されたイメージでは、元の縦横比が維持されることに注意する必要があります。この高さより小さい画像は、このオプションを使用しても拡大されません。</p>
SCCOPT_EX_FONTFLAGS	<p>このオプションは、指定されたフォント関連のマークアップを出力で無効にするために使用されます。必然的に、要求された出力フレーバまたはその他のオプション設定によって、指定したタイプのマークアップが記述されない場合、このオプションを使用してそれを再び有効にすることはできません。しかし、このオプションでビット単位の OR 演算とフラグの適切な組合せをともに使用することより、文字のサイズ、色および書体の指定をすべて抑止できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>SUPPRESS_SIZE</b></li> <li>• <b>SUPPRESS_COLOR</b></li> <li>• <b>SUPPRESS_SIZECOLOR</b></li> <li>• <b>SUPPRESS_FACE</b></li> <li>• <b>SUPPRESS_SIZEFACE</b></li> <li>• <b>SUPPRESS_COLORFACE</b></li> <li>• <b>SUPPRESS_ALL</b></li> <li>• <b>SUPPRESS_NONE</b></li> </ul>

オプション	説明
SCCOPT_EX_GRIDROWS	<p>このオプションは、各テンプレートのグリッド（スプレッドシートまたはデータベースのファイルのみ該当）に含める行数を指定します。</p> <p>このオプションをゼロ（0）に設定すると、グリッド内の行数は制限されません。</p>
SCCOPT_EX_GRIDCOLS	<p>このオプションは、各テンプレートのグリッド（スプレッドシートまたはデータベースのファイルのみ該当）に含める列数を指定します。</p> <p>このオプションをゼロ（0）に設定すると、グリッド内の列数は制限されません。</p>
SCCOPT_EX_GRIDADVANCE	<p>このオプションは、グリッド間で <b>previous</b> と <b>next</b> の関係がどのように機能するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ACROSS:</b> 入力スプレッドシートまたはデータベースを行単位で横断します。</li> <li>• <b>DOWN:</b> 入力スプレッドシートまたはデータベースを列単位で横断します。</li> </ul> <p>このオプションには、上 / 下または左 / 右のナビゲーションに対する影響はありません。</p>

オプション	説明									
SCCOPT_EX_GRIDWRAP	<p>このオプションは、スプレッドシートまたはデータベースの端のグリッド間で、previous と next の関係がどのように機能するかを指定します。</p> <p>WirelessHTML Export によりグリッドが次のように 9 つに分割されているスプレッドシートについて考えてみます。</p> <table><tr><td>Grid 1</td><td>Grid 2</td><td>Grid 3</td></tr><tr><td>Grid 4</td><td>Grid 5</td><td>Grid 6</td></tr><tr><td>Grid 7</td><td>Grid 8</td><td>Grid 9</td></tr></table> <p>このオプションを TRUE に設定した場合、Grid 3 の後の Grids.Next.Body 値は Grid 4 になります。同様に Grid 4 の前の Grids.Previous.Body 値は Grid 3 になります。</p> <p>このオプションを FALSE に設定すると、Grid 3 の後の Grids.Next.Body は、テンプレート・ナビゲーションに関しては存在しません。同様に、Grid 4 の前の Grids.Previous.Body は、テンプレート・ナビゲーションに関しては存在しません。</p> <p>つまり、このオプションは、スプレッドシートまたはデータベースの端で、previous と next の関係がラップされるかどうかを指定します。</p>	Grid 1	Grid 2	Grid 3	Grid 4	Grid 5	Grid 6	Grid 7	Grid 8	Grid 9
Grid 1	Grid 2	Grid 3								
Grid 4	Grid 5	Grid 6								
Grid 7	Grid 8	Grid 9								

## ファイルのコピー : {## COPY}

{## COPY} マクロは、出力ディレクトリに、変換済ドキュメントの出力とともに、追加の静的ファイルをコピーするために使用します。たとえば、元の入力ドキュメントにはなかった会社のロゴを追加した場合、{## COPY} を使用して、それを変換された出力ドキュメントの一部にすることができます。その他の例としては、ナビゲーション用のボタンを示すために使用される画像、外部の CSS ファイル、または実行される Java コードの一部などがあります。

## 構文

```
{## COPY FILE=file}
```

属性	説明
FILE	<p>これは、コピーされるファイルの名前です。ファイルの一部として相対パス名が指定される場合、ルート・テンプレート・ファイルを含むディレクトリを基準とする必要があります。</p> <p>次に例を示します。</p> <pre>{## COPY FILE=uparrow.gif}</pre>

{## COPY} マクロは、テンプレートのどこにでも使用できます。{## COPY} が {## IF} 内にある場合、{## COPY} は、条件が TRUE の場合にのみ実行されます。{## REPEAT} ループ内では、{## COPY} は、ループが複数回実行される場合にのみ実行されます。さらに、{## REPEAT} が複数回ループする場合、Dynamic Converter ではこれを検出し、{## COPY} が 1 回のみ実行されます。

名前が示すとおり、{## COPY} マクロは純粋なファイル・コピーです。したがって、コピーの一環として変換は実行されません。たとえば、画像の形式は変わらず、画像のサイズも変更されません。テンプレートの作成者は、テキスト・バッファ・サイズの計算において外部画像用の領域を作成するために画像およびその他のファイルがコピーされる場合には、{## GRAPHIC} を使用することにも留意する必要があります。

Dynamic Converter のアクションは、リクエストされたファイルをコピーすることのみであるため、テンプレート作成者はテンプレートの別の場所でコピーしたファイルを利用する必要があります。たとえば、画像ファイルをコピーすると、テンプレートではコピーした画像を参照する <img> タグを使用できます。次のテンプレート・コードの抜粋では、これを実行します。

```
{## copy FILE=Picture.JPG}
{## graphic PATH=Picture.JPG}

```



**注意：**ファイル・コピーが失敗しても、Dynamic Converter は処理を継続し、エラーは報告されません。

# プラグマ

---

プラグマは、論理的には要素ツリーの一部ではない特定のドキュメント要素へのアクセスを可能にします。次のプラグマがサポートされています。

- ❖ [Pragma.Charset](#) (7-46 ページ)
- ❖ [Pragma.CSSFile](#) (7-46 ページ)
- ❖ [Pragma.EmbeddedCSS](#) (7-47 ページ)
- ❖ [Pragma JsFile](#) (7-47 ページ)
- ❖ [Pragma.SourceFileName](#) (7-48 ページ)

## Pragma.Charset

---

このプラグマは、**Dynamic Converter** が生成する文字のキャラクタ・セットと関連付けられた HTML テキスト文字列を表します。**Dynamic Converter** で、生成する HTML にキャラクタ・セットを正しくコーディングするには、すべてのテンプレートに `{## INSERT}` マクロを次のように使用する **META** タグを含める必要があります。

```
<META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset={## INSERT ELEMENT=pragma.charset}">
```

テンプレートにこの行が含まれていない場合、ユーザーがブラウザで正しいキャラクタ・セットを手動で選択する必要があります。

## Pragma.CSSFile

---

このプラグマは、Cascading Style Sheet (CSS) ファイルの名前を HTML ドキュメントに挿入するために使用します。この名前は、通常、**Dynamic Converter** で生成される CSS ファイルに含まれるスタイルを参照するために、HTML の `<LINK>` タグとともに使用されます。

`{## INSERT}` マクロで使用すると、このプラグマは作成される CSS ファイルの URL を生成します。このマクロは、ソース・ファイルのコンテンツを挿入するすべてのテンプレート・ファイル内で、選択した HTML フレーバが CSS をサポートしている場合に、`{## INSERT}` とともに使用する必要があります。CSS ファイルは、選択した HTML フレーバで CSS がサポートされている場合にのみ作成されます。

`{## IF}` マクロで使用する場合は、選択した HTML フレーバで Cascading Style Sheet がサポートされていれば、条件は `true` になります。

CSS が出力に必要な場合、`{## IF element=pragma.embeddedcss}` または `{## IF element=pragma.cssfile}` を使用します。しかし、**Dynamic Converter** では 2 つの



区別をしません。埋込み CSS を使用するか外部の CSS を使用するかは作成者が選択でき、出力で 2 つを混在させることもできるからです。

HTML の CSS または非 CSS フレーバのいずれかをエクスポートするときに機能するこのプラグマの使用例は、次のようになります。

```
{## IF ELEMENT=Pragma.CSSFile}
  <LINK REL=STYLESHEET
  HREF="{## INSERT
  ELEMENT=Pragma.CSSFile}">
</LINK>
{## /IF}
```

## Pragma.EmbeddedCSS

---

このプラグマは、ドキュメントの <HEAD> の単一ブロックに CSS スタイルの定義を挿入するために使用します。

{## INSERT} マクロで使用する場合は、このプラグマにより、ファイルで後から使用するために必要な CSS スタイル定義のブロックが挿入されます。このマクロは、ドキュメント・コンテンツを挿入するために {## INSERT} が使用されるすべての出力 HTML ファイルで使用する必要があります。

{## IF} マクロで使用する場合は、選択した HTML フレーバで CSS がサポートされていれば、条件は true になります。

CSS が出力に必要な場合、{## IF element=pragma.embeddedcss} または {## IF element=pragma.cssfile} を使用します。しかし、Dynamic Converter では 2 つの区別をしません。埋込み CSS を使用するか外部の CSS を使用するかは作成者が選択でき、出力で 2 つを混在させることもできるからです。

入力ドキュメントのどこかでスタイルが使用される場合、そのスタイルは、入力ファイルに対して生成されるすべての出力 HTML ファイル用に生成される埋込み CSS 内に示されます。出力を複数の HTML ファイルに分割するテンプレートを考えてみます。この例では、入力ファイルに MyStyle スタイルが含まれています。変換中に実際に MyStyle スタイルを参照する出力 HTML ファイルが 1 つのみでも問題ありません。その場合にも、MyStyle スタイルの定義は、このスタイルをまったく参照していないファイルも含めたすべての出力ファイルの埋込み CSS 内に示されます。

## Pragma.JsFile

---

このプラグマは、JavaScript ファイルの名前を HTML ドキュメントに挿入するために使用します。この名前は、通常、HTML Export で生成される .js ファイルに含まれる JavaScript を参照するために、HTML の <SCRIPT> タグとともに使用されます。

{## INSERT} マクロで使用すると、このプラグマは作成される JavaScript ファイルの URL を生成します。このマクロは、ソース・ファイルのコンテンツを挿入するすべてのテンプレート・ファイル内で、次の場合に {## INSERT} とともに使用する必要があります。

1. 選択した HTML フレーバで JavaScript がサポートされている。
2. `javaScriptTabs` オプションが `true` に設定されている。

JavaScript ファイルは、選択した HTML フレーバで JavaScript がサポートされている場合にのみ作成されます。

{## IF} マクロで使用する場合、選択した HTML フレーバで JavaScript がサポートされているかどうかによって、条件は異なります。

## Pragma.SourceFileName

---

このプラグマは、変換されるソース・ドキュメントの名前を表します。



**注意:** `Pragma.SourceFileName` プラグマには、パス名は含まれません。

## サンプル・スクリプト・テンプレート

---

Dynamic Converter には、多数のサンプル・スクリプト・テンプレートが付属しており、これを Content Server にチェックインして、ただちに使用を開始できます。サンプル・スクリプト・テンプレートは、

`[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/script_templates/` ディレクトリ (`[CS_Dir]` は、Content Server インストール・ディレクトリ) にあります。

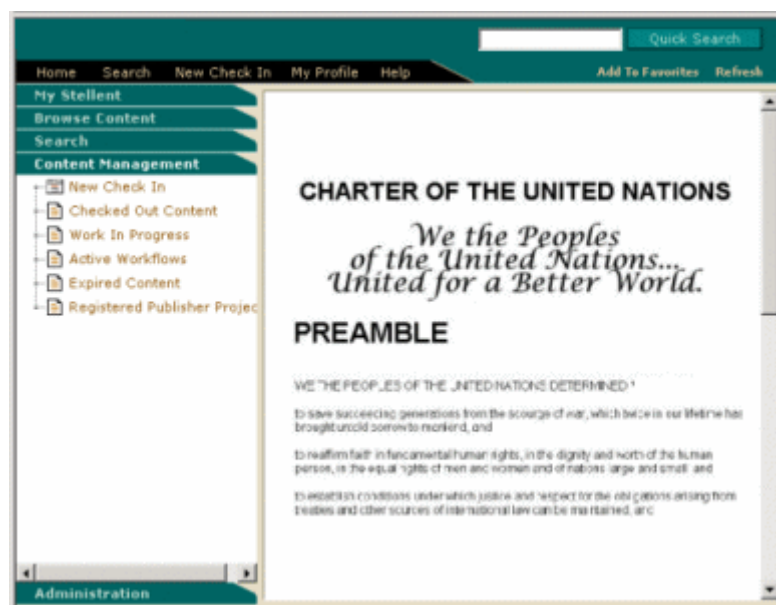
次のレイアウト・テンプレートを使用できます。

- ❖ [Basic](#) (7-49 ページ)
- ❖ [Elements](#) (7-50 ページ)
- ❖ [Plain](#) (7-50 ページ)
- ❖ [SimpleToc](#) (7-52 ページ)
- ❖ [Slideshow](#)、[Slideshowb](#) および [Slideshowc](#) (7-54 ページ)
- ❖ [Textout](#) (7-58 ページ)

これらのサンプル・スクリプト・テンプレートは、Hypertext Content Server Template (HCST) ファイルとして提供されています。

## Basic

図 7-2 Basic スクリプト・テンプレートの例



Basic サンプル・スクリプト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```
<html>
<head>
{## if element=property.title}
<title>{## insert element=property.title suppress=tags}</title>
{## else}
<title>Converted {## insert element=pragma.sourcefilename}</title>
{## /if}

{## if element=pragma.cssfile}
<link rel="stylesheet" href="{## insert element=pragma.cssfile}"</link>
{## /if}

<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>

<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>

<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
<tr><td>
```

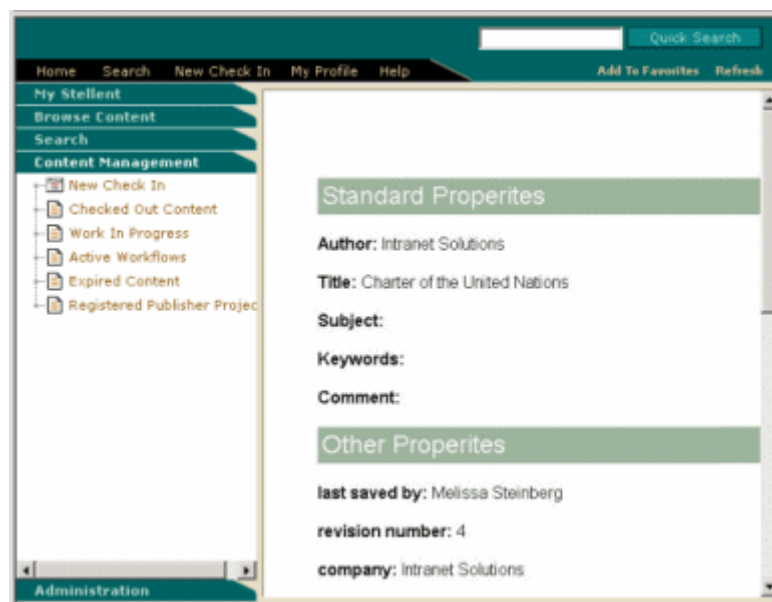
```
{## repeat element=sections}
<p align="center">{## insert element=sections.current.bodyorimage width=500}</p>
<hr size="3"></hr>
{## /repeat}

</td></tr>
</table>

<$include std_page_end$>
</body>
</html>
```

## Elements

図 7-3 Elements スクリプト・テンプレートの例



Elements テンプレートの詳細は、付録 C を参照してください。

## Plain

Plain サンプル・スクリプト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```
<html>
<head>
{## if element=property.title}
<title>{## insert element=property.title suppress=tags}</title>
{## else}
<title>Converted {## insert element=pragma.sourcefilename}</title>
{## /if}
```

```
{## if element=pragma.cssfile}
<link rel="stylesheet" href="{## insert element=pragma.cssfile}">/link>
{## /if}

<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>

<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>

<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
<tr><td>

{## repeat element=sections}
{## if element=sections.current.type value=wp}
{## insert element=sections.current.bodyorimage width=500}

{## if element=sections.current.footnotes.1.body}
<br></br>
{## repeat element=sections.current.footnotes}
{## insert element=sections.current.footnotes.current.body}
<br></br>
{## /repeat}
{## /if}

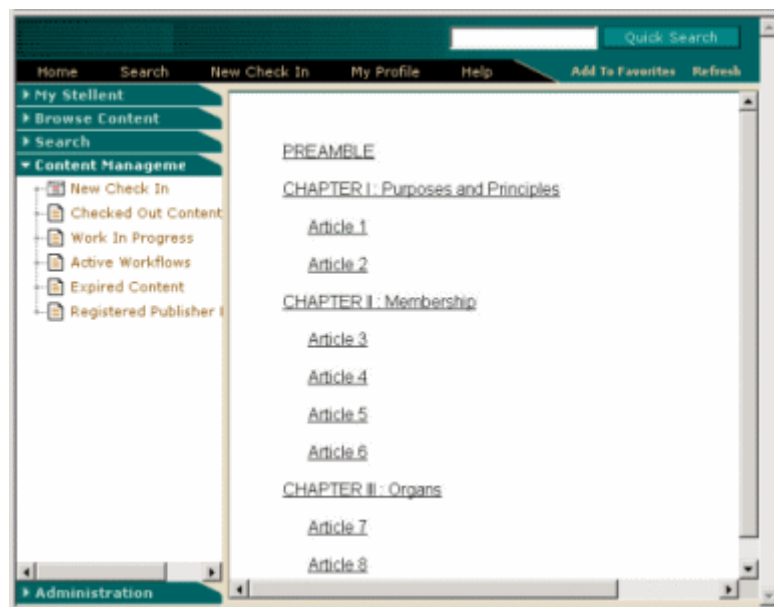
{## if element=sections.current.endnotes.1.body}
<br><br>
{## repeat element=sections.current.endnotes}
{## insert element=sections.current.endnotes.current.body}
<br></br>
{## /repeat}
{## /if}
{## else}
<h1>{## insert element=sections.current.body.title suppress=tags}</h1>
{## insert element=sections.current.bodyorimage width=500}
<br></br><hr></hr><br></br>
{## /if}
{## /repeat}

</td></tr>
</table>

<$include std_page_end$>
</body>
</html>
```

## SimpleToc

図 7-4 Simple TOC スクリプト・テンプレートの例



SimpleToc サンプル・スクリプト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```
<html>
<html>
<head>
{## if element=property.title}
  <title>{## insert element=property.title suppress=tags}</title>
{## else}
  <title>Converted {## insert element=pragma.sourcefilename}</title>
{## /if}

{## if element=pragma.cssfile}
  <link rel="stylesheet" href="{## insert element=pragma.cssfile}"</link>
{## /if}

<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>

<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>

<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
<tr><td>
  {## repeat element=sections}
    {## if element=sections.current.title}
```



```

        {## if element=property.keywords}
        <p><b>Keywords:</b><br></br>{## insert element=property.keywords suppress=tags}</p>
        {## /if}
        <br></br>
        {## if element=property.comment}
        <p><b>Comment:</b><br></br>{## insert element=property.comment suppress=tags}</p>
        {## /if}
        <br></br>
    </td></tr>
</table>

<$include std_page_end$>
</body>
</html>

```

## Slideshow、Slideshowb および Slideshowc

スライドショー・テンプレートは、PowerPoint プレゼンテーションを変換するために使用できます。2-12 ページの「[PowerPoint プレゼンテーション用スライドショー・テンプレート・ファイルの構成](#)」を参照してください。

### Slideshow

Slideshow サンプル・スクリプト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```

<html>
<head>
{## if element=property.title}
    <title>{## insert element=property.title suppress=tags}</title>
{## else}
    <title>Converted {## insert element=pragma.sourcefilename}</title>
{## /if}

{## if element=pragma.cssfile}
    <link rel="stylesheet" href="{## insert element=pragma.cssfile}"</link>
{## /if}

<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>

<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>

```



```

<script language="JavaScript"><!--
if (document.images)
{
    {## repeat element=sections}
    thumb{## insert number=sections.current.value} = new Image;
    thumb{## insert number=sections.current.value}.src = "{## insert
element=sections.current.image width=400 suppress=tags}";
    {## /repeat}
}

function swapem(iname,gname)
{
    if (document.images)
    {
        document.images[iname].src = eval(gname + ".src");
    }
}

function openawindow( pageToLoad, winName, width, height, center)
{
/* Opens a new window on the users desktop.
Arguments:
pageToLoad - The URL of a page to load in the browser window.
              This can be a relative URL or fully qualified.
winName -    Name of the new window.
width -      The horizontal size of the new window.
height -     The vertical size of the new window.
center -     toggle centering on 4.0 browsers.
              1=centered window 0=no centering

Values in the "args" section below can all be toggled in the
same fashion as the center toggle. Just modify the appropriate
value in the args section to be either 0 or 1.

A call to this function might look like this:
<a href="javascript:openAWindow('ice.html','ice',375,250,1)">Ice</a>

Created by Glenn Davis of Project Cool, Inc. for general use. If
you use this routine please leave all comments in place so that
others may benefit as well.

```

```

*/
if ((parseInt(navigator.appVersion)) < 4){swidth = 640} else {swidth = (screen.width-10)}
if ((parseInt(navigator.appVersion)) < 4){sheight = 480} else {sheight = (screen.height-
60)}

args = "width=" + swidth + ","
+ "height=" + sheight + ","
+ "location=0,"
+ "menubar=0,"
+ "resizable=1,"
+ "scrollbars=0,"
+ "status=0,"
+ "titlebar=0,"
+ "toolbar=0,"
+ "hotkeys=0,"
+ "screenx=" + 0 + "," //NN Only
+ "screeny=" + 0 + "," //NN Only
+ "left=" + 0 + "," //IE Only
+ "top=" + 0 ; //IE Only

window.open( pageToLoad,winName,args );
}

// --></script><div align="center"><center>

<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
<tr><td>

{## if element=property.title}
<p><h3>{## insert element=property.title suppress=tags}</h3></p>
{## /if}

{## if element=property.subject}
<p><h3>{## insert element=property.subject suppress=tags}</h3></p>
{## /if}

<p><h3>{## insert number=sections.count} slides by {## insert element=property.author
suppress=tags}</p>

<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
<tr>

<td valign="top">
<table>
{## repeat element=sections}
<tr><td>

```

```

        <a href="javascript:openawindow('{## link element=sections.current.bodyorimage
template=slideshowbtemplate.hcst}','bigslide', 640,480,1)"
onMouseOver="swapem('thumbimg','thumb{## insert number=sections.current.value}')">
        <font size="1">{## insert element=sections.current.body.title
suppress=tags}</font>
        </a>
    </td></tr>
    {## /repeat}
</td></tr>
</table>
</td>

<td>
    </img>
</td>

<td valign="top">
    </img>
</td>
</tr>
</table>

</td></tr>
</table>

<$include std_page_end$>
</body>
</html>

```

## Slideshowb

Slideshowb サンプル・スクリプト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```

<html>

<html>

<head>
{## if element=property.title}
    <title>{## insert element=property.title suppress=tags}</title>
{## else}
    <title>converted {## insert element=pragma.sourcefilename}</title>
{## /if}
{## if element=pragma.cssfile}<link rel="stylesheet" href="{## insert
element=pragma.cssfile}"></link>{## /if}
</head>

<body bgcolor="BLACK" topmargin="0" leftmargin="0" scroll="No">

```

```
<p><center>
<a href="{## if element=sections.next.bodyorimage}{## link element=sections.next.image}{##
else}{## link template=slideshowctemplate.hcst}{## /if}">
</img></a></center></p>
</body>
</html>
```

## Slideshowc

Slideshowc サンプル・スクリプト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```
<html>
<head>
{## if element=property.title}
  <title>{## insert element=property.title suppress=tags}</title>
{## else}
  <title>converted {## insert element=pragma.sourcefilename}</title>
{## /if}
{## if element=pragma.cssfile}<link rel="stylesheet" href="{## insert
element=pragma.cssfile}"></link>{## /if}
</head>
<body bgcolor="black">
<font color="white" size="+5">

<center>This is the end of the presentation.
<p><a href="{## link element=sections.1.bodyorimage
template=slideshowbtemplate.hcst}">Return to start of presentation.</a></p>
</center>

</font>
</body></html>
```

## Textout

---

Textout サンプル・スクリプト・テンプレートには、次のコードが含まれています。

```
<html>
<head>
{## if element=property.title}
  <title>{## insert element=property.title suppress=tags}</title>
{## else}
  <title>Converted {## insert element=pragma.sourcefilename}</title>
{## /if}

{## if element=pragma.cssfile}
  <link rel="stylesheet" href="{## insert element=pragma.cssfile}"></link>
{## /if}
```

```
<$defaultPageTitle="Converted Content"$>
<$include std_html_head_declarations$>
</head>

<$include body_def$>
<$include std_page_begin$>
<$include std_header$>

<table border="0" cellpadding="0" cellspacing="0" width="550">
<tr><td>

<h1><font color="0000FF">Document Body</font></h1>
{## repeat element=sections}
  <h2><font color="0000FF">Section </font>{## insert number=sections.current.value}</h2>

  {## if element=sections.current.type value=ss}
    <p>
      <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>spreadsheet<font
color="0000FF">&quot;</font>
    </p>
    <p>
      <font color="0000FF"><b>Title</b>=&quot;</font>
      {## insert element=sections.current.title}<font color="0000FF">&quot;</font>
    </p>
    {## insert element=sections.current.bodyorimage width=500}
    {## elseif element=sections.current.type value=pr}
      <p>
        <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>presentation<font
color="0000FF">&quot;</font>
      </p>
      <h3><font color="0000FF">Image</font></h3>
      {## if element=sections.current.image}
        {## insert element=sections.current.image width=500}
      {## else}
        <p><font color="0000FF">Image is empty</font></p>
      {## /if}
      <h3><font color="0000FF">Image Text</font></h3>
      {## if element=sections.current.body}
        {## insert element=sections.current.body}
      {## else}
        <p><font color="0000FF">Image text is empty</font></p>
      {## /if}
      {## elseif element=sections.current.type value=dr}
        <p>
          <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>vector graphic drawing<font
color="0000FF">&quot;</font>
        </p>
        <h3><font color="0000FF">Image</font></h3>
```

```

{## if element=sections.current.image}
    {## insert element=sections.current.image width=500}
{## else}
    <p><font color="0000FF">Image is empty</font></p>
{## /if}
<h3><font color="0000FF">Image Text</font></h3>
{## if element=sections.current.body}
    {## insert element=sections.current.body}
{## else}
    <p><font color="0000FF">Image text is empty</font></p>
{## /if}
{## elseif element=sections.current.type value=bm}
    <p>
    <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>bitmap<font
color="0000FF">&quot;</font>
    </p>
    <h3><font color="0000FF">Image</font></h3>
{## if element=sections.current.image}
    {## insert element=sections.current.image width=500}
{## else}
    <p><font color="0000FF">Image is empty</font></p>
{## /if}
<h3><font color="0000FF">Image Text</font></h3>
{## if element=sections.current.body}
    {## insert element=sections.current.body}
{## else}
    <p><font color="0000FF">Image text is empty</font></p>
{## /if}
{## elseif element=sections.current.type value=wp}
    <p>
    <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>bitmap<font
color="0000FF">&quot;</font>
    </p>
    <h2><font color="0000FF">Section Body</font></h2>
    {## insert element=sections.current.contents width=500}
{## elseif element=sections.current.type value=ar}
    <p>
    <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>archive<font
color="0000FF">&quot;</font>
    </p>
    {## insert element=sections.current.bodyorimage width=500}
{## elseif element=sections.current.type value=db}
    <p>
    <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>database<font
color="0000FF">&quot;</font>
    </p>
    {## insert element=sections.current.bodyorimage width=500}
{## elseif element=sections.current.type value=ch}
    <p>

```

```

        <font color="0000FF"><b>Section Type</b>=&quot;</font>chart<font
color="0000FF">&quot;</font>
    </p>
    <h3><font color="0000FF">Image</font></h3>
    {## if element=sections.current.image}
        {## insert element=sections.current.image width=500}
    {## else}
        <p><font color="0000FF">Image is empty</font></p>
    {## /if}
    <h3><font color="0000FF">Image Text</font></h3>
    {## if element=sections.current.body}
        {## insert element=sections.current.body}
    {## else}
        <p><font color="0000FF">Image text is empty</font></p>
    {## /if}
    {## else}
        <p>
            <font color="0000FF"><b>Section Type</b> is not one of wp, ss, pr, dr, bm, db, ch, or
ar<font></p>
        </p>
        {## insert element=sections.current.bodyorimage width=500}
    {## /if}
    {## /repeat}

</td></tr>
</table>

<$include std_page_end$>
</body>
</html>

```

## スクリプト・テンプレートの書式設定オプションの設定

「[Dynamic Converter Configuration](#)」 ページ (2-1 ページ) の [スクリプト・テンプレート変換の構成設定](#) セクションを編集することで、スクリプト・テンプレートの書式設定オプションを制御できます。

変更できる設定には、次のものがあります。

- ❖ [変換済画像に使用される形式の変更](#) (7-62 ページ)
- ❖ [リストのブレットと番号の生成](#) (7-62 ページ)

## 変換済画像に使用される形式の変更

---

変換済画像に使用する形式を変更する場合、次のオプションを編集します。

```
# SCCOPT_GRAPHIC_TYPE
#
# Determines what graphic format will be used for exported graphics.
# Setting this to "none" disables graphic output.
#
graphictype      gif
#graphictype      jpeg
#graphictype      png
#graphictype      none
```

# で始まる行は、コメントアウトされます。したがって、前述の例では、gif 形式が選択されたデフォルト設定を示しています。かわりに jpeg 形式を使用するには、単に 1 行目をコメント化し、2 行目のコメント化を解除して、次のようにします。

```
#graphictype      gif
graphictype      jpeg
#graphictype      png
#graphictype      none
```

## リストのブレットと番号の生成

---

HTML リスト・タグのかわりにリストのブレットと番号を生成する場合は、次のオプションを編集します。

```
# SCCOPT_GENBULLETSANDNUMS
#
# Generate Bullets and Numbers. Bullets and numbers will be generated for
# lists instead of using HTML list tags (<ol>, <ul>, <li>, etc.) when
# rendering lists in a document.
#
genbulletsandnums no
#genbulletsandnums yes
```

再度、1 行をコメント化し、もう 1 行のコメント化を解除して、次のようにします。

```
#genbulletsandnums no
genbulletsandnums yes
```



## 構造によるドキュメントの分割

テンプレート・アーキテクチャの最も強力な機能の 1 つは、長いワード・プロセッサ文書を論理的な要素に分割し、それらにアクセスするための強力なナビゲーション補助機能を作成する能力です。

これがどのように行われるかを理解するには、まずワード・プロセッサ文書に関連するドキュメント・ツリーを理解する必要があります。後述のやや複雑な図は、ツリー内の要素が、実際のドキュメントとどのような関係にあるかを示したものです（後述の図を参照）。

要素のいくつかの例と、前述の画像で示したドキュメントに対して実行した場合に作成されるデータは、次のとおりです。2 番目の 2 つの例では、デフォルト・ノードの **body** と **contents** を省略しています。

```
body.contents.headings.2.body.title
```

**Present Day** が生成されます。

```
body.contents.headings.2.body.contents.headings.1.body.title
```

**Commercial** が生成されます。

```
body.contents.preface
```

**The History of Flight** およびその下のテキスト（**Introduction** までだがこれ自体は含まない）が生成されます。

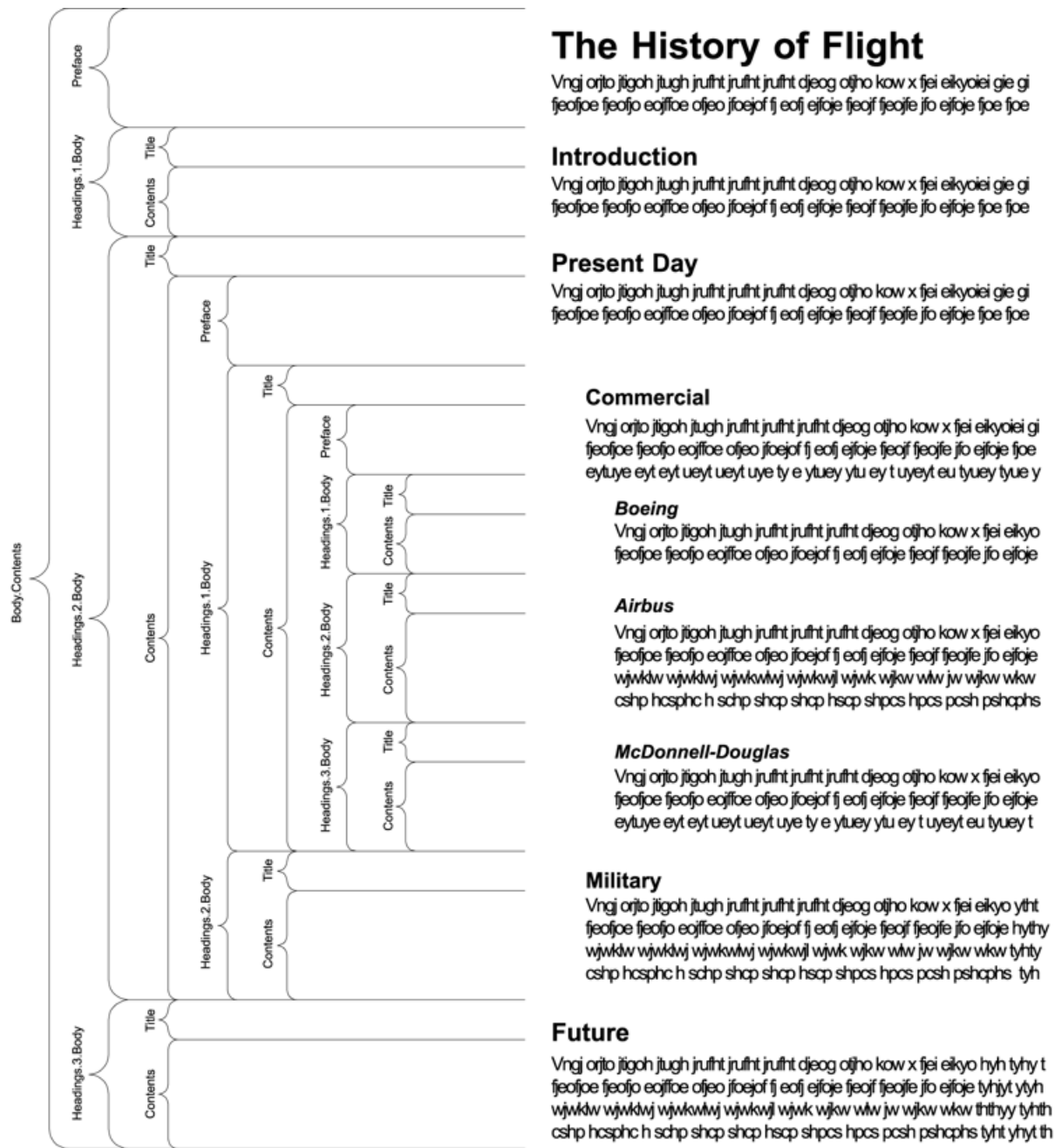
```
headings.2.headings.1.headings.3.title
```

**McDonnell-Douglas** が生成されます。

```
headings.2.headings.1.headings.3.contents
```

**McDonnell-Douglas** の下から **Military** の上までのテキストが生成されます。

図 7-5 構造によるドキュメントの分割



ドキュメントを分割するには、Dynamic Converter でドキュメントの構造における論理区分を認識する必要があります。現在のところ、Dynamic Converter に明白な方法でこの情報を提供できるのは、Microsoft Word 95 以上と WordPerfect 6.0 以上の形式のみです。これらの形式では、作成者がドキュメント内に目次情報を加えた場合に、分割情報を使用できます。この情報を含めるために必要な手順については、適切なソフトウェアのマニュアルを参照してください。これは、ドキュメントには絶対に目次が必要というわけではなく、目次を作成するための情報が必要というだけです。

Microsoft Word 2002 (XP) など、一部の文書処理の形式では、ユーザーが多数の方法で TOC エントリを指定できます。Dynamic Converter では、次の方法のうち 2 つのみをサポートしています。

TOC を指定する方法	Dynamic Converter でのサポート
適用された見出しスタイル	○
アウトライン・レベルを持つカスタム・スタイル	○
段落属性として適用されたアウトライン・レベル	×
TOC エントリ	×

また、元のドキュメントで表内のテキストに見出しスタイルが適用されている場合、Dynamic Converter ではその見出しでの分割は行われません。これは、Dynamic Converter では表内の分割を行わないためです。

## 索引と構造ベースの分割

すべての反復可能ノードには、変換プロセスの任意の時点での現行値を持つ索引変数が関連付けられています。パスの一部として反復可能ノードが含まれる要素の場合、反復可能要素のインスタンスは、数値、またはいくつかの索引変数キーワードの 1 つを使用して指定します。索引変数に指定できる値の詳細は、7-14 ページの「[索引変数キーワード](#)」を参照してください。

## コンテンツ・サイズによるドキュメントの分割

[構造によるドキュメントの分割](#)（前の項を参照）に加えて、Dynamic Converter では、各出力ファイル（つまりページ）に配置されるコンテンツの量に基づいたドキュメントの分割もサポートしています。ドキュメントは、その構造とコンテンツ・サイズの両方に基づいて分割することもできます。

コンテンツ・サイズによりドキュメントを分割するには、次の2つのことを実行する必要があります。まず、SCCOPT\_EX\_PAGESIZEpageSize オプションを設定する必要があります（7-38 ページの「[テンプレート内でのオプションの設定：{## OPTION}](#)」を参照）。次に、使用するテンプレートを [{## UNIT}](#) 構成にする必要があります（7-19 ページを参照）。

単位テンプレート構成の背後にある基本的な目的は、すべてのページで繰り返す必要のあるもの、および1度のみ表示する必要のある要素を、Dynamic Converter に示すことです。つまり、単位テンプレート構成が、テンプレート・テキストとドキュメント要素をグループ化するメカニズムを提供します。単位境界は、ドキュメントが複数ページにまたがるとき、どこで分割するかを決める際に使用されます。

テンプレート作成者がすべてのページに表示させるものとして、次の例があります。

- ❖ 出力ドキュメントのキャラクタ・セットを挿入する <META> タグ
- ❖ 企業の著作権メッセージ
- ❖ 前 / 次のページへともにリンクするナビゲーション要素

すべてのページでは表示されないものの典型的な例は次のとおりです。

- ❖ ドキュメントの実際のコンテンツ
- ❖ 目次のリンクのような、構造的ナビゲーション要素

1 単位は、1 つのヘッダー、1 つのフッター（どちらもオプション）と 1 つの本体で構成されています。すべての単位の初めまたは終わりで繰り返されるアイテムは、それぞれヘッダーまたはフッターに配置する必要があります。

単位は [{## UNIT}](#) テンプレート・マクロによって区切られます。同様に、[{## HEADER}](#) および [{## FOOTER}](#) テンプレート・マクロは、それぞれヘッダーおよびフッターを区切ります。本体は、ヘッダーとフッターの間の残りのすべての部分です。[{## UNIT}](#) マクロは、テンプレートの最初のマクロであることが必要です。本体にはしばしばネストされた単位が含まれます。本体は空の場合もあります。

必ずヘッダーがテンプレート内の最初のアイテムになり、フッターが最後のアイテムになるように、[{## UNIT}](#) タグと [{## HEADER}](#) タグの間のテキストと、[{## /FOOTER}](#) タグと [{## /UNIT}](#) タグの間のテキストは、空白も含め無視されます。単位のヘッダーおよびフッターは、その単位を含むどのページにも出力され、特定のページにはめ込むことのできる単位の本体の部分を囲みます。テンプレート全体が、追加の単位を含めることができる 1 つの単位です。

## サイズ分割のサンプル・テンプレート

一例として、[スクリプト・テンプレートの概要](#)（7-2 ページ）の非常に単純なテンプレートをもう一度確認します。さらに興味深くするために、`<meta>` タグでキャラクタ・セットをテンプレートに挿入してみます。ページ間での移動を円滑にするために、より効果的なナビゲーションも挿入します。テンプレートの変更バージョンは次のようになります。

```
{## unit}{## header}
<html><head>
<meta HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html;
charset={## insert element=pragma.charset}" /></head>
<body>
{## anchor aref="prev" format="<p><a href=\"%url\">Prev</a></p>"}
{## /header}
<p>Here is the document you requested.
{## insert element=property.title} by
{## insert element=property.author}</p>

<p>Below is the document itself</p>
{## insert element=body}
{## footer}
{## anchor aref="next" format="<p><a href=\"%url\">Next</a></p>"}
</body>
</html>
{## /footer}{## /unit}
```

ページ・サイズ・オプションには、非常に小さな値（約 20 文字）が使用されます。結果として作成される HTML は、次のようになります（マクロの結果である HTML は太字の部分です）。

### file1.htm

```
<html><head>
<meta HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=us-ASCII"/></head>
<body>
<p>Here is the document you requested.</p>
<p>A Poem by Phil Boutros</p>
<p><a href="file2.htm">Next</a></p>
</body>
</html>
```

## file2.htm

```
<html><head>
<meta HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=us-ASCII" /></head>
<body>
<p><a href="file1.htm">Next</a></p>
<p>Below is the document itself</p>
<p>Roses are red</p>
<p>Violets are blue</p>
<p><a href="file3.htm">Prev</a></p>
</body>
</html>
```

## file3.htm

```
<html><head>
<meta HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html; charset=us-ASCII" /></head>
<body>
<p><a href="file2.htm">Prev</a></p>
<p>I'm a programmer</p>
<p>and so are you</p>
</body>
</html>
```

ここでは注意すべき点がいくつかあります。

- ❖ ページ・サイズ・オプション値は、テンプレートのテキストに適用されるのではなく、ソース・ドキュメントから挿入されたテキストに対してのみ適用されます。各ページには、約 20 文字の目に見える入力ドキュメント・テキストが含まれます。
- ❖ キャラクタ・セットの {## INSERT} は {## HEADER} の一部であるため、すべての出力ページに挿入されます。
- ❖ 単位の本体のテキストは、順次挿入されます。したがって、<p>Below is the document itself</p> 行のようなそのままのテンプレート・テキストは、一度しか挿入されません。
- ❖ {## ANCHOR} タグは、前 / 次のページへのリンク（実際に前 / 次のページがある場合）を挿入するのみです。したがって、最初のページには、存在しない前のページへのリンクはありません。

## {## UNIT} マクロのないテンプレート

{## UNIT} マクロは、SCCOPT\_EX\_PAGESIZEpageSize オプションを使用して、サイズに基づいたページ分割を行うためのテンプレートでのみ必要です。サイズベースの分割を実行しないテンプレートの例は、HTML の <FRAME> を定義するけれども、ドキュメントのコンテンツはまったく含まないテンプレートです。サイズベースの分割が不要なもう 1 つの例は目次ページで、たとえ目次ページにドキュメント・コンテンツが含まれていても同じです。

{## UNIT} 形式に準拠しないテンプレートは、サイズベース分割のテンプレートではありません。このタイプのテンプレートのサポートは、今後も継続されます。最初に出現するマクロ・タグが {## UNIT} 以外のものであれば、そのテンプレートはサイズベース分割のテンプレートではないと考えられます。つまり、テンプレートではその後に {## UNIT}、{## HEADER} または {## FOOTER} のいずれのマクロもないということです。SCCOPT\_EX\_PAGESIZEpageSize オプションの値は、このタイプのテンプレートでは無視されます。

## 索引とサイズベースの分割

前述のように、反復可能ノードはすべて、索引変数に関連付けられています。Next や Last などの索引変数キーワードの使用については、7-14 ページの「[索引変数キーワード](#)」を参照してください。

# スプレッドシートおよびデータベース・ファイルをナビゲートするためのグリッドの使用

スプレッドシート（および、一般的ではありませんが、データベース・ファイル）をサポートするために、グリッドとして知られるテンプレートベースのナビゲーション概念を利用できます。グリッドは、スプレッドシートまたはデータベースを直観的に確実にナビゲートする方法を提供します。

グリッドを使用すると、大きなスプレッドシートを小さい要素に分けて出力でき、その結果、スクロールの必要性が減ります。グリッドは、大きなスプレッドシートの HTML バージョンがブラウザの表示能力を超えて、場合によっては動かなくなるようなことがないようにするためにも使用できます。グリッドは、CPU 時間を浪費しすぎる前に、大きなスプレッドシートの処理を停止するためにも使用できます。

グリッドを使用するには、新しいグリッド・テンプレート要素を使用する必要があります（7-5 ページの「[要素の定義](#)」を参照）。グリッドは、{## UNIT} テンプレート・マクロが有効になっているテンプレートでのみ使用できます。グリッド関連オプションを設定することも重要です（7-38 ページの「[テンプレート内でのオプションの設定](#)」: {## OPTION}」を参照）。

グリッド・サポートには、いくつか重要な制限があります。

1. 出力ファイル形式およびフレーバは、必須ではありませんが、表をサポートすることが期待されます。
2. グリッドは、スプレッドシートとデータベース入力ファイルの変換時にのみ使用されます。現時点では、ワード・プロセッサ・ファイルには使用できません。
3. サイズ制限のため、グリッド・サポートは、入力ファイル内のセルのコンテンツで多くの書式設定（太字、特殊フォント、テキストの色など）が使用されていない場合に、最も効果を発揮します。

グリッド・システムを詳細に説明するために、例として複数シートのスプレッドシート・ワークブックを考えてみます。スプレッドシート・ワークブック内の各シートは、多数のグリッドに分割されます。各グリッドは、最大サイズが一定であり、スプレッドシートの長方形の部分になります。グリッドのサイズは、スプレッドシートのセルの数として指定します。たとえば、次の 7 × 10 のスプレッドシートについて考えてみます。

<b>A1</b>	<b>B1</b>	<b>C1</b>	<b>D1</b>	<b>E1</b>	<b>F1</b>	<b>G1</b>
<b>A2</b>	<b>B2</b>	<b>C2</b>	<b>D2</b>	<b>E2</b>	<b>F2</b>	<b>G2</b>
<b>A3</b>	<b>B3</b>	<b>C3</b>	<b>D3</b>	<b>E3</b>	<b>F3</b>	<b>G3</b>
<b>A4</b>	<b>B4</b>	<b>C4</b>	<b>D4</b>	<b>E4</b>	<b>F4</b>	<b>G4</b>
<b>A5</b>	<b>B5</b>	<b>C5</b>	<b>D5</b>	<b>E5</b>	<b>F5</b>	<b>G5</b>
<b>A6</b>	<b>B6</b>	<b>C6</b>	<b>D6</b>	<b>E6</b>	<b>F6</b>	<b>G6</b>
<b>A7</b>	<b>B7</b>	<b>C7</b>	<b>D7</b>	<b>E7</b>	<b>F7</b>	<b>G7</b>
<b>A8</b>	<b>B8</b>	<b>C8</b>	<b>D8</b>	<b>E8</b>	<b>F8</b>	<b>G8</b>
<b>A9</b>	<b>B9</b>	<b>C9</b>	<b>D9</b>	<b>E9</b>	<b>F9</b>	<b>G9</b>
<b>A10</b>	<b>B10</b>	<b>C10</b>	<b>D10</b>	<b>E10</b>	<b>F10</b>	<b>G10</b>



これを  $3 \times 4$  のグリッドに分割する場合、次の図に示すように 9 つのグリッドが作成されます。

A1	B1	C1
A2	B2	C2
A3	B3	C3
A4	B4	C4

D1	E1	F1
D2	E2	F2
D3	E3	F3
D4	E4	F4

G1
G2
G3
G4

A5	B5	C5
A6	B6	C6
A7	B7	C7
A8	B8	C8

D5	E5	F5
D6	E6	F6
D7	E7	F7
D8	E8	F8

G5
G6
G7
G8

A9	B9	C9
A10	B10	C10

D9	E9	F9
D10	E10	F10

G9
G10

通常、すべてのグリッドには同数のセルがあります。例外は、スプレッドシートの右端と一番下のグリッドで、標準サイズより小さくなります。グリッドは、要求されたサイズより大きくなることはありません。このため、グリッドは、**up**、**down**、**left**あるいは**right**を使用して、簡単にナビゲートできます。グリッドで唯一できないことは、スプレッドシート内の個々のセルへのアドレス指定です（グリッドのサイズが  $1 \times 1$  の場合は除きます）。

**Dynamic Converter** では、各グリッド間でデッキ / ページ分割は強制的に実行されません。したがって、テンプレート作成者が、各デッキ / ページのグリッドを 1 つのみに制限する場合、テンプレート内で分割を強制する必要があります。

## 表がない場合のグリッド・サポート

**Dynamic Converter** によってサポートされているすべての出力フレーバが、表の作成をサポートしているわけではありません。出力フレーバが表をサポートしていない場合でも、**Dynamic Converter** ではグリッドをサポートします。ただし、**Dynamic Converter** の標準的な表なしの出力は、グリッド形式で提示されます。たとえば、**[A1]** が A1 セルのコンテンツを表す場合に、次のものを  $(2 \times 2)$  のサイズのグリッド用にエクスポートします。

`grids.1.body` が次のようになります。

[A1]

[A2]

[B1]

[B2]

すると、`grids.right.body` は次のようになります。

[C1]

[C2]

[D1]

[D2]

そして、`grids.down.body` は次のようになります。

[A3]

[A4]

[B3]

[B4]

# 8

## HTML スニペット

### 概要

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [HTML スニペットの概要](#) (8-1 ページ)
- ❖ [ポータルスタイルの Web サイトのサンプル](#) (8-2 ページ)
- ❖ [Web ページへの HTML スニペットの統合](#) (8-3 ページ)
- ❖ [インライン動的変換](#) (8-5 ページ)
- ❖ [Web ページ上でのコンテンツ・サーバー・メタデータの表示](#) (8-6 ページ)

### HTML スニペットの概要

---

旧リリースの Dynamic Converter（リリース 6.0 より前）と Content Server では、コンテンツ・アイテムは、チェックインして、動的に HTML に変換し、単独で Web ページとしてユーザーに表示できました。ネイティブのビジネス・ドキュメントを Web で参照可能なバージョンに（誰でも見られるように）変えるための解決策は存在しました。しかし、多数のソース・コンテンツ・アイテムからの情報（あるドキュメントのマーケティング情報、別のドキュメントのプレス・リリース、またはフォームからの顧客のフィードバックなど）を 1 つの Web ページ上で組み合わせる場合には、そのようなドキュメントを手動で作成し、Web ページに変換することが必要でした。複数のコンテンツ・アイテムを組合せ、それらを同じ Web ページ上に表示する方法はありませんでした。

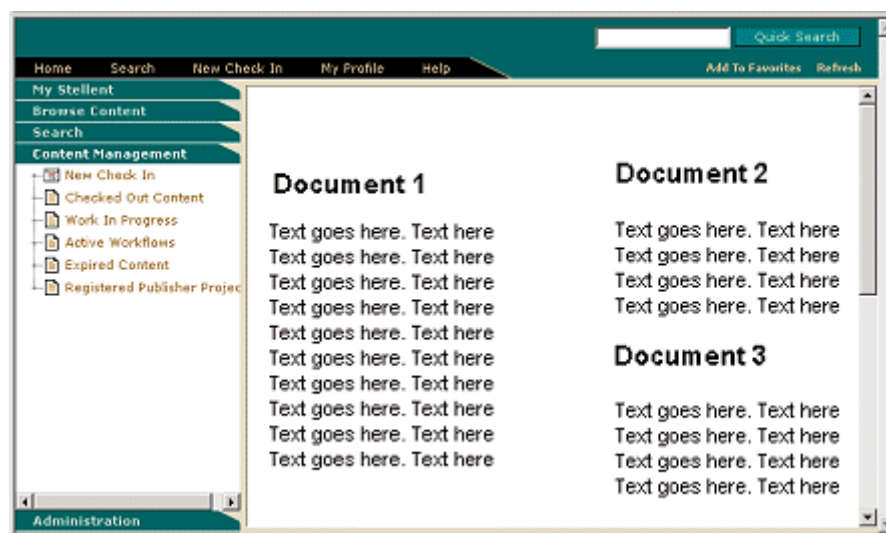
現在の **Dynamic Converter** ではこの問題が解決され、その結果、強力で情報の豊富な Web ページをユーザーのために作成できるようになりました。現行バージョンのテンプレートと新しい **Idoc Script** 関数を使用すると、複数のコンテンツ・アイテムから、またはそれらのコンテンツ・アイテムの一部からさえ、動的に変換された構成要素を引き出し、それらを単一の Web ページ（組み合わされた HTML スニペット）としてユーザーに表示できるようになりました。さらに、組み込まれるコンテンツ・アイテムごとに、特定のバージョン、テンプレートおよびレイアウト・ファイルを指定できます。

その結果が、任意の数のソースから動的に生成されたコンテンツを描画する **ポータルスタイルの Web サイト** です（次を参照）。

## ポータルスタイルの WEB サイトのサンプル

次の図は、動的に変換されたコンテンツの 4 つの要素を、Content Server 環境（枠線およびナビゲーション）で囲んだ単純なポータルスタイルの Web ページを示しています。コンテンツの各要素は、実際には Content Server にチェックインされたドキュメントです。多くの要素が直接に集まりますが、ユーザーにとっては単一のシームレスな Web ページです。

図 8-1 複数の HTML スニペットを使用したポータルスタイルの Web ページ



このようなページ、または HTML のコード・スニペットを組み合わせる同様のページを作成するには、コンテンツ・アイテムを同じ Web ページ上に表示できるように、コンテンツ・アイテムの動的変換をカスタマイズする必要があります。これには、動的に変換される HTML ファイルから TOP、HEAD および BODY のタグを削除するテンプレートまたはレイアウト・ファイルを作成します（次の項の手順 1 を参照）。

次に、新規の Idoc Script 関数を使用して、コンテンツ ID、バージョン、テンプレートおよびレイアウトごとに HTML スニペットを呼び出します。これはすべて、次の Idoc Script タグ内で指定できます。

```
<$incDynamicConversion(Content ID, revisionselectionmethod, template, layout)$>
```

## WEB ページへの HTML スニペットの統合

HTML スニペットを単一の Web ページに統合するには、次のようにします。

1. [コンテンツ・アイテムから HTML のスニペットを生成します](#) (次の項を参照)。
2. [Idoc Script を使用して HTML のスニペットをホスト・ページ \(HCST ファイル\) に呼び出します](#) (8-4 ページを参照)。

## HTML のスニペットの生成

次のいずれかの方法を使用して、コンテンツ・アイテムから HTML のスニペットを生成できます。

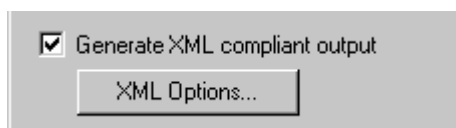
1. [変換テンプレートの XML 準拠化](#) (次の項を参照)
2. [本体コンテンツのみのレイアウト・テンプレートの作成](#) (8-4 ページを参照)

### 方法 1: 変換テンプレートの XML 準拠化

テンプレートを XML 準拠にすることにより、Web ページの最初と最後にある標準的な HTML タグ (<HTML>、<HEAD>、<BODY> など) を削除します。XML 準拠の GUI テンプレートを作成するには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 [ページ](#) (1-13 ページ) を開きます。
2. 「**Edit Template**」をクリックします。  
「[Edit Templates](#)」 [ページ](#) (5-17 ページ) が表示されます。
3. 「**Template**」テキスト・ボックスに必要なテンプレートのコンテンツ ID を入力するか、「**Available Templates**」ドロップダウン・メニューから必要なテンプレートを選択します。
4. 「**Edit Template**」をクリックします。  
既存の GUI テンプレートを更新するかわりに、HTML スニペット専用設計した新しいテンプレートを作成してもかまいません。  
[テンプレート・エディタ](#) (5-2 ページを参照) が起動します。
5. 「**Globals**」をクリックします。
6. 「Globals」ダイアログで、「**Options**」タブをクリックします。

7. 「Generate XML compliant output」をクリックして、この機能を有効にします。



8. 「OK」をクリックし、「Globals」ダイアログを閉じ、もう一度「OK」をクリックして、テンプレート・エディタを閉じます。

これで変換テンプレートにより、コンテンツ・アイテムから必要な HTML コードが作成され、別の Web ページに簡単に組み込めるようになります（次の項の [Idoc Script 関数](#) を使用）。

## 方法 2: 本体コンテンツのみのレイアウト・テンプレートの作成

Web ページの最初と最後にある標準的な HTML タグ（<HTML>、<HEAD>、<BODY> など）を削除するもう 1 つの方法は、変換された HTML ファイルに BODY タグのコンテンツのみを置くレイアウト・テンプレートの指定です。これは、次のコード（[トークン](#)と言います）を単独で [レイアウト・テンプレート](#) に置くことで実行できます。

```
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(BODY) -->
```

必要なコードが含まれたサンプル・レイアウト・テンプレート [snippet\\_layout.txt](#)（6-5 ページを参照）を使用することもできます。このファイルは、`[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/gui_layouts/` ディレクトリ（`[CS_Dir]` は、Content Server インストール・ディレクトリ）にあります。



**注意:** HTML スニペット用に GUI テンプレートまたはレイアウト・テンプレートのいずれを作成する場合でも、そのテンプレートをコンテンツ・アイテムに関連付けする必要はありません。次の [Idoc Script 関数](#) と併用する適切なテンプレートを指定できます。

## Idoc Script 関数を使用した HTML スニペットの組み込み

[コンテンツ・アイテムから HTML のスニペットを作成](#)（8-3 ページを参照）すると、別の Web ページからそのコンテンツ・アイテムを参照できるようになります。これを行うには、次の Idoc Script 関数を HCST ファイルで使します。

```
<$incDynamicConversion(Content ID, revisionselectionmethod, template, layout)$>
```

この Idoc Script 関数は、コンテンツ ID、バージョン、テンプレートおよびレイアウト（レイアウト・テンプレート）でコンテンツを参照します。たとえば、最新バージョンの Sales ドキュメントを Business GUI テンプレートと `snippet_layout` レイアウト・テンプレートを使用して Web ページに組み込む場合は、次のコードを使します。

```
<$incDynamicConversion("Sales","latest","Business","snippet_layout")$>
```



**技術ヒント:** XML 準拠のテンプレートを使用して、コンテンツ・アイテムから HTML のコード・スニペットを作成した場合（8-3 ページを参照）、同じスニペットの効果をもたらすレイアウト・テンプレートを指定する必要はありません。かわりに、Idoc Script 関数 `<$incDynamicConversion("Sales","latest","Business","")$>` に空白パラメータを渡すことができます。

参考用に、[snippet\\_layout.txt](#) というサンプル・レイアウト・スニペットが提供されています（6-5 ページを参照）。これは

`[CS_Dir]/custom/DynamicConverter/samples/gui_layouts/` ディレクトリ（`[CS_Dir]` は Content Server のインストール・ディレクトリ）にあります。このサンプル・ファイルには、Content Server に格納されている他のコンテンツ・アイテムの情報（HTML スニペット）を描画するポータルスタイルの Web ページの基本要素が含まれています（結果は、8-2 ページの「ポータルスタイルの Web サイトのサンプル」の図と非常によく似たものになります）。

ファイルには、次の部品が含まれています。

- ❖ Content Server の枠線とナビゲーションを表示するヘッダーおよびフッター情報
- ❖ ポータル・ページのレイアウトを制御する HTML の表（最上部の表セルに 2 列、最下部に 1 列）
- ❖ コンテンツの 3 つの個別要素をポータル・ページに組み込む 3 つの Idoc Script 関数（それぞれのバージョン、テンプレートおよびレイアウト・ファイルを参照）

このポータル Web ページのサンプルから始めて、ニーズに合わせてカスタマイズできます。

## インライン動的変換

Dynamic Converter には、GUI テンプレートまたはレイアウト・テンプレートを参照することなく、ネイティブ・ドキュメントを HTML スニペットに変換できる Idoc Script 拡張機能が含まれています。変換は、本体コンテンツのみを指定するレイアウト・テンプレートと空白の GUI テンプレートを併用する場合と同じです。（ただし、この変換で使用される変換テンプレートまたはレイアウト・テンプレートは変更できません。）

次の Idoc Script コードを使用すると、ネイティブ・ドキュメントをこの方法で変換できます。

```
incInlineDynamicConversion(dDocName, Revision_Selection_Method)
```

ネイティブ・ドキュメントのコンテンツ ID をリビジョンとともにカッコ内に入れます。たとえば、ネイティブ・ドキュメントのコンテンツ ID が SalesDoc である場合、完全な Idoc Script 構文は次のようになります。

```
<$incInlineDynamicConversion("SalesDoc", "Latest")$>
```

または

```
<$incInlineDynamicConversion("SalesDoc", "LatestReleased")$>
```

このタイプの変換は、コンテンツ・サーバー内で GUI テンプレートとレイアウト・テンプレートを指定する必要がなく、ネイティブ・ドキュメントを HTML スニペットに変換する場合に便利です。

## WEB ページ上でのコンテンツ・サーバー・メタデータの表示

---

Dynamic Converter には、ドキュメントのコンテンツ・サーバー・メタデータを変換されたページ上で使用可能にできる **Idoc Script** 拡張機能が含まれています。この機能を使用するには、次のコードを変換テンプレートに挿入します。

```
dcLoadDocInfo()
```

このコードは、ドキュメント変換でのテンプレートの使用方法に応じて、[レイアウト・テンプレート](#)（第 6 章を参照）または [GUI テンプレート](#)（第 5 章）に追加できます。

Web ページの任意の部分でドキュメント・メタデータの使用が試行される前に、このコードを配置することが重要です。

最も簡単な解決策は、コードをレイアウト・テンプレートの一番上に追加することです。このようにすると、ドキュメントにコンテンツ・サーバー・メタデータを使用する Web ページのすべての部分が機能します。このコードは、GUI テンプレートのどのセクションにも追加できます（詳細は、テンプレート・エディタ・ヘルプの「Web ページへの HTML またはスクリプト・コードの組込み」を参照してください）。



# 9

## 変更済コンテンツの操作

### 概要

---

この項の内容は、次のとおりです。

- ❖ [コンテンツ情報の表示](#) (9-1 ページ)
- ❖ [変換済ファイルの表示](#) (9-5 ページ)
- ❖ [チェックイン前のドキュメントのプレビュー](#) (9-7 ページ)

### コンテンツ情報の表示

---

コンテンツ・サーバーにチェックインしたコンテンツにはすべて、独自のコンテンツ情報ページがあり、コンテンツ・アイテムに関するメタデータ情報（コンテンツ ID、タイトル、作成者、その他のメタデータなど）の表示や確認に使用できます。テンプレート選択ルール基準を指定するため、ソース・ドキュメントのコンテンツ情報ページに頻繁にアクセスすることになります。


検索結果ページ上の「Info」リンク () は、コンテンツ・アイテムのコンテンツ情報ページにアクセスするために使用され、ここでコンテンツ・アイテムのメタデータを表示できます。このページを使用して、特定のコンテンツ・アイテムに関する情報を表示および確認します。たとえば、ファイルのリリース日または作成者のユーザー・ログインを確認できます。

図 9-1 コンテンツ情報ページ

Content Information

Content ID: Executive\_overview

Revision: 1

Type: ADACCT - Acme Accounting Department

Title: Executive Overview

Author: sysadmin

Comments:

Template Type:

Security Group: Public

Checked Out By:

Status: Released

Formats: application/msword

Content Actions

E-mail

Links

Web Location: [http://SCSTEST7/stellent/groups/public/documents/adacct/executive\\_overview.doc](http://SCSTEST7/stellent/groups/public/documents/adacct/executive_overview.doc)

Native File: [dc\\_sample.doc](#)

Revision	Release Date	Expiration Date	Status	Actions
[ 1 ]	3/6/07 5:02 PM	None	Released	<a href="#">Delete</a>

このページには、コンテンツ・アイテムに関する次のような多くの情報が表示されます。

- ❖ ファイルをコンテンツ・サーバーにチェックインしたときに入力を完了したすべてのメタデータ・フィールドの値。
- ❖ 作成者の名前（ユーザー・ログイン）。
- ❖ ファイルがそのライフ・サイクルのどこにあるかを示すファイル・ステータス。
- ❖ ファイルが作成されたネイティブ・アプリケーションのファイル形式。ファイル形式は、MIME コンテンツ・タイプとして表されます。
- ❖ 現在の Web 上の場所、つまり、チェックインされたコンテンツ・アイテムの Web 表示可能なレンディション（PDF など）が生成された場合、そのレンディションを指す、アクティブなハイパーリンクです。この URL は、コンテンツ・アイテムの最新リビジョンの Web 表示可能なレンディションを一意に指します。
- ❖ ネイティブ・ファイル・リンク。このリンクを使用すると、コンテンツ・アイテムのネイティブ形式（もともとそのアイテムが作成された形式）のコピーを取得できます。リンクをクリックすると、ネイティブ・アプリケーションでそのファイルを開くことも（コンピュータにそのアプリケーションがインストールされている場合）、ファイルをローカルのハード・ドライブに保存することもできます。リンクを右クリックして、ファイルをローカルに保存することもできます。これにより、再利用のためにファイルのコピーを作成できます。その後、ファイルを新しいリビジョンとして、もう一度コンテンツ・サーバーにチェックインできます。
- ❖ 完全なリビジョン履歴。



**注意:** 「Revision History」セクションの「Revision」列に表示されているリビジョン・リンクをクリックすると、コンテンツ・アイテムの任意のリビジョンについて、コンテンツ情報を表示できます。現在表示されているコンテンツ・アイテムは、角カッコ ([ ]) で囲まれています。

図 9-2 コンテンツ・アイテムのリビジョン履歴

Revision History				
Revision	Release Date	Expiration Date	Status	Actions
[ 2 ]	1/23/07 5:39 PM	None	Done	Delete
1	8/23/06 1:19 PM	None	Released	Delete

コンテンツ情報ページには、ファイルのメタデータ、ステータスおよびリビジョン履歴の表示の他にもいくつか機能があります。使用可能なオプションは、割り当てられた権限や、コンテンツ・サーバーの構成によって決まり、次のいずれかが含まれる可能性があります。

アクション	定義
Check Out	ファイルを編集のためにチェックアウトし、後から同じコンテンツ ID と 1 増えたリビジョン番号（コントリビュータである場合）でチェックインできます。
Undo Check Out	コンテンツ・アイテムのチェックアウトを取り消します。コンテンツ情報ページ上の「Checked out by」の隣の名前は表示されなくなります。admin ロールを持っている場合、またはコンテンツ・アイテムが属するセキュリティ・グループに対する管理者権限がある場合、自分がチェックアウトしたコンテンツ・アイテムのチェックアウトの取消しのみを実行できます。
Check In	現在チェックアウトされているコンテンツ・アイテムの新しいリビジョンをチェックインします。
Update	コンテンツ・サーバーにすでにチェックインされているコンテンツ・アイテムのメタデータ・フィールドを変更できます。たとえば、「Update」を使用して、タイトル・フィールドでスペルの間違った単語を訂正したり、最初にコンテンツ・タイプを間違って入力した場合に正しいコンテンツ・タイプを選択したりできます。

アクション	定義
Check In Similar	直前にチェックインしたコンテンツ・アイテムと同じメタデータで、もう 1 つのコンテンツ・アイテムをチェックインできます。
Send link by e-mail	Web 表示可能なファイルの URL (Web アドレス) へのリンクを含む新しいメッセージとともに、電子メール・プログラムを開きます。
Subscribe	コンテンツ・アイテムにタグを付けて、変更されると (新規リビジョンがチェックインされた場合など) 自動的に電子メールで通知されるようにします。電子メールのアドレスがソフトウェアで認識されていない場合は、入力を要求されます。
Unsubscribe	コンテンツ・アイテムのサブスクリプションを取り消します (たとえば、新規リビジョンの通知がなくなります)。
Create Shortcut	コンテンツ・サーバーのコンテンツ・アイテムへのショートカットを作成し、「Browse Content」の下フォルダに格納できます。
Delete Revision	システムからファイルのリビジョンを削除できます。リビジョンを削除するには、そのファイルが属するセキュリティ・グループに対する削除権限が必要です。
Revision Number	指定したリビジョンのコンテンツ情報を表示します。


コンテンツ・アイテムのコンテンツ情報ページにアクセスするには、次のようにします。

1. コンテンツ・アイテムを検索します。



**注意:** コンテンツの検索の詳細は、『Content Server ユーザー・ガイド』を参照してください。

検索結果ページが表示されます。

2. コンテンツ情報を表示するファイルに対応した「Info」アイコン (  ) をクリックします。

コンテンツ情報ページが表示されます。

## 変換済ファイルの表示

Dynamic Converter は、ネイティブ・アプリケーション（Microsoft Word、Excel またはその他のアプリケーションなど）で作成されたソース・ドキュメントを開くために、クライアント・ワークステーションにネイティブ・アプリケーションのインストールが必要になる問題への解決策を提供します。これには、ソース・ドキュメントの Web 表示可能なバージョンを、リクエスト時に直接作成することで対応します。

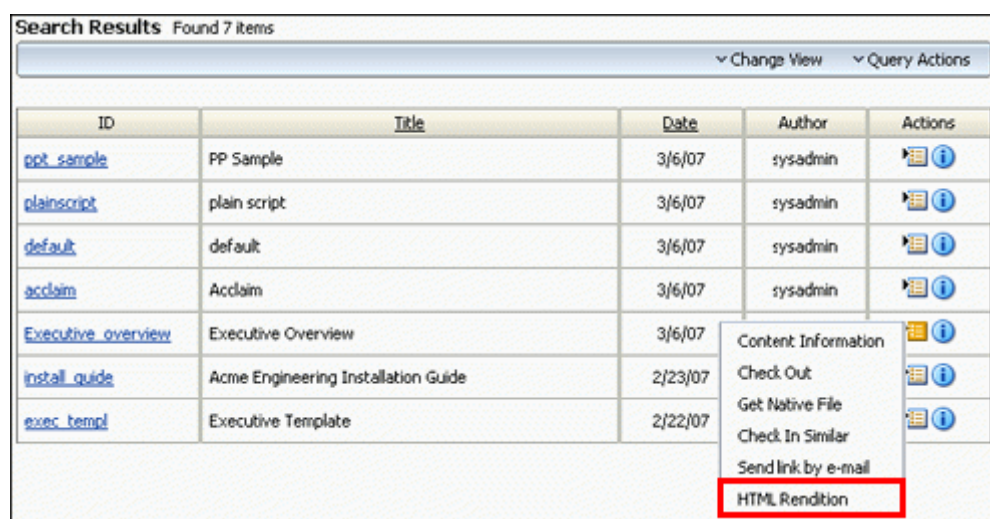
ソース・ドキュメントの Web 表示可能なバージョンは、これらのコンテンツ・サーバーのページ上にある HTML リンクをクリックすることで表示できます。

- ❖ 「[Search Results](#)」 ページ (9-5 ページ)
- ❖ 「[Content Information](#)」 ページ (9-6 ページ)

### 「Search Results」 ページ

Content Server の拡張検索機能を使用すると、コンテンツ・アイテムを検索できます。メタデータによる検索または全文検索（あるいはその両方）を、コンテンツ・サーバーの設定に応じて実行できます。検索結果は、検索結果ページに表示されます。リスト内のコンテンツ・アイテムのファイル・タイプがサポートされていて、HTML 変換が有効な場合、「**HTML Rendition**」リンクがアクション・ポップアップ・メニューに含まれます。このリンクを使用すると、コンテンツ・アイテムの HTML レンディションを表示できます。

図 9-3 「Search Results」 ページの「HTML Rendition」リンク



「**HTML Rendition**」リンクをクリックすると、「[Template Selection Rules](#)」 ページ (3-2 ページ) で指定したルールおよびテンプレートを使用して、ファイルが変換され、表示されます。

## 「Content Information」 ページ

Content Server にチェックインしたすべてのコンテンツ・アイテムには、独自のコンテンツ情報ページがあり、そのコンテンツ・アイテムのメタデータ情報（コンテンツ ID、タイトル、作成者、その他のメタデータなど）が表示されます。

コンテンツ・アイテムのファイル・タイプが、Dynamic Converter でサポートされていて、HTML 変換が有効な場合、コンテンツ情報ページの「Get Conversion」の隣に「(HTML)」リンクが表示されます。このリンクを使用すると、コンテンツ・アイテムの HTML レンディションを表示できます。

図 9-4 コンテンツ情報ページの「(HTML)」リンク

**Content Information**

Content ID: Executive\_overview  
Revision: 1  
Type: ADACCT - Acme Accounting Department  
Title: Executive Overview  
Author: sysadmin  
Comments:  
Template Type:  
Security Group: Public  
Checked Out By:  
Status: Released  
Formats: application/msword

**Links**

Web Location: [http://SC8TEST7/stellent/groups/public/documents/adacct/executive\\_overview.doc](http://SC8TEST7/stellent/groups/public/documents/adacct/executive_overview.doc)  
**Get Conversion (HTML)**  
Native File: [dc\\_sample.doc](#)

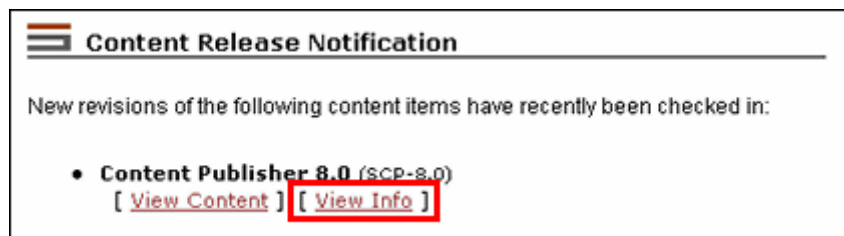
Revision	Release Date	Expiration Date	Status	Actions
[ 1 ]	3/6/07 5:02 PM	None	Released	<a href="#">Delete</a>

「(HTML)」リンクをクリックすると、「[Template Selection Rules](#)」ページ (3-2 ページ) で指定したルールおよびテンプレートを使用して、ファイルが変換され、表示されます。

## サブスクリプション通知とワークフロー通知

コンテンツ・サーバーに格納されているコンテンツ・アイテムをサブスクライブしている場合、受信する電子メール・メッセージにある「**View Info**」リンクを使用しても、コンテンツ情報ページを開くことができます。

図 9-5 サブスクリプションの電子メール通知メッセージの「View Info」リンク



これと同じリンクはワークフロー通知メッセージにもあり、これを使用すると、コンテンツ閲覧者がソース・ファイルの作成に使用されたネイティブ・アプリケーションを持つ必要はありません。

## チェックイン前のドキュメントのプレビュー

コンテンツ・コントリビュータは、コンテンツ・サーバーにチェックインする前に、ドキュメントの HTML レンディションをプレビューできます。コントリビュータは、ドキュメントまたはドキュメントに関連付けられたテンプレートに問題があるかどうかを確認し、サイトのウェブマスターまたは開発者に知らせることができます。その結果、さらに多くのユーザーや顧客が変換されたコンテンツを閲覧する前に、問題を解決できます。コンテンツ作成者とサイト開発者のどちらにも、このようにドキュメントをプレビューする機能が役に立ちます。

動的なコントリビュータ・プレビューは、Content Server のコンテンツ・チェックイン・ページの「(HTML)」ボタンとして表示されます。

図 9-6 コンテンツ・チェックイン画面上の HTML プレビュー・ボタン



ドキュメントが選択され、ドキュメントにすべてのメタデータが割り当てられると、ドキュメントが Web ページとしてどのように表示されるかを確認するために、プレビュー・ボタンをクリックします。その結果、画面の左側のフレームに「Complete Check In」リンク、右側のフレームに変換済のドキュメントが表示されます。

図 9-7 動的変換プレビュー



ドキュメントの HTML レンディションに問題がない場合は、「**Complete Check In**」をクリックして、ドキュメントをコンテンツ・サーバーにチェックインできます（このとき、チェックインの確認画面に移動します）。このプロセスを取り消し、コンテンツ・チェックインの画面に戻るには、Web ブラウザの「戻る」ボタンをクリックします。



**注意:** 関連付けられたテンプレートがないメタデータを使用してドキュメントをチェックインすると、空白の GUI テンプレートが割り当てられます。このテンプレートには、ドキュメントを Web ページに変換する以外に、特別の書式設定の指示は含まれていません。



**技術ヒント:** サイト管理者は、テンプレート・エディタで「**Change Preview**」ボタンを使用して、コンテンツ・アイテムが特定のテンプレートでどのように表示されるかをプレビューすることもできます。



# 10

## 実装の考慮事項

この章では、Dynamic Converter を操作する際のより実際的な問題をいくつか取り上げます。次の項目について説明します。

- ❖ [マルチバイト文字のメタデータ・フィールド](#) (10-2 ページ)
- ❖ [UNIX での PDF ファイルの変換](#) (10-2 ページ)
- ❖ [UNIX 上の埋込み画像](#) (10-3 ページ)
- ❖ [ベクターおよびラスター画像形式の使用](#) (10-3 ページ)
- ❖ [UNIX でのベクター画像とスプレッドシート・テキストの変換](#) (10-3 ページ)
- ❖ [URL のリライト](#) (10-4 ページ)
- ❖ [テンプレートおよびレイアウト・ファイル内の相対 URL](#) (10-5 ページ)
- ❖ [ブラウザのキャッシュ](#) (10-6 ページ)
- ❖ [イメージのサイズ設定ルール](#) (10-7 ページ)
- ❖ [CSS の考慮事項](#) (10-7 ページ)
- ❖ [Dynamic Converter で使用されるスタイル名](#) (10-8 ページ)
- ❖ [Dynamic Converter のスタイルのオーバーライド](#) (10-9 ページ)
- ❖ [Pragma.CSSFile と {## LINK}](#) (10-9 ページ)
- ❖ [適格な HTML](#) (10-10 ページ)
- ❖ [位置フレームのサポート](#) (10-10 ページ)
- ❖ [テンプレート作成のヒント](#) (10-11 ページ)

## マルチバイト文字のメタデータ・フィールド

---

Dynamic Converter がマルチバイト環境（日本語、韓国語またはその他のローマ字以外の文字）で使用されていても、コンテンツ ID、セキュリティ・グループ、コンテンツ・タイプおよびアカウント名には、マルチバイト文字を使用しないことをお勧めします。このコンテンツ・メタデータ情報はコンテンツ・アイテムの URL に含まれており、現行の Web テクノロジでの制限により、Web サーバーと Web ブラウザでマルチバイト文字 URL を正しく処理できない場合があります（たとえば、リンクが壊れている場合、Dynamic Converter ではコンテンツ・アイテムを検索することができません）。

コンテンツ ID、セキュリティ・グループ、コンテンツ・タイプまたはアカウントにマルチバイト文字を使用する場合、Content Server 環境全体（サーバーとクライアント）が、マルチバイト言語をサポートするオペレーティング・システム（たとえば、Microsoft Windows の日本語または韓国語バージョン）で実行されていることを確認する必要があります。

## UNIX での PDF ファイルの変換

---

UNIX での PDF ファイルの変換は遅く、3 分（変換プロセスのデフォルトのタイムアウト値）後にタイムアウトする可能性があります。

変換タイムアウトの値を増やすには、次のようにします。

1. 「[Dynamic Converter Admin](#)」 ページ（1-13 ページ）を開きます。
2. 「**Configuration Settings**」 をクリックします。  
「[Dynamic Converter Configuration](#)」 ページ（2-1 ページ）が表示されます。
3. 「**Time Out**」 フィールドに新しい値を入力します（デフォルトの 3 分から増やします）。
4. 「**Update**」 をクリックして、変更を有効にします。



**注意：**変更した設定はただちに有効になるため、コンテンツ・サーバーを再起動する必要はありません。

## UNIX 上の埋込み画像

---

ソース・ドキュメントのなかには、埋込み OLE オブジェクトが含まれているものがあります。埋込み OLE オブジェクトには通常、Windows メタファイルのフォームにスナップショット画像が添付されています。Windows と UNIX のどちらでも、Dynamic Converter はメタファイル・スナップショットを使用して、OLE オブジェクトを変換できます。メタファイルが使用できない場合、Dynamic Converter は、変換のために OLE テクノロジーに復帰します。その場合、変換は Windows では成功しますが、UNIX では失敗します。

## ベクターおよびラスター画像形式の使用

---

ベクター画像を変換する場合、Dynamic Converter は実行中の X サーバーにアクセスする必要があります。これは、Dynamic Converter がピクセルの描画を X サーバー・システムに依存しているためです。

ベクター画像形式では、線と塗りを描画します。一般的な形式は、WMF、EMF、CorelDRAW、Adobe Illustrator、Excel のグラフ、Word のオートシェイプおよび PowerPoint のプレゼンテーションです。一方、ラスター画像には、イメージのピクセル情報が含まれます。一般的なファイル形式は、BMP、JPEG および GIF です。

ベクター画像とラスター画像の違いを見分ける 1 つの方法は、イメージを拡大することです。ベクター画像は線を描画するため、線の配置が再計算され、イメージはそのままきれいに表示されます。しかし、ラスター画像は、サイズを変更すると画素化されます。

UNIX での画像とフォントのレンダリングを設定する方法は、『Dynamic Converter インストール・ガイド』を参照してください。

## UNIX でのベクター画像とスプレッドシート・テキストの変換

---

ベクター画像を変換し、スプレッドシートの複数の列にまたがるテキストを正しく測定するために、Dynamic Converter では、UNIX で実行されている X サーバーにアクセスする必要があります。

UNIX での画像とフォントのレンダリングを設定する方法は、『Dynamic Converter インストール・ガイド』を参照してください。

## URL のリライト

Dynamic Converter では、`dcUrl('url', reserved_type)` Idoc Script 拡張関数ですべてのハイパーリンクおよびイメージ・ソース・リンク (src) を囲みます。このスクリプト関数のデフォルト実装では、単なるパススルーを実行しますが、外部統合テクノロジー (CIS など) では、`dcUrlFilter` のフィルタ・プラグインを定義することにより、この動作を変更できます。

Dynamic Converter は、リンク URL を評価し、`dcUrlFilter` フィルタがある場合はそれを適用し、その後、URL 値を戻します。`dcUrlFilter` フィルタが定義されていない場合は、元の URL は変わりません。内部ブックマークへのリンクは、常に変わりません。

### 予約タイプ

`reserved_type` 関数の引数は、1001、1002 などの数値で、Dynamic Converter コア・エンジンで URL が書き込まれる場所を示します。この値は、URL のタイプ (ギャラリー画像、ドキュメント内リンクなど) を識別するために使用できます。予約タイプ値とそれらの意味は次のとおりです。

値	説明
1001	ハイパーリンク (異なる分割)
1002	前の要素 (異なる分割)
1003	前のページ (TOC フレーム)
1004	前のページ
1005	次のページ (TOC フレーム)
1006	次のページ
1007	次の要素 (異なる分割)
1008	前のページ (TOC フレーム)
1009	前のページ
1010	次のページ (TOC フレーム)
1011	次のページ
1012	前のカード・リンク (WML エクスポート)

値	説明
1013	ページの上部: カードベースの分割ではなく、テンプレート分割 (WML エクスポート)
1014	次のカード・リンク (WML エクスポート)
1015	前のページ (WML リンカー)
1016	ページの上部 (WML リンカー)
1017	次のページ (WML リンカー)
1018	イメージ・リンク
1019	イメージ・リンク
1020	イメージ・リンク
1021	イメージ・リンク
1022	背景画像 (非ソース由来)
1023	背景画像 (ソース由来)

## テンプレートおよびレイアウト・ファイル内の 相対 URL

イメージ・タグ `<IMG SRC="image.gif">` について考えます。Dynamic Converter の大部分の実装では、たいてい出力ファイルがテンプレート・ファイルとは異なる場所に格納されます。この状況で開発者がテンプレートを使用すると、作成される出力ファイルには `image.gif` への参照が付き、ブラウザではこのファイルのパスが出力ファイルと同じとみなされます。問題は、`image.gif` が、テンプレート・ファイルのあるディレクトリに戻る可能性があることです。これは、相対 URL を使用してテンプレートで参照されるすべてのものについての問題です。この問題には、いくつかの解決策が考えられます。

### 解決策 1: 参照が正しいことの確認

すべてのテンプレートが参照するファイルを開発者が正確に知っている場合、正しいファイル (`image.gif` など) を出力ディレクトリに移動または配置することができます。この解決策では、開発者がテンプレートのコンテンツに関する正確な知識を持っていることが必要であり、ファイルの同じセットが多くの出力場所に伝播される可能性があります。

## 解決策 2: 絶対 URL の使用

開発者は、どの参照ファイルに対しても絶対 URL が含まれるようにテンプレートを設計できます。例のテンプレートは、次のようなものになります。

```
<HTML>
<BODY>
<P><IMG SRC="http://www.company.com/templates/image.gif"></P>
{## INSERT ELEMENT=Sections.1.Body}
</BODY>
</HTML>
```

かわりに `<$HTTPWEBROOT$>` を使用すると、特定のドメインに関する出力ファイルの問題はなくなります。

## 解決策 3: 別のファイルでのパス文の作成

開発者は、次の例のように、パスを指定する別の Idoc Script ファイルを作成できます。

```
<@dynamichtml Image_Dir@<$HttpWebRoot$>groups/public/documents/graphic/<@end@>
```

開発者は次に、Idoc リソースおよび参照に、組み込まれた Idoc Script ファイルのパス文を次のようにロードできます。

```

```

指定されたパスに一致するセキュリティ・グループおよびドキュメント・タイプ（この例では、セキュリティ・グループは **Public**、ドキュメント・タイプは **Graphic**）で画像（または関連ファイル）がチェックインされていれば、パスは解決されてページが正しく表示されます。

# ブラウザのキャッシュ

テンプレートの作成およびデバッグのプロセスでは、同じソース・ファイルを、多少異なるテンプレートで **Dynamic Converter** を介して繰り返し実行することになります。出力ファイルにどのように名前を付けるかによって、同じファイル名のセットが繰り返し作成される場合があります。このような状況では（特に、出力を Web サーバーからではなく、ファイル・システムから直接読み取る場合）、ブラウザには新しい結果ではなく、キャッシュされた古い結果が表示される傾向があります。

出力が正しくないと思われる場合は、テンプレートまたはソフトウェアの問題と判断する前に、すべてのフレームで「**Refresh**」をクリックしてください。



**技術ヒント:** テンプレートの作成およびテスト中に、ブラウザでキャッシュを空にして無効にする方が簡単な場合があります。

## イメージのサイズ設定ルール

---

最終的にエクスポートされるイメージのサイズに影響を与える要素が多数あります。それらの要素がどのように作用するかのルールの優先順位は、次のとおりです。

1. テンプレートで `{## graphic}` マクロによって指定されたイメージは、特定のデッキ上で画像に使用可能な領域から差し引かれます。一般に、イメージはドキュメントの画像に使用できる領域の全体量を消費するため、デッキごとにイメージが必要なテンプレートには注意する必要があります。
2. `SCCOPT_EX_GRAPHICBUFFERSIZE` オプション。必要に応じてイメージのサイズを縮小する場合にのみ使用します。イメージの縦横比は維持されます。
3. `SCCOPT_GRAPHIC_SIZELIMIT` オプション。必要に応じてイメージのサイズを縮小する場合にのみ使用します。イメージの縦横比は維持されます。
4. `SCCOPT_GRAPHIC_WIDTHLIMIT` オプションと `SCCOPT_GRAPHIC_HEIGHTLIMIT` オプション。これらは、必要に応じてイメージのサイズを縮小する場合にのみ使用します。縦横比は、両方が指定されている場合でも維持されます。
5. テンプレートの `{## INSERT}` 文の `"width="` パラメータと `"height="` パラメータ。指定した寸法に一致するように、イメージを縮小または拡大します。イメージの縦横比は、両方のパラメータを指定した場合、変更されます。これらのパラメータを一方のみ指定した場合、またはどちらも指定しなかった場合、縦横比は変わりません。
6. ソース・ファイルと DPI 設定の情報に基づいた元のイメージの寸法（該当する場合）。

## CSS の考慮事項

---



**注意：**この項で説明するスタイルは、[スクリプト・テンプレート](#)（[第7章](#)を参照）関連のみです。[GUI テンプレート](#)（[第5章](#)を参照）のスタイルの処理は異なります。

Cascading Style Sheet (CSS) の最も強力な機能の1つは、様々な方法で提案されたスタイルをオーバーライドする機能です。Dynamic Converter では、ユーザーが作成されたスタイル・シートをオーバーライドできるように CSS サポートが設計されています。つまり、ユーザーは、多数の作成者のドキュメントを融合し、より見た目が統一されたコレクションにすることができます。このオーバーライドを機能させるには、まずスタイル名を理解する必要があります。

さらに、Dynamic Converter からの出力は多くの HTML ファイルに配置されることにも留意する必要があります。特に、`<LINK REL=STYLESHEET HREF="{## INSERT ELEMENT=Pragma.cssFile}">` 文が必ず適切な場所に置かれるように、注意が必要です。

## DYNAMIC CONVERTER で使用されるスタイル名

---

スタイル名は、ソース・ドキュメントでの元のスタイル名から取られます。スタイル名には、CSS 標準で認められる継承制限があります。標準で使用が認められる文字は、`a ~ z`、`A ~ Z`、`0 ~ 9` およびダッシュ (`-`) のみです。ソース・ドキュメントのスタイル名には、必ずしもこの制限がありません。実際には、Unicode 文字が含まれていることさえあります。このため、元のスタイル名は、この標準に従うために変更が必要になる場合があります。不正なスタイル名を回避するために、Dynamic Converter では、すべてのソース・スタイル名で次の置換が行われます。

- ❖ 文字が「`-`」の場合は、「`--`」に置き換えられます。
- ❖ 文字が残りの文字 (`a ~ z`、`A ~ Z` または `0 ~ 9`) のいずれでもない場合、「`-xxxx`」に置き換えられます。`xxxx` は、その文字の 16 進 Unicode 値です。
- ❖ 前述の状況のいずれにも当てはまらない場合は、文字はそのスタイル名で正常に表示されます。

この置換の最も一般的な例の 1 つに、スタイル名の空白が「`-0020`」で置き換えられるというものがあります。スタイル名における文字置換のより包括的な例として、ソース・スタイル名 `My Special H1-Style!` について考えます (名前に空白と感嘆符が含まれています)。これは `My-0020Special-0020H1--Style-0021` に変換されます。

このシステムは明らかに見た目の美しさに欠けますが、ブラウザが重複または無効なスタイル名を取得した場合に、ドキュメントの外観についての問題を回避できます。開発者にとって、これらのスタイル名を解析または作成するために必要なコードが簡単であることも評価できます。

さらに、Dynamic Converter では、スタイルの特別なリスト・バージョンが作成されます。これらは、元になっているスタイルと同じ名前で、最後に `--List` が付いています。これらのスタイルは、ブロックレベルの CSS が含まれていないという点で、元のスタイルとは異なります。



## DYNAMIC CONVERTER のスタイルのオーバーライド

---

スタイル名がわかれば、Dynamic Converter で作成される CSS ファイルのオーバーライドは簡単です。CSS オーバーライド・ファイルへの別のリンクがあるテンプレートで、CSS ファイル・リンクをたどります。Dynamic Converter の CSS ファイルへのリンクの詳細は、次の項を参照してください。このオーバーライド・ファイルには、Dynamic Converter の CSS ファイルで使用されているものと同じ名前のスタイルが含まれている必要があります。

多くのファイル形式では、以前に定義された他のスタイルに基づいたスタイルが許可されていることに留意してください。Dynamic Converter では、スタイルをネストすることでこれをサポートします。このようにして、ネストされた各スタイルでは、周囲のスタイルで定義されているアイテムが継承されます。また、それらをオーバーライドすることもあります。

## PRAGMA.CSSFILE と {## LINK}

---

HTML の CSS フレーバが使用されると、作成される各 HTML ファイルの一番上には、`{## INSERT Element=Pragma.CSSFile}` 文が 1 つ出現します。そのため、**## LINK** 文が、追加の HTML ファイルの作成をトリガーするために使用される場合があることに留意する必要があります。結果として、**## Link** 文のある各テンプレートには、通常、生成された CSS ファイルへの `<Link>` タグが含まれます。

しかし、**## LINK** 文を使用すると、CSS ファイルを参照する必要のある `{##}` 文のないテンプレートへのリンクが可能です。その場合、CSS ファイルへの `<Link>` は、安全に省略できます。たとえば、2 つの **##** 文しかないテンプレートについて考えます。どちらも **##** リンク（おそらくは個別の 2 つのフレームに結果を配置するためのもの）です。このテンプレート・ファイルには、CSS ファイルへの `<Link>` は不要です。

Dynamic Converter によって生成される HTML ファイルの数には関係なく、CSS ファイルは 1 つしか生成されません。繰り返しますが、CSS ファイルへの `<Link>` は、必ずドキュメントの `<HEAD>` セクションに出現し、結果として作成される各 HTML ファイルには `<HEAD>` セクションが 1 つしかありません。

## 適格な HTML

---

Dynamic Converter の出力は、適格であることを確認するためにテストされています。しかし、Dynamic Converter によって使用されるテンプレートも適格でなければ、無意味です。適格なテンプレートの作成を支援するために、適格でないドキュメントが作成される原因となる一般的な問題を次に示します。

- ❖ すべてのタグは正しくネストする必要があります。
- ❖ 開始したタグはすべて閉じる必要があります。これには、通常は閉じタグが必要と考えられない<META>、<LINK>、<FRAME>、<HR> および<BR>などのタグが含まれます。
- ❖ 等号 (=) の後のものはすべて二重引用符で囲む必要があります。したがって、<FONT COLOR="0000FF"> は適格ですが、<FONT COLOR=0000FF> は不適格です。
- ❖ &nbsp; をドキュメントで表示するには、<!DOCTYPE> 文を HTML コードにすることが必要です。Dynamic Converter では、SCCHTML\_FLAG\_STRICT\_DTD フラグが設定されている場合に、テンプレートに<!DOCTYPE> 文が含まれていたかどうかはわからないため、&nbsp; のかわりに必ず &#160; が使用されます。
- ❖ 0x80 ~ 0xFF の範囲の文字は、&#xxx; の形式で書かれます。
- ❖ どのドキュメントでも使用可能な 0x20 未満の文字は、\t、\n および \r の 3 文字のみです。
- ❖ タグのすべての属性の後には、=value が続きます。したがって、<Table NoWrap> の NoWrap は不適格です。Dynamic Converter では、かわりに<Table NoWrap=NoWrap> が使用されます。

## 位置フレームのサポート

---

Dynamic Converter 7.7 以上では、オブジェクトの位置付けに DHTML を使用します。ただし、サポートされているオブジェクトの位置付けのタイプは、**パラグラフ・アンカー・オブジェクト**と**ページ・アンカー・オブジェクト**の 2 つのみです。この位置フレームの初期サポートについて、いくつかの重要な注意事項を次に示します。

- ❖ Dynamic Converter では、たとえ同じ場所に配置されるように見えても、パラグラフ・オブジェクトはページ・オブジェクトとは別に生成されます。
- ❖ 別々の画像アイテムが互いの上に配置される場合、透過性はサポートされません。SCCOPT\_EX\_PREVENTGRAPHICOVERLAP オプションは、これらの画像には適用されません。画像は、ドキュメント内のテキストを基準とするのではなく、アンカー・ポイントが存在する場所を基準として表示されます。さらに、Dynamic Converter では、回転や引伸ばしなど、一部の画像効果がサポートされていません。

- ❖ 最良の結果を得るには、SCCOPT\_EX\_GRAPHICOUTPUTDPI オプションを正しく設定するように注意することが重要です。
- ❖ 場合によっては、入力ドキュメントで位置フレーム・オブジェクトが使用されていると、オブジェクトが正確に配置されていない出力が **Dynamic Converter** で作成されることがあります。しかし、この最終結果は、リリース 7.7 より前の **Dynamic Converter** で位置フレーム・オブジェクトを処理したときの最終結果（画像が長い列に配置される）と同様です。
- ❖ 位置フレームのサポートは、HTML の 4.0 フレーバでのみ機能します。

## テンプレート作成のヒント

---

各デッキの領域の量が制限される場合、**Dynamic Converter** で作成される各デッキにおける使用可能なデータの量を最大化することが重要です。各デッキで無駄に消費される領域の量を減らすには、次の方法があります。

- ❖ テンプレートで不要な空白文字を削除します。これらの文字の存在は、テンプレートの読取り、編集、メンテナンスを容易にしますが、これらは各出力デッキにもそのまま書き込まれます。デッキ・サイズが小さいデバイス用のテンプレートを作成する場合、各デッキで使用可能なデータの量を増やすために、余分な空白文字を削除することに価値があることがわかります。SCCOPT\_EX\_COLLAPSEWHITESPACE オプションは、テンプレートの空白には影響を与えないことに注意してください。
- ❖ デッキ間の余分なリンクは削除します。ナビゲーションのよさが不可欠である一方で、重複するリンクや不要なリンクは、データの各デッキで残された領域の量を侵食します。ナビゲーションに使用されるマークアップに加えて、SCCOPT\_EX\_MAXURLLENGTH オプションによって決まるリンクのURL用に領域が確保されます。現在のところ、URL がこの長さより短くても、空白は回収されません。さらに、URL がこの長さより長い場合、デッキのオーバーフローが発生する可能性があります。





# 変換フィルタ

Dynamic Converter では、変換フィルタを使用して、[入力ファイル](#)を変換します。

❖ [アプリケーション・フィルタ](#) (A-1 ページ)

❖ [画像フィルタ](#) (A-9 ページ)

## アプリケーション・フィルタ

Dynamic Converter では、次のフィルタを使用して、アプリケーション・ファイルを変換します（アルファベット順）。

フィルタ名	フィルタの説明
ACD2	AutoCad 2004 / 2005 / 2006（テキストのみ）
ACS	Microsoft Access 1.0、Microsoft Access 2.0
AMI	Ami Pro、Ami、Professional Write Plus
BDR	Microsoft Office Binder 7.0、Microsoft Office Binder 97（ <b>Binder</b> ファイルに含まれるファイルの変換は、Windows でのみサポート）
DBS	DBase III、DBase IV、DBase V
DEZ	DataEase 4.x
DIF	Navy DIF
DRW	Micrografx 社のドロー製品

フィルタ名	フィルタの説明
DX	DEC DX 3.0 および DEC DX 3.1
EMF	Enhanced Windows Metafile
EN4	Enable Word Processor 4.x
ENS	Enable Spreadsheet
ENW	Enable Word Processor 3.0
EXE2	DOS 実行可能ファイル、Windows 実行可能ファイルまたは DLL
FAX	CCITT Group 3 Fax
FCD	First Choice DB
FCS	First Choice SS
FFT	IBM DCA/FFT
FLW	Freelance for OS/2 バージョン 1.0 および 2.0、Freelance for Windows バージョン 1.0 & 2.0、Freelance 96 for Windows 95、Freelance 97 for Windows 95、Freelance for SmartSuite Millennium Edition、Freelance for SmartSuite Millennium Edition 9.6
FWK	Framework III
GDSF	*.FLT フィルタ用インタフェース (A-9 ページの「画像フィルタ」を参照)
GIF	CompuServe GIF
GZIP	UNIX GZip
HGS	Harvard Graphics DOS 3.0 Chart、Harvard Graphics DOS 2.0 Chart、Harvard Graphics DOS 3.0 Presentation
HTML	Internet HyperText Markup Language (3.0 まで、制限あり)
HWP	Hangul 97
HWP2	Hangul 2002
ICH	一太郎バージョン 8.x ~ 13.x および 2004

フィルタ名	フィルタの説明
ICH6	一太郎バージョン 4.x ～ 6.x
IWP	Wang IWP
JBG2	PDF ファイルの JBIG2 画像埋込み
JW	JustWrite 1.0、JustWrite 2.0、Q&A Write 3
LEG	Legacy、Wordstar for Windows
LWP	<b>Win32 プラットフォームの場合のみ。</b> Lotus WordPro 96、Lotus WordPro 97、Lotus WordPro for SmartSuite Millennium Edition、Lotus WordPro for SmartSuite Millennium Edition 9.6
LWP7	<b>非 Win32 プラットフォームの場合のみ、およびテキスト抽出 / 表示のみサポート。</b> Lotus WordPro 97、Lotus WordPro for SmartSuite for the Millennium、Lotus WordPro for SmartSuite Millennium Edition 9.6
LZH	LZH 圧縮、LZA 自己解凍型圧縮
M11	Mass 11
MANU	Lotus Manuscript 1.0、Lotus Manuscript 2.0
MCW	MacWrite II
MIF	FrameMaker MIF バージョン 3.0、4.0、5.0、5.5、6.0 および日本語版 3.0、4.0、5.0 および 6.0 (テキストのみ)
MIME	MIME エンコード・メール・メッセージ (MIME サポートの詳細は、B-12 ページの「 <a href="#">MIME サポートの注意事項</a> 」を参照)
MM	MultiMate 3.6、MultiMate Advantage 2
MM4	MultiMate 4.0
MMFN	MultiMate Note
MP	Multiplan 4
MPP	Microsoft Project バージョン 98 ～ 2003 (テキストのみ)
MSG	Microsoft Outlook Message および Microsoft Outlook Form Template バージョン 97、98、2000、2002 および 2003

フィルタ名	フィルタの説明
MSW	Microsoft Word 4.x、Microsoft Word 5.x、Microsoft Word 6.x、Windows Write
MWKD	Mac Works 2.0 Database
MWKS	Mac Works 2.0 Spreadsheet
MWP2	Mac WordPerfect 2.0、Mac WordPerfect 3.0
MWPF	Mac WordPerfect 1.x
MWRK	Mac Works 2.0 WP
OW	OfficeWriter
PCL	PC File 5.0 Doc
PCX	Paintbrush、DCX（マルチページ PCX）
PDX	Paradox 2 および 3、Paradox 3.5、Paradox 4、Paradox for Windows
PFS	PFS: Write A、PFS: Write B、Professional Write 1、Professional Write 2、IBM Writing Assistant、First Choice word processor、First Choice 3 word processor
PGL	HP Graphics Language
PIC	Lotus PIC
PICT	Macintosh PICT、Macintosh PICT2
PNTG	MacPaint
PP12	PowerPoint 2007
PP2	Microsoft PowerPoint 3.0 for Windows、PowerPoint 4.0 for Windows、PowerPoint 4.0 for the Mac
PP7	Microsoft PowerPoint 7.0 for Windows 95



フィルタ名	フィルタの説明
PP97	プレゼンテーション (PPT) およびスライドショー (PPS) サポートを含む。Microsoft PowerPoint 97、Microsoft PowerPoint Dual 95/97、PowerPoint 98 for the Mac、PowerPoint 2000、PowerPoint 2001 for the Mac、PowerPoint 2002 (XP)、PowerPoint 2003、PowerPoint 2004 for the Mac および PowerPoint v.X for the Mac
PPL	PFS: Plan
PSP6	<b>Windows プラットフォームの場合のみ。</b> Paint Shop Pro 5.0 および 6.0
PST	Microsoft Outlook フォルダおよび Microsoft Outlook オフライン・フォルダ・ファイルのバージョン 97、98、2000、2002 および 2003
PSTF	PST フィルタ・サポート
QA	Q&A Write
QAD	Q&A Database
QP6	Quattro Pro 5.0 ～ 8.0
QP9	Quattro Pro 9.0 ～ 12.0 (テキストのみ)
RAS	Sun Raster
RBS	R:Base System V、R:Base 5000
RFT	IBM DCA/RFT
RFX	Reflex
RTF	リッチ・テキスト形式
SAM	Samna
SC5	SuperCalc 5
SDW	Ami Draw
SHW3	Novell Presentations 3.0、Novell Presentations 7.0、Corel Presentations 8.0 ～ 12.0、WordPerfect Presentations
SMD	Smart DataBase

フィルタ名	フィルタの説明
SMS	Smart Spreadsheet
SMT	SmartWare II
SNAP	Lotus Snapshot
SO6	StarOffice 6.x ~ 8.x、OpenOffice 1.1 および 2.0 (Writer は完全サポート、Draw および Calc はテキストのみ)
SOC	StarOffice Calc 5.2 (テキストのみ)
SOI	StarOffice Impress 5.2 (テキストのみ)
SOI6	StarOffice Impress 6.x、7.x および 8.x、Open Office 1.1 および 2.0
SOW	StarOffice Writer 5.2 (テキストのみ)
SPT	Sprint
SWF	Macromedia Flash 6.x、Macromedia Flash 7.x および Macromedia Flash Lite (テキストのみ)
TAZ	UNIX compress、UNIX tar
TEXT	テキスト: DOS キャラクタ・セット、テキスト: ANSI キャラクタ・セット、テキスト: Macintosh キャラクタ・セット、テキスト: Unicode キャラクタ・セット、テキスト: UTF-8、テキスト: EBCDIC
TGA	Truevision TGA (TARGA)
TIF6	Tagged Image File Format、EPS (TIFF ヘッダーのみ)、CCITT Group 3 Fax、CCITT Group 4 Fax、JPEG、JFIF (TIFF 形式でない JPEG)
TW	Total Word
TXT	IBM DisplayWrite 2 または 3、IBM DisplayWrite 4、IBM DisplayWrite 5
VCRD	vCard、vCalendar
VISO	Visio 4: Page Preview モードのみ (WMF/EMF)、Visio 5、2000、2002 および 2003

フィルタ名	フィルタの説明
VW3	Volkswriter
W12	Microsoft Word 2007
W6	Microsoft Word 6.0 for Windows、Microsoft Word 7.0 for Windows 95、Microsoft WordPad
W97	Microsoft Word 97、Word 98 for the Mac、Word 98-J、Word 2000、Word 2001 for the Mac、Word 2002 (XP)、Word 2003、Word 2004 for the Mac および Word v.X for the Mac
WG2	Lotus 1-2-3 for OS/2 リリース 2
WK4	Lotus 1-2-3 3.0、Lotus 1-2-3 4.0、Lotus 1-2-3 5.0
WK6	Lotus 1-2-3 for SmartSuite 97、Lotus 1-2-3 for SmartSuite Millennium Edition、Lotus 1-2-3 for SmartSuite Millennium Edition 9.6
WKS	Lotus 1-2-3 1.0、Lotus 1-2-3 2.0、Symphony、Microsoft Works SS、Microsoft Works DB、VP-Planner、Mosaic Twin、Quattro (DOS)、Quattro Pro (DOS)、Generic WKS、Windows Works Spreadsheet、Windows Works Database
WM	WordMarc
WMF	Windows メタファイル
WML	Wireless Markup Language
WORD	Word for Windows 1.x、Word for Windows 2.0、Word for Macintosh 4.0、Word for Macintosh 5.0
WORK	Microsoft Works DOS 1.0 WP、Microsoft Works DOS 2.0 WP、Microsoft Works Win 3.0 WP、Microsoft Works Win 4.0 WP
WP5	WordPerfect 5.x
WP6	WordPerfect 6.0 ～ 12.0
WPF	WordPerfect 4.2
WPG	WordPerfect Graphic 1.0

フィルタ名	フィルタの説明
WPG2	WordPerfect Graphic 2.0
WPL	Dec WPS Plus 4.1
WPW	Novell PerfectWorks 2.0 word processor、Novell PerfectWorks 2.0 draw、Novell PerfectWorks 2.0 spreadsheet
WS	Wordstar 3.0、Wordstar 4.0、Wordstar 5.0、Wordstar 6.0、Wordstar 7.0
WS2	Wordstar 2000
XL12	Microsoft Excel 2007
XL5	Microsoft Excel 2.x、Excel 3.0、Excel 4.0、Excel 5.0、Excel 7.0、Excel 97、Excel 98 for the Mac、Excel 2000、Excel 2001 for the Mac、Excel 2002 (XP)、Excel 2003、Excel 2004 for the Mac、v.X for the Mac、Excel 2.x Chart、Excel 3.0 Chart、Excel 4.0 Chart、Excel 5.0 Chart、Excel 7.0 Chart
XML	XML (テキストのみ)
XY	XyWrite / Nota Bene、Signature
YIM	Yahoo! メッセンジャー 6.x および 7.x
ZIP	PKZIP 形式、自己解凍実行可能ファイル

# 画像フィルタ

Dynamic Converter では、次のフィルタを使用して、画像ファイルを変換します（アルファベット順）。

フィルタ名	フィルタの説明
ACAD	AutoCAD Drawing バージョン 2.5 ～ 2.6、9.0 ～ 14.0、2000i および 2002
BMP	Windows Bitmap、Windows Bitmap 98/2000、OS/2 Bitmap、OS/2 Warp Bitmap、Windows Cursor、Windows Icon、Corel Draw 2.0 ～ 11.0
CGM	Computer Graphics Metafile
ESHR	Escher internal Microsoft Office 画像形式
IBFPX2.FLT	Kodak Flash Pix
IBGP42.FLT	CALS Raster
IBJPG2.FLT	プログレッシブ JPEG
IBPCD2.FLT	Kodak Photo CD
IBPSD2.FLT	Adobe Photoshop（すべてのバージョン）
IBXBM2.FLT	X-Windows Bitmap
IBXPM2.FLT	X-Windows Pixmap
IBXWD2.FLT	X-Windows Dump
IMCDR2.FLT IMCD32.FLT IMCD42.FLT IMCD52.FLT IMCD62.FLT IMCD72.FLT IMCD82.FLT	Corel Draw バージョン 3、4、5、6、7、8
IMCMX2.FLT IMCM52.FLT IMCM72.FLT	Corel Draw Clipart

フィルタ名	フィルタの説明
IMDSF2.FLT	Micrografx Designer バージョン 6
IMFMV2.FLT	FrameMaker Vector and Raster Graphics (FMV)
IMG	GEM Image (ビットマップ)
IMGDF2.FLT	IBM Graphics Data Format (GDF)
IMGEM2.FLT	Gem File (ベクター)
IMIGS2.FLT	IGES Drawing
IMMET2.FLT	OS/2 PM Metafile
IMPIF2.FLT	IBM Picture Interchange Format
IMPS_2.FLT IMPSZ2.FLT IMPSI2.FLT	Postscript (Level 1 ~ 2) および EPS ファイル
IMRND2.FLT	AutoShade Rendering
IPHGW2.FLT	Harvard Graphics for Windows
PBM	PBM (Portable Bitmap)、PGM (Portable Graymap)、PPM (Portable Pixmap)
PDF PDFI	PDF バージョン 1.0 ~ 1.6 (日本語版 PDF を含む) および Adobe Illustrator バージョン 7.0 および 9.0
PNG	Portable Network Graphics
WBMP	WBMP ワイヤレス画像形式



# 入力ファイル形式

Dynamic Converter では、多数の入力ファイル形式を変換できます。

- ❖ [ワード・プロセッシング形式](#) (B-1 ページ)
- ❖ [デスクトップ・パブリッシング形式](#) (B-5 ページ)
- ❖ [データベース形式](#) (B-5 ページ)
- ❖ [スプレッドシート形式](#) (B-6 ページ)
- ❖ [プレゼンテーション形式](#) (B-7 ページ)
- ❖ [画像形式](#) (B-8 ページ)
- ❖ [圧縮形式](#) (B-11 ページ)
- ❖ [電子メール形式](#) (B-11 ページ)
- ❖ [その他の形式](#) (B-13 ページ)

## ワード・プロセッシング形式

---

ファイル形式	コメント
ANSI テキスト	7 および 8 ビット
ASCII テキスト	7 および 8 ビット
DEC WPS Plus (DX)	バージョン 3.1 まで
DEC WPS Plus (WPL)	バージョン 4.1 まで

ファイル形式	コメント
DisplayWrite 2 および 3 (TXT)	すべてのバージョン
DisplayWrite 4 および 5	バージョン 2.0 まで
EBCDIC	すべてのバージョン
Enable	バージョン 3.0、4.0 および 4.5
First Choice	バージョン 3.0 まで
Framework	バージョン 3.0
Hangul	バージョン 97 および 2002
IBM FFT	すべてのバージョン
IBM Revisable Form Text	すべてのバージョン
IBM Writing Assistant	バージョン 1.01
ジャストシステム一太郎	バージョン 4.x ~ 6.x、8.x ~ 13.x および 2004
JustWrite	バージョン 3.0 まで
Legacy	バージョン 1.1 まで
Lotus AMI/AMI Professional	バージョン 3.1 まで
Lotus Manuscript	バージョン 2.0
Lotus Word Pro (Windows 以外)	バージョン SmartSuite 97、Millennium および Millennium 9.6 (テキストのみ)
Lotus Word Pro (Windows)	バージョン SmartSuite 96、97、Millennium および Millennium 9.6
MacWrite II	バージョン 1.1
MASS11	バージョン 8.0 まで
Microsoft リッチ・テキスト形式 (RTF)	すべてのバージョン
Microsoft Word (DOS)	バージョン 6.0 まで



ファイル形式	コメント
Microsoft Word (Mac)	バージョン 4.0 ～ 2004
Microsoft Word (Windows)	バージョン 2007 まで
Microsoft WordPad	すべてのバージョン
Microsoft Works (DOS)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Mac)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Windows)	バージョン 4.0 まで
Microsoft Windows Write	バージョン 3.0 まで
MultiMate	バージョン 4.0 まで
Navy DIF	すべてのバージョン
Nota Bene	バージョン 3.0
Novell Perfect Works	バージョン 2.0
Novell/Corel WordPerfect (DOS)	バージョン 6.1 まで
Novell/Corel WordPerfect (Mac)	バージョン 1.02 ～ 3.0
Novell/Corel WordPerfect (Windows)	バージョン 12.0 まで
Office Writer	バージョン 4.0 ～ 6.0
OpenOffice Writer (Windows および UNIX)	OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0
PC-File Letter	バージョン 5.0 まで
PC-File+ Letter	バージョン 3.0 まで
PFS:Write	バージョン A、B および C
Professional Write (DOS)	バージョン 2.1 まで
Professional Write Plus (Windows)	バージョン 1.0
Q&A (DOS)	バージョン 2.0

ファイル形式	コメント
Q&A Write (Windows)	バージョン 3.0
Samna Word	バージョン Samna Word IV+ まで
Signature	バージョン 1.0
SmartWare II	バージョン 1.02
Sprint	バージョン 1.0 まで
StarOffice Writer	バージョン 5.2 (テキストのみ) および 6.x ~ 8.x
Total Word	バージョン 1.2
Unicode テキスト	すべてのバージョン
UTF-8	すべてのバージョン
Volkswriter 3 & 4	バージョン 1.0 まで
Wang PC (IWP)	バージョン 2.6 まで
WordMARC	バージョン Composer Plus まで
WordStar (DOS)	バージョン 7.0 まで
WordStar (Windows)	バージョン 1.0
WordStar 2000 (DOS)	バージョン 3.0 まで
XyWrite	バージョン III Plus まで

## デスクトップ・パブリッシング形式

ファイル形式	コメント
Adobe FrameMaker (MIF)	バージョン 3.0、4.0、5.0、5.5、6.0 および日本語版 3.0、4.0、5.0 および 6.0 (テキストのみ)

## データベース形式

ファイル形式	コメント
Access	バージョン 2.0 まで
dBASE	バージョン 5.0 まで
DataEase	バージョン 4.x
dBXL	バージョン 1.3
Enable	バージョン 3.0、4.0 および 4.5
First Choice	バージョン 3.0 まで
FoxBase	バージョン 2.1
Framework	バージョン 3.0
Microsoft Works (Windows)	バージョン 4.0 まで
Microsoft Works (DOS)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Mac)	バージョン 2.0 まで
Paradox (DOS)	バージョン 4.0 まで
Paradox (Windows)	バージョン 1.0 まで
Personal R:BASE	バージョン 1.0
R:BASE 5000	バージョン 3.1 まで

ファイル形式	コメント
R:BASE System V	バージョン 1.0
Reflex	バージョン 2.0
Q & A	バージョン 2.0 まで
SmartWare II	バージョン 1.02

## スプレッドシート形式

ファイル形式	コメント
Enable	バージョン 3.0、4.0 および 4.5
First Choice	バージョン 3.0 まで
Framework	バージョン 3.0
Lotus 1-2-3 (DOS および Windows)	バージョン 5.0 まで
Lotus 1-2-3 (OS/2)	バージョン 2.0 まで
Lotus 1-2-3 Charts (DOS および Windows)	バージョン 5.0 まで
Lotus 1-2-3 for SmartSuite	バージョン 97 ~ Millennium 9.6
Lotus Symphony	バージョン 1.0、1.1 および 2.0
Mac Works	バージョン 2.0
Microsoft Excel Charts	バージョン 2.x ~ 7.0
Microsoft Excel (Mac)	バージョン 3.0 ~ 4.0、98、2001、2002、2004 および v.X
Microsoft Excel (Windows)	バージョン 2.2 ~ 2007
Microsoft Multiplan	バージョン 4.0
Microsoft Works (Windows)	バージョン 4.0 まで

ファイル形式	コメント
Microsoft Works (DOS)	バージョン 2.0 まで
Microsoft Works (Mac)	バージョン 2.0 まで
Mosaic Twin	バージョン 2.5
Novell Perfect Works	バージョン 2.0
PFS:Professional Plan	バージョン 1.0
Quattro Pro (DOS)	バージョン 5.0 まで (テキストのみ)
Quattro Pro (Windows)	バージョン 12.0 まで (テキストのみ)
SmartWare II	バージョン 1.02
StarOffice/OpenOffice Calc (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 ~ 8.x、OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0 (テキストのみ)
SuperCalc 5	バージョン 4.0
VP Planner 3D	バージョン 1.0

## プレゼンテーション形式

ファイル形式	コメント
Corel/Novell Presentations	バージョン 12.0 まで
Harvard Graphics (DOS)	バージョン 2.x および 3.x
Harvard Graphics (Windows)	Windows バージョン
Freelance (Windows)	バージョン Millennium 9.6 まで
Freelance (OS/2)	バージョン 2.0 まで
Microsoft PowerPoint (Windows)	バージョン 3.0 ~ 2007
Microsoft PowerPoint (Mac)	バージョン 4.0 ~ v.X

ファイル形式	コメント
StarOffice/OpenOffice Impress (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 (テキストのみ) および 6.x ~ 8.x (完全サポート)、OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0 (テキストのみ)

## 画像形式

ファイル形式	コメント
Adobe Photoshop (PSD)	すべてのバージョン
Adobe Illustrator	バージョン 7.0 および 9.0
Adobe FrameMaker の画像 (FMV)	ベクター / ラスター 5.0 まで
Adobe Acrobat (PDF)	バージョン 1.0、2.1、3.0、4.0、5.0、6.0 および 7.0 (日本語版 PDF を含む)
Ami Draw (SDW)	Ami Draw
AutoCAD Interchange 形式および Native Drawing 形式 (DXF および DWG)	AutoCAD Drawing バージョン 2.5 ~ 2.6、9.0 ~ 14.0、2000i および 2002
AutoShade Rendering (RND)	バージョン 2.0
Binary Group 3 Fax	すべてのバージョン
ビットマップ (BMP、RLE、ICO、CUR、OS/2 DIB および WARP)	すべてのバージョン
CALS Raster (GP4)	Type I および Type II
Corel Clipart 形式 (CMX)	バージョン 5 ~ 6
Corel Draw (CDR)	バージョン 3.x ~ 8.x
Corel Draw (TIFF ヘッダー付き CDR)	バージョン 2.x ~ 11.0
Computer Graphics Metafile (CGM)	ANSI、CALS NIST バージョン 3.0

ファイル形式	コメント
Encapsulated PostScript (EPS)	TIFF ヘッダーのみ
GEM Paint (IMG)	すべてのバージョン
Graphics Environment Mgr (GEM)	ビットマップおよびベクター
Graphics Interchange Format (GIF)	すべてのバージョン
Hewlett Packard Graphics Language (HPGL)	バージョン 2
IBM Graphics Data Format (GDF)	バージョン 1.0
IBM Picture Interchange Format (PIF)	バージョン 1.0
Initial Graphics Exchange Spec (IGES)	バージョン 5.1
JBIG2	PDF ファイルの JBIG2 画像埋込み
JFIF (TIFF 形式ではない JPEG)	すべてのバージョン
JPEG (EXIF を含む)	すべてのバージョン
Kodak Flash Pix (FPX)	すべてのバージョン
Kodak Photo CD (PCD)	バージョン 1.0
Lotus PIC	すべてのバージョン
Lotus Snapshot	すべてのバージョン
Macintosh PICT1 および PICT2	ビットマップのみ
MacPaint (PNTG)	すべてのバージョン
Micrografx Draw (DRW)	バージョン 4.0 まで
Micrografx Designer (DRW)	バージョン 3.1 まで
Micrografx Designer (DSF)	Windows 95、バージョン 6.0
Novell PerfectWorks (Draw)	バージョン 2.0

ファイル形式	コメント
OS/2 PM Metafile (MET)	バージョン 3.0
Paint Shop Pro 6 (PSP)	Windows のみ、バージョン 5.0 ～ 6.0
PC Paintbrush (PCX および DCX)	すべてのバージョン
Portable Bitmap (PBM)	すべてのバージョン
Portable Graymap (PGM)	特定のバージョンなし
Portable Network Graphics (PNG)	バージョン 1.0
Portable Pixmap (PPM)	特定のバージョンなし
Postscript (PS)	レベル 1 ～ 2
プログレッシブ JPEG	特定のバージョンなし
Sun Raster (SRS)	特定のバージョンなし
StarOffice/OpenOffice Draw (Windows および UNIX)	StarOffice バージョン 5.2 ～ 8.x、OpenOffice バージョン 1.1 および 2.0 (テキストのみ)
TIFF	バージョン 6 まで
TIFF CCITT Group 3 および 4	バージョン 6 まで
Truevision TGA (TARGA)	バージョン 2
Visio (プレビュー)	バージョン 4
Visio	バージョン 5、2000、2002 および 2003
WBMP	特定のバージョンなし
Windows Enhanced Metafile (EMF)	特定のバージョンなし
Windows メタファイル (WMF)	特定のバージョンなし
WordPerfect Graphics (WPG および WPG2)	バージョン 2.0 まで
X-Windows Bitmap (XBM)	x10 互換
X-Windows Dump (XWD)	x10 互換



ファイル形式	コメント
X-Windows Pixmap (XPM)	x10 互換

## 圧縮形式

ファイル形式	コメント
GZIP	
LZA 自己解凍圧縮	
LZH 圧縮	
Microsoft Binder	バージョン 7.0 ～ 97 (Binder ファイルに含まれるファイルの変換は Windows でのみサポート)
UUEncode	
UNIX Compress	
UNIX TAR	
ZIP	PKWARE バージョン 2.04g まで

## 電子メール形式

ファイル形式	コメント
Microsoft Outlook フォルダ (PST)	Microsoft Outlook フォルダおよび Microsoft Outlook オフライン・フォルダ・ファイルのバージョン 97、98、2000、2002 および 2003

ファイル形式	コメント
Microsoft Outlook メッセージ (MSG)	Microsoft Outlook Message および Microsoft Outlook Form Template バージョン 97、98、2000、2002 および 2003
MIME	MIME エンコード・メール・メッセージ (MIME サポートの詳細は次の項を参照してください。)

## MIME サポートの注意事項

MIME エンコード・メール・メッセージ形式のサポートの詳細は次のとおりです。

- ❖ MIME 形式には次のものがあります。
  - EML
  - MHT (Web アーカイブ)
  - NWS (ニュースグループのシングルパートおよびマルチパート)
  - 単純なテキスト・メール (RFC 2822 で定義)
- ❖ TNEF 形式
- ❖ MIME エンコーディングには次のものがあります。
  - base64 (RFC 1521 で定義)
  - バイナリ (RFC 1521 で定義)
  - BinHex (RFC 1741 で定義)
  - btoa
  - quoted-printable (RFC 1521 で定義)
  - utf-7 (RFC 2152 で定義)
  - uue
  - xxe
  - yenc

さらに、メッセージの本文はいくつかの方法でエンコードできます。次のエンコーディングがサポートされています。

- ❖ テキスト
- ❖ HTML
- ❖ RTF
- ❖ TNEF

- ❖ Text/enriched (RFC1523 で定義)
- ❖ Text/richtext (RFC1341 で定義)
- ❖ 埋込みメール・メッセージ (RFC 822 で定義)。これは新規メッセージへのリンクとして処理されます。



**注意:** MIME メッセージの添付ファイルは、多くの形式で保存できます。サポートされるファイル形式の添付ファイルはすべて変換できます。

## その他の形式

ファイル形式	コメント
実行可能ファイル (EXE、DLL)	
HTML	バージョン 3.0 まで、制限あり
MacroMedia Flash	Macromedia Flash 6.x、Macromedia Flash 7.x および Macromedia Flash Lite (テキストのみ)
Microsoft Project	バージョン 98 ~ 2003 (テキストのみ) (MPP ファイルはデータベース・ライフとして処理されます。)
vCard、vCalendar	バージョン 2.1
Windows 実行可能ファイル	
WML	バージョン 5.2
XML	テキストのみ
Yahoo! メッセンジャー	バージョン 6.x および 7.x





# ELEMENTS スクリプト・テンプレート

## ELEMENTS スクリプト・テンプレート

---

Elements スクリプト・テンプレートは、ソース・ファイルのすべての要素を個別に定義します。

- ❖ 標準プロパティ（作成者、タイトル、件名、キーワード、コメント）
- ❖ ソース・ファイルの作成者によって組み込まれるその他のプロパティ
- ❖ ソース・ファイルのセクション
- ❖ その他すべてのプロパティ（脚注、文末脚注、注釈、コメント、ヘッダー、フッター、ブックマーク）

テンプレートは他のテンプレートによって呼び出されることはなく、単にすべてのソース・ファイル要素を分ける役割を果たします。

```
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//IETF//DTD HTML//EN">
<html>

<head>
<meta http-equiv="Content-Type"
content="text/html; charset={## INSERT ELEMENT=pragma.charset}">
{## IF ELEMENT=Property.Title}
  <TITLE>{## INSERT ELEMENT=Property.Title}</TITLE>
{## ELSE}
<TITLE>Converted {## INSERT ELEMENT=Pragma.SourceFileName}</TITLE>
{## /IF}
```

このドキュメントにタイトル・プロパティがある場合は、HTML タイトルに挿入します。ない場合は、HTML タイトルにドキュメントの名前を挿入します。

```

</head>

<body bgcolor="#FFFFFF">
<div align="left">

<table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
  <tr>
    <td><font size="7">Dynamic Converter</font><br>
      <font color="#FFFFFF" size="5">Sample Template - All
      Elements</font></td>
  </tr>
</table>
</div>

```

出力ページの一番上にある表、表内のテキスト (Dynamic Converter Sample Template - All Elements)、およびこのテキストのフォントの色とサイズを定義します。

```

<p>&nbsp;</p>
<div align="left">

<table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
<tr>
  <td><font color="#FFFFFF" size="5">Standard
  Properties</font></td></tr>
</table>
</div>

```

出力ページの2番目の表を定義します。

```

<p><strong>Author: </strong>
{## INSERT ELEMENT=Property.Author}<br>
<strong>Title: </strong>
{## INSERT ELEMENT=Property.Title}<br>
<strong>Subject: </strong>
{## INSERT ELEMENT=Property.Subject}<br>
<strong>Keywords: </strong>
{## INSERT ELEMENT=Property.Keywords}<br>
<strong>Comment:</strong>
{## INSERT ELEMENT=Property.Comment}</p>

```

これらの ## Insert マクロは、ソース・ファイルのそれぞれのプロパティ (Author、Title、Subject、Keywords、Comments) を、エクスポートされるソース・ファイルの作成者が記載したとおりに挿入します。

```

<div align="left">

<table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
  <tr>
    <td><font color="#FFFFFF" size="5">
    Other Properties</font></td>
  </tr>
</table>
</div>

```

出力ページの 3 番目の表を定義します。

```
<p>{## REPEAT ELEMENT=Property.Others}
<strong>
{## INSERT
ELEMENT=Property.Others.Current.Name}: </strong>
{## INSERT ELEMENT=Property.Others.Current.Body}<br>
{## /REPEAT}</p>
```

エクスポートされるソース・ファイルの他のプロパティの名前と本体を、ソース・ファイルの作成者が定義したとおりに挿入します。Name プロパティと Body プロパティは、初期プロパティ (Author、Title、Subject、Keywords、Comments) とは別に参照されます。ソース・ファイルの作成者は、初期プロパティのキーワードを持たない別のプロパティを作成することができ、これらの別個のプロパティは前述の ## REPEAT マクロを使用して読み取ることができます。これは、ソース・ファイルの他の指定されていないプロパティを、それらの名前要素と本体要素の両方を参照して出力することで、ループすることによって実行されます。

```
<p>{## REPEAT ELEMENT=Sections}</p>
```

反復可能要素 Sections に対するループを使用して、ソース・ファイルの最高レベルの抽象を表します。この反復可能要素により、3 シートのスプレッドシートに対してループを実行し、たとえば、各シートを出力で表示できます。1 つのセクションの別々の部分をそれぞれ出力するには、すべてのセクションを通してループする必要があります。一般には次のようになります。

- ❖ ワード・プロセッサ文書は 1 セクションのみであり、それは文書自体です。
- ❖ スプレッドシートは、各シートまたはグラフが 1 セクションです。
- ❖ プレゼンテーションは、各スライドが 1 セクションです。
- ❖ 画像は、ほとんどの場合は 1 セクションのみですが、マルチページ TIFF のように、複数セクションのものも多くあります。便宜上および読みやすさのため、Dynamic Converter では Sheets と Slides は Sections と同義です。

```
<div align="left">
<table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
<tr>
<td><font color="#FFFFFF" size="5">Section
{## INSERT NUMBER=Sections.Current.Value}
The fourth table of the output page is defined and the index value that
is inserted into the table is incremented once through each loop.
```

```

{## IF ELEMENT=Sections.Current.Type VALUE=WP}
- Document
{## ELSE}
{## IF ELEMENT=Sections.Current.Title} - {## INSERT
ELEMENT=Sections.Current.Title
SUPPRESSTAGS}
{## /IF}

{## /IF}

</font>
</td>

```

テンプレートは、ソース・ファイルがワード・プロセッシング（WP）かどうかを判断し、次の処理を行います。

- ❖ ソース・ファイルがワード・プロセッシングの場合、Document は、出力表の Section と索引値の後に置かれます。
- ❖ ソース・ファイルがワード・プロセッシングではない場合、テンプレートではソース・ファイルのタイトルを確認し、そのタイトルを出力に配置します。最後に、ソース・ファイル内にあるタグは、ソース・ファイルの出力では表示が抑止されます。この抑止は、ソース・ファイルの元のフォントを複製するために Dynamic Converter で追加される HTML タグを削除するために行われます。これは、次のいずれかの状況で行われます。
  - ❖ プレーン・テキストが適切である場合
  - ❖ テンプレート作成者が、出力テキストの外観を制御する場合

```

</tr>
</table>
</div>

<p>
{## INSERT ELEMENT=Sections.Current.BodyOrImage}</p>

```

このマクロ行を使用すると、テンプレート作成者は任意のドキュメント・タイプを説明できます。「要素」項の Sections.x.BodyOrImage を参照してください。

```

<p>
{## IF ELEMENT=Sections.Current.Type VALUE=WP}
</p>
  <p>
{## IF ELEMENT=Sections.Current.Footnotes.1.Body}
</p>
<div align="left">
<table border="0" cellpadding="2"width="600" bgcolor="#8080FF">
<tr>
  <td><font color="#FFFFFF" size="5">Footnotes</font>
</td>

```



```
</tr>
</table>
```

テンプレートでは、まずセクション・タイプがワード・プロセッシングであるかどうかを判断し、次にこのセクションに脚注が含まれているかどうかを判断します。脚注が含まれている場合は、Footnotes を導入する表が定義されます。

```

</div>
<p>
  {## REPEAT ELEMENT=Sections.Current.Footnotes}
    {## INSERT
ELEMENT=Sections.Current.Footnotes.Current.Body}
    <br>
    {## /REPEAT}
  {## ELSE}
    </p>
    <div align="left">
      <table border="0" cellpadding="2" width="600"
bgcolor="#8080FF">
        <tr>
          <td><font color="#FFFFFF" size="5">No
Footnotes</font></td>
        </tr>
      </table>
    </div>
    <p>
  {## /IF}

</p>
```

反復可能要素によって、現行セクションと関連付けられたすべての脚注が出力されます。現行セクションに関連付けられた脚注がない場合は、No Footnotes を示す表が作成されます。

このテンプレートの HTML コーディングの残りは、前述の Footnotes 反復可能要素にコーディングが似ている要素に関するものです。たとえば、次の反復可能要素 Endnotes の場合、コーディングは、脚注の場合と同様に、ソース・ファイル出力に文末脚注を表示する機能を果します。

- ❖ テンプレートでは、現行セクションに文末脚注が含まれているかどうかを判断します。
- ❖ 文末脚注が含まれている場合は、Endnotes を導入する表が定義されます。

反復可能要素によって、そのセクションと関連付けられたすべての文末脚注が出力されます。

- ❖ セクションに関連付けられた文末脚注がない場合、No Endnotes を示す表が作成されます。

次の HTML コーディングとその結果の出力では、注釈、コメント、ヘッダー、フッターおよびブックマークについて同じ手順となります。

```

<p>
{## IF ELEMENT=Sections.Current.Endnotes.1.Body}
    </p>
    <div align="left">
        <table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
            <tr>
                <td><font color="#FFFFFF"
size="5">Endnotes</font></td>
            </tr>
        </table>
    </div>
    <p>
        {## REPEAT ELEMENT=Sections.Current.Endnotes}
        {## INSERT
ELEMENT=Sections.Current.Endnotes.Current.Body}<br>
        {## /REPEAT}

{## ELSE}
    </p>
    <div align="left"><table border="0" cellpadding="2" width="600"
bgcolor="#8080FF">
        <tr>
            <td><font color="#FFFFFF"
size="5">No Endnotes</font></td>
        </tr>
    </table>
    </div>
    <p>

{## /IF}

</p>
<p>
{## IF ELEMENT=Sections.Current.Annotations.1.Body}
</p>
<div align="left">
<table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
<tr>
    <td><fontcolor="#FFFFFF" size="5">Annotations</font></td>
</tr>
</table>
</div>
<p>
{## REPEAT ELEMENT=Sections.Current.Annotations}
    {## INSERT ELEMENT=Sections.Current.Annotations.Current.
Body}<br>
{## /REPEAT}

{## ELSE}

```

```

</p>
    <div align="left">
<table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
<tr>
<td><font color="#FFFFFF" size="5">No Annotations</font></td>
    </tr>
    </table>
    </div>
    <p>
    {## /IF}

    </p>
<p>

{## IFELEMENT=Sections.Current.Headers.1.Body}
    </p>
<div align="left">
<table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
<tr>
<td><font color="#FFFFFF" size="5">Headers</font></td>
    </tr>
</table>
</div>
<p>
    {## REPEAT ELEMENT=Sections.Current.Headers}
    {## INSERT ELEMENT=Sections.Current.Headers.Current.Body}
<br>
    {## /REP}

{## ELSE}
    </p>
    <div align="left"><table border="0" cellpadding="2"
width="600" bgcolor="#8080FF">
    <tr>
<td><font color="#FFFFFF" size="5">No Headers</font></td>
    </tr>
    </table>
    </div>
    <p>
{## /IF}

</p>
<p>
{## IF ELEMENT=Sections.Current.Footers.1.Body}
    </p>
    <div align="left">
    <table border="0" cellpadding="2" width="600"
bgcolor="#8080FF">

```

```

        <tr>
            <td><font color="#FFFFFF" size="5">Footers</font></td>
        </tr>
    </table>
</div>
    <p>
        {## REPEAT ELEMENT=Sections.Current.Footers}
            {## INSERT
ELEMENT=Sections.Current.Footers.
Current. Body}<br>
            {## /REP}

{## ELSE}
        </p>
        <div align="left">
            <table border="0" cellpadding="2" width="600" bgcolor="#8080FF">
                <tr>
                    <td><font color="#FFFFFF" size="5">No
Footers</font></td>
                </tr>
            </table>
        </div>
        <p>

{## /IF}

</p>
<p>
{## /IF}

</p>
<p>
{## /REPEAT}

</p>
</body>
</html>

```



# OFFICE 2007 の考慮事項

この付録では、Office 2007 ファイルの変換に関連したいくつかの考慮事項について説明します。

- ❖ [すべての Office アプリケーション](#) (D-1 ページ)
- ❖ [Word 2007](#) (D-2 ページ)
- ❖ [Excel 2007](#) (D-3 ページ)
- ❖ [PowerPoint 2007](#) (D-3 ページ)
- ❖ [サポートされないオブジェクトの例](#) (D-4 ページ)

## すべての OFFICE アプリケーション

---

現在すべての Office 2007 アプリケーションに当てはまる次の変換制限に注意してください。

- ❖ SmartArt (例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照)
- ❖ VB コントロールおよびマクロ (例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照)
- ❖ 表セルの書式設定
- ❖ ワードアート (例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照)
- ❖ ベクター画像 (Office アートおよび VML) の透過性、図のスタイル、効果など (例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照)
- ❖ パスワードで保護されたドキュメント

## WORD 2007

---

現在 Word 2007 ドキュメントに当てはまる次の変換制限に注意してください。

- ❖ 行頭文字
- ❖ 色調のサポート
- ❖ 表のスタイル（例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照）
  - 異なる列および行の定義（奇数 / 偶数など）
  - 異なるヘッダー行および列の定義
- ❖ リスト・レベルのオーバーライド
- ❖ 代替テキスト
- ❖ OLE オブジェクト
- ❖ 数式（例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照）
- ❖ テーマの効果（Office アート）
- ❖ 行番号
- ❖ 透かし
- ❖ ページの色（ビューアでのサポートなし）
- ❖ 脚注および文末脚注の参照番号
- ❖ リビジョン削除属性（テキストはサポート）
- ❖ コントロール（レガシー・コントロールには最後に編集したテキストのみを出力）
- ❖ カスタム XML（構造、スキーマ、拡張パック）、cfChunk/altChunks のサポートなし

## EXCEL 2007

---

現在 Excel 2007 スプレッドシートに当てはまる次の変換制限に注意してください。

- ❖ 条件付き書式設定（セルの強調表示ルール、上位 / 下位ルール、データ バー、カラー スケール、アイコン セット、カスタム・ルール。例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照。）
- ❖ 表としての書式設定（セル内のデータは出力されるが、書式は保持されない）
- ❖ ヘッダーおよびフッター（異なる偶数 / 奇数ページのヘッダーのサポートなし）
- ❖ 保護されたワークブック

## POWERPOINT 2007

---

現在 PowerPoint 2007 プレゼンテーションに当てはまる次の変換制限に注意してください。

- ❖ 表の書式設定（[Excel](#) に類似）
- ❖ 現時点ではアクションのサポートなし
- ❖ オブジェクト（VML として表される。現時点ではサポートなし）
- ❖ ムービー / サウンドのサポートなし
- ❖ 複雑な階調度のサポートなし（例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照）
- ❖ 現時点ではアニメーションのサポートなし
- ❖ テキストには無地の塗りつぶしのみサポート
- ❖ 左から右のテキスト方向のみサポート（双方向に関係なし）
- ❖ 一部の形の陰影および塗りつぶしのサポートなし（例は、D-4 ページの「[サポートされないオブジェクトの例](#)」を参照）
- ❖ 線 / ベクター・オブジェクトの透過性のサポートなし

## サポートされないオブジェクトの例

---

この項では、現時点で変換できない Office 2007 オブジェクトの例をいくつか示します。

図 D-1 SmartArt

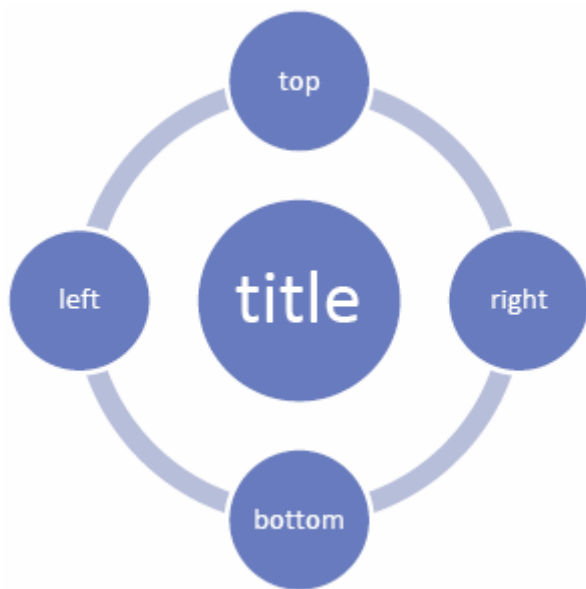


図 D-2 表のスタイル




図 D-3 図のスタイル / 効果



図 D-4 ワードアート



図 D-5 数式

Equations and symbols:

\_\_\_\_\_

$\Sigma$ losers = Cubs

図 D-6 コントロール

Date picker: 9/22/2006 (this date is in a date picker control)

図 D-7 条件付き書式設定、色スケールおよびアイコン・セットのあるデータ・バー

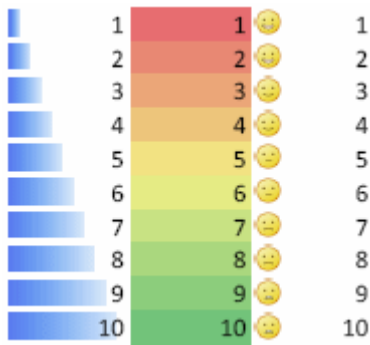


図 D-8 PowerPoint での 3D 効果



図 D-9 複雑な階調度

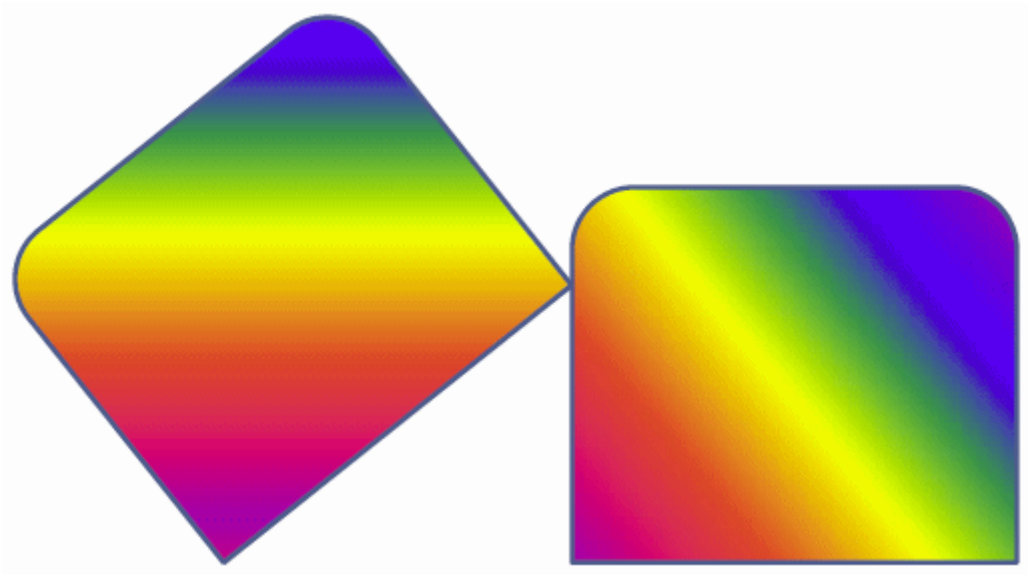
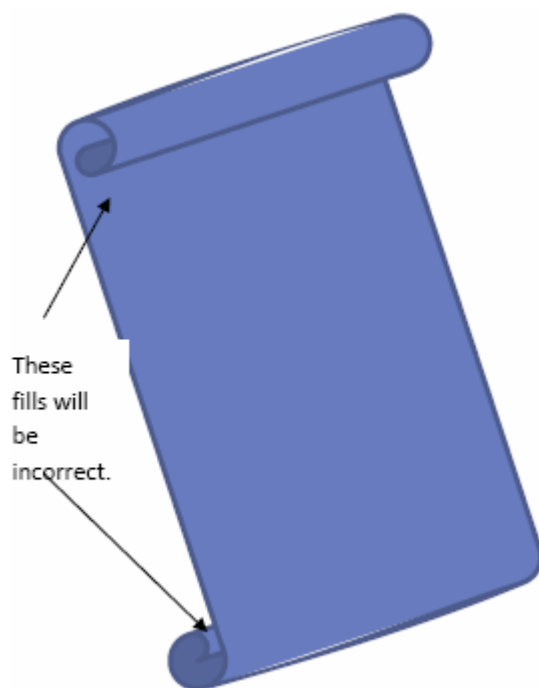


図 D-10 様々な塗りつぶしのある複雑な形 (1)



図 D-11 様々な塗りつぶしのある複雑な形 (2)





# E

## サード・パーティ・ライセンス

### 概要

---

この付録には、この製品に付属するすべてのサード・パーティ製品のサード・パーティ・ライセンスの説明が含まれます。

- ❖ [Apache Software License](#) (E-1 ページ)
- ❖ [W3C® Software Notice and License](#) (E-2 ページ)
- ❖ [Zlib License](#) (E-4 ページ)
- ❖ 一般的な [BSD ライセンス](#) (E-4 ページ)
- ❖ 一般的な [MIT ライセンス](#) (E-5 ページ)
- ❖ [Unicode ライセンス](#) (E-6 ページ)
- ❖ [その他の帰属](#) (E-7 ページ)

### APACHE SOFTWARE LICENSE

---

```
* Copyright 1999-2004 The Apache Software Foundation.  
* Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");  
* you may not use this file except in compliance with the License.  
* You may obtain a copy of the License at  
* http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0  
*
```

- \* Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
- \* distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
- \* WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
- \* See the License for the specific language governing permissions and
- \* limitations under the License.

## W3C® SOFTWARE NOTICE AND LICENSE

---

- \* Copyright © 1994-2000 World Wide Web Consortium,
- \* (Massachusetts Institute of Technology, Institut National de
- \* Recherche en Informatique et en Automatique, Keio University).
- \* All Rights Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>
- \*
- \* This W3C work (including software, documents, or other related items) is
- \* being provided by the copyright holders under the following license.By
- \* obtaining, using and/or copying this work, you (the licensee) agree that
- \* you have read, understood, and will comply with the following terms and
- \* conditions:
- \*
- \* Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its
- \* documentation, with or without modification, for any purpose and without
- \* fee or royalty is hereby granted, provided that you include the following
- \* on ALL copies of the software and documentation or portions thereof,
- \* including modifications, that you make:
- \*
- \* 1. The full text of this NOTICE in a location viewable to users of the
- \* redistributed or derivative work.
- \*
- \* 2. Any pre-existing intellectual property disclaimers, notices, or terms
- \* and conditions.If none exist, a short notice of the following form
- \* (hypertext is preferred, text is permitted) should be used within the
- \* body of any redistributed or derivative code: "Copyright ©
- \* [\$date-of-software] World Wide Web Consortium, (Massachusetts

\* Institute of Technology, Institut National de Recherche en  
\* Informatique et en Automatique, Keio University).All Rights  
\* Reserved. <http://www.w3.org/Consortium/Legal/>"  
\*  
\* 3. Notice of any changes or modifications to the W3C files, including the  
\* date changes were made.(We recommend you provide URIs to the location  
\* from which the code is derived.)  
\*  
\* THIS SOFTWARE AND DOCUMENTATION IS PROVIDED "AS IS," AND COPYRIGHT HOLDERS  
\* MAKE NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT  
\* NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR  
\* PURPOSE OR THAT THE USE OF THE SOFTWARE OR DOCUMENTATION WILL NOT INFRINGE  
\* ANY THIRD PARTY PATENTS, COPYRIGHTS, TRADEMARKS OR OTHER RIGHTS.  
\*  
\* COPYRIGHT HOLDERS WILL NOT BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, SPECIAL OR  
\* CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF ANY USE OF THE SOFTWARE OR  
\* DOCUMENTATION.  
\*  
\* The name and trademarks of copyright holders may NOT be used in advertising  
\* or publicity pertaining to the software without specific, written prior  
\* permission.Title to copyright in this software and any associated  
\* documentation will at all times remain with copyright holders.  
\*

## ZLIB LICENSE

---

\* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library  
version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied  
warranty. In no event will the authors be held liable for any damages  
arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,  
including commercial applications, and to alter it and redistribute it  
freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not  
claim that you wrote the original software. If you use this software  
in a product, an acknowledgment in the product documentation would be  
appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be  
misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org

Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

## 一般的な BSD ライセンス

---

Copyright (c) 1998, Regents of the University of California

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are  
permitted provided that the following conditions are met:

"Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of  
conditions and the following disclaimer.



"Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

"Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

## 一般的な MIT ライセンス

---

Copyright (c) 1998, Regents of the Massachusetts Institute of Technology

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

## UNICODE ライセンス

---

### UNICODE, INC. LICENSE AGREEMENT - DATA FILES AND SOFTWARE

Unicode Data Files include all data files under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>. Unicode Software includes any source code published in the Unicode Standard or under the directories <http://www.unicode.org/Public/>, <http://www.unicode.org/reports/>, and <http://www.unicode.org/cldr/data/>.

NOTICE TO USER: Carefully read the following legal agreement. BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING UNICODE INC.'S DATA FILES ("DATA FILES"), AND/OR SOFTWARE ("SOFTWARE"), YOU UNEQUIVOCALLY ACCEPT, AND AGREE TO BE BOUND BY, ALL OF THE TERMS AND CONDITIONS OF THIS AGREEMENT. IF YOU DO NOT AGREE, DO NOT DOWNLOAD, INSTALL, COPY, DISTRIBUTE OR USE THE DATA FILES OR SOFTWARE.

### COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright © 1991-2006 Unicode, Inc. All rights reserved. Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that (a) the above copyright notice(s) and this permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, (b) both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in associated documentation, and (c) there is clear notice in each modified Data File or in the Software as well as in the documentation associated with the Data File(s) or Software that the data or software has been modified.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

Unicode and the Unicode logo are trademarks of Unicode, Inc., and may be registered in some jurisdictions. All other trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners

## その他の帰属

---

Adobe, Acrobat, and the Acrobat Logo are registered trademarks of Adobe Systems Incorporated.

FAST Instream is a trademark of Fast Search and Transfer ASA.

HP-UX is a registered trademark of Hewlett-Packard Company.

IBM, Informix, and DB2 are registered trademarks of IBM Corporation.

Jaws PDF Library is a registered trademark of Global Graphics Software Ltd.

Kofax is a registered trademark, and Ascent and Ascent Capture are trademarks of Kofax Image Products.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds.

Mac is a registered trademark, and Safari is a trademark of Apple Computer, Inc.

Microsoft, Windows, and Internet Explorer are registered trademarks of Microsoft Corporation.

MrSID is property of LizardTech, Inc. It is protected by U.S. Patent No. 5,710,835. Foreign Patents Pending.

Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation.

Portions Copyright © 1994-1997 LEAD Technologies, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1990-1998 Handmade Software, Inc. All rights reserved.

Portions Copyright © 1988, 1997 Aladdin Enterprises. All rights reserved.

Portions Copyright © 1997 Soft Horizons. All rights reserved.

Portions Copyright © 1995-1999 LizardTech, Inc. All rights reserved.

Red Hat is a registered trademark of Red Hat, Inc.

Sun is a registered trademark, and Sun ONE, Solaris, iPlanet and Java are trademarks of Sun Microsystems, Inc.

Sybase is a registered trademark of Sybase, Inc.

UNIX is a registered trademark of The Open Group.

Verity is a registered trademark of Autonomy Corporation plc

サード・パーティ・ライセンス

# 索引

## 記号

<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(BODY) -->, 6-3  
<!-- TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(HEAD) -->, 6-3  
<!--TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(TOP)-->, 6-3  
%%TRANSIT-BODYATTRIBUTES%%, 6-3  
{## ANCHOR}, 7-34  
{## COMMENT}, 7-37  
{## COPY}, 7-44  
{## ELSE}, 7-27  
{## ELSEIF}, 7-27  
{## FOOTER}, 7-19  
{## HEADER}, 7-19  
{## IF}, 7-27  
{## IGNORE}, 7-36  
{## INCLUDE}, 7-37  
{## INSERT}, 7-20  
{## LINK}, 7-15, 7-30  
{## LOOP}, 7-29  
{## OPTION}, 7-37  
{## REPEAT}, 7-15  
{## UNIT}, 7-19

## A

Academy (GUI テンプレート), 5-6  
Acclaim CSS (GUI テンプレート), 5-6  
Account (GUI テンプレート), 5-7  
Adagio CSS (GUI テンプレート), 5-7  
Administration (GUI テンプレート), 5-8  
Analysis (GUI テンプレート), 5-8  
ANCHOR マクロ, 7-34  
Archive CSS (GUI テンプレート), 5-9

## B

Basic (スクリプト・テンプレート), 7-49

Blank (GUI テンプレート), 5-9  
Business (GUI テンプレート), 5-10

## C

Cascading Style Sheet (CSS), 10-7  
Ceremonial (GUI テンプレート), 5-10  
「Check In Existing Template」リンク, 1-13  
COMMENT マクロ, 7-37  
「Complete Check In」リンク, 9-7  
「Configuration Settings」リンク, 1-13  
Content Server  
    Dynamic Converter インタフェース, 1-11  
    Web ページ上のメタデータ, 8-6  
    ワイヤレス GUI テンプレートのコンテンツ・タイ  
        プ, 5-19  
COPY マクロ, 7-44  
Count および CountB0, 7-25  
Courtesy (GUI テンプレート), 5-11  
「Create New Template」リンク, 1-13, 5-16  
CSS, 「Cascading Style Sheet」を参照  
Current、Next および Previous, 7-15

## D

dcLoadDocInfo(), 8-6  
dcURL(), 10-4  
dcURL() 関数, 10-4  
default\_layout.txt (サンプル・レイアウト), 6-4  
DHTML, 10-10  
Dynamic Converter  
    インタフェース, 1-11  
    基本概念, 1-3  
    キャッシュ, 1-7  
    構成, 2-1  
    スタイルのオーバーライド, 10-9  
    変換プロセス, 1-4

「Dynamic Converter Admin」 ページ, 1-13  
「Dynamic Converter Admin」 リンク, 1-12  
「Dynamic Converter Configuration」 ページ, 2-1  
Dynamic Converter の Admin リンク, 1-12  
Dynamic Converter のインタフェース, 1-11  
Dynamic Converter の管理ページ, 1-13  
Dynamic Converter の構成ページ, 2-1  
Dynamic Converter のスタイルのオーバーライド, 10-9  
Dynamic Converter のユーザー・インタフェース, 1-11

## E

「Edit Existing Template」 リンク, 5-17  
「Edit Templates」 ページ, 5-17  
「Edit Templates」 リンク, 1-13  
Elements (スクリプト・テンプレート), 7-50, C-1  
ELSEIF マクロ, 7-27  
ELSE マクロ, 7-27  
Executive (GUI テンプレート), 5-11

## F

FOOTER マクロ, 7-19

## G

GUI テンプレート, 4-2  
Academy, 5-6  
Acclaim CSS, 5-6  
Adagio CSS, 5-7  
Account, 5-7  
Administration, 5-8  
Analysis, 5-8  
Archive CSS, 5-9  
Blank, 5-9  
Business, 5-10  
Ceremonial, 5-10  
Courtesy, 5-11  
Executive, 5-11  
Introduction CSS, 5-12  
Lotus 1-2-3, 5-12  
Lotus Freelance, 5-13  
MS Excel, 5-13  
MS PowerPoint, 5-14  
Purple Frost, 5-14  
Retrofied! CSS, 5-15  
概要, 5-1  
構成設定, 2-6

作成, 5-17  
サンプル, 5-5  
新規の GUI テンプレート・フォーム, 5-16  
スクリプト・テンプレートからの移行, 5-20  
スタイル, 5-4  
相対 URL, 10-5  
テンプレート・エディタ, 5-2  
テンプレートの編集ページ, 5-17  
パターン, 5-4  
ファイル拡張子, 4-2  
編集, 5-2, 5-18  
メタデータの表示, 8-6  
要素, 5-3  
リンク, 5-4  
ワイヤレス, 5-15, 5-19

GUI テンプレート内の要素, 5-3  
GUI テンプレートの形式, 5-16  
GUI テンプレートの編集, 5-2, 5-18  
GUI テンプレート用のエディタ, 5-2

## H

hchst ファイル, 4-3  
HEADER マクロ, 7-19  
「HTML Rendition」 リンク, 9-5  
HTML (テンプレート形式), 5-16  
HTML, 適格, 10-10  
HTML スニペット, 6-3, 6-5, 8-1, 8-2  
Web ページへの統合, 8-3  
概要, 8-1  
参照, 8-4  
生成, 8-3  
HTML スニペットの Web ページへの統合, 8-3  
HTML スニペットの参照, 8-4  
HTML スニペットの生成, 8-3  
HTML フォーム, 1-9  
「(HTML)」 リンク, 9-6

## I

Idoc Script, 6-9  
dcLoadDocInfo(), 8-6  
dcURL(), 10-4  
incDynamicConversion(), 8-4  
incInlineDynamicConversion(), 8-5  
IF マクロ, 7-27  
IGNORE マクロ, 7-36  
incDynamicConversionByRule Idoc, 3-6  
incInlineDynamicConversion(), 8-5

INCLUDE マクロ, 7-37  
 INSERT マクロ, 7-20  
 Introduction CSS (GUI テンプレート), 5-12

## L

LINK マクロ, 7-15, 7-30  
 LOOP マクロ, 7-29  
 Lotus 1-2-3 (GUI テンプレート), 5-12  
 Lotus Freelance (GUI テンプレート), 5-13

## M

MIME サポート, B-12  
 MIME タイプ, 3-4  
     ワイヤレス GUI テンプレート, 5-19  
 MS Excel (GUI テンプレート), 5-13  
 MS PowerPoint (GUI テンプレート), 5-14

## O

Office 2007 変換の考慮事項, D-1  
 OPTION マクロ, 7-37

## P

PDF ファイル, 10-2  
 Plain (スクリプト・テンプレート), 7-50  
 PowerPoint, 7-17, 7-33  
     スライドショー・テンプレートの構成, 2-12  
 Pragma.Charset, 7-11, 7-46  
 Pragma.CSSFile, 7-11, 7-46, 10-9  
 Pragma.EmbeddedCSS, 7-12, 7-47  
 Pragma.JsFile, 7-13, 7-47  
 Pragma.SourceFileName, 7-11, 7-48  
 Property.Author, 7-5  
 Property.Comments, 7-6  
 Property.Keywords, 7-5  
 Property.Others, 7-6  
 Property.Others.x.Body, 7-6  
 Property.Others.x.Name, 7-6  
 Property.Subject, 7-5  
 Property.Title, 7-5  
 Purple Frost (GUI テンプレート), 5-14

## R

REPEAT マクロ, 7-15

Retrofied! CSS (GUI テンプレート), 5-15

## S

SCCOPT\_EX\_FONTFLAGS, 7-42  
 SCCOPT\_EX\_GRIDADVANCE, 7-43  
 SCCOPT\_EX\_GRIDCOLS, 7-43  
 SCCOPT\_EX\_GRIDROWS, 7-43  
 SCCOPT\_EX\_GRIDWRAP, 7-44  
 SCCOPT\_GIF\_INTERLACED, 7-39  
 SCCOPT\_GRAPHIC\_HEIGHTLIMIT, 7-42  
 SCCOPT\_GRAPHIC\_OUTPUTDPI, 7-41  
 SCCOPT\_GRAPHIC\_SIZELIMIT, 7-41  
 SCCOPT\_GRAPHIC\_SIZEMETHOD, 7-40  
 SCCOPT\_GRAPHIC\_TYPE, 7-39  
 SCCOPT\_GRAPHIC\_WIDTHLIMIT, 7-41  
 SCCOPT\_JPEG\_QUALITY, 7-39  
 Sections.x.Annotations, 7-9  
 Sections.x.Annotations.x.Body, 7-10  
 Sections.x.Annotations.x.Content, 7-10  
 Sections.x.Annotations.x.Reference, 7-10  
 Sections.x.Body, 7-7  
 Sections.x.Body.Contents, 7-7  
 Sections.x.Body.Contents.Headings, 7-7  
 Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Annotations...,  
     7-8  
 Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Body..., 7-8  
 Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Endnotes..., 7-8  
 Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Footnotes..., 7-8  
 Sections.x.Body.Contents.Preface, 7-7  
 Sections.x.Body.Title, 7-7  
 Sections.x.BodyOrImage, 7-8  
 Sections.x.Endnotes.x.Body, 7-9  
 Sections.x.Endnotes.x.Content, 7-9  
 Sections.x.Endnotes.x.Reference, 7-9  
 Sections.x.Footers, 7-10  
 Sections.x.Footers.x.Body, 7-10  
 Sections.x.Footnotes, 7-9  
 Sections.x.Footnotes.x.Body, 7-9  
 Sections.x.Footnotes.x.Content, 7-9  
 Sections.x.Footnotes.x.Reference, 7-9  
 Sections.x.Grids, 7-8  
 Sections.x.Grids.x.Body, 7-8  
 Sections.x.Headers, 7-10  
 Sections.x.Headers.x.Body, 7-10  
 Sections.x.Image, 7-8  
 Sections.x.Slidenotes, 7-10  
 Sections.x.Slidenotes.x.Body, 7-10  
 Sections.x.Title, 7-9

Sections.x.Type, 7-9  
Sections 要素, 7-6  
Sheets 要素, 7-6  
SimpleToc (スクリプト・テンプレート), 7-52  
Slides 要素, 7-6  
snippet\_layout.txt (サンプル・レイアウト), 6-5  
SRC イメージ・タグ, 10-4

## T

「Template Selection Rules」 ページ, 3-2  
「Template Selection Rules」 リンク, 1-13  
Textout (スクリプト・テンプレート), 7-58  
TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(BODY), 6-3  
TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(HEAD), 6-3  
TRANSIT - CUSTOMLAYOUT(TOP), 6-3  
TRANSIT-BODYATTRIBUTES, 6-3  
ttp ファイル, 4-2  
txt ファイル, 4-2

## U

UNIT マクロ, 7-19  
UNIX  
    PDF ファイルの変換, 10-2  
    TrueType フォント, 2-6  
    X-Windows, 2-7  
    X サーバー, 10-3  
    埋込み画像, 10-3  
    構成設定, 2-5  
    ベクター画像, 10-3  
    ラスター化構成設定, 2-7  
UNIX での表示情報, 2-6  
UNIX でのフォント, 2-6  
URL, 相対, 10-5  
URL のリライト, 10-4

## V

Value および ValueB0, 7-25  
「View Info」 リンク, 9-6

## W

Web 上の場所, 9-2  
Web で表示可能なファイル・リンク, 9-2  
Web ページ上でのメタデータの表示, 8-6  
WML (テンプレート形式), 5-16

## X

X-Windows とラスター化, 2-7  
XLS ファイル, 1-10  
XML  
    GUI テンプレート, 5-1  
    変換, 1-10  
XML 準拠のテンプレート, 8-3  
X サーバー, 10-3

## あ

圧縮形式, B-11  
アプリケーション・フィルタ, A-1

## い

位置フレーム, 10-10  
イメージ  
    埋込み, 10-3  
イメージのサイズ, 10-7  
イメージのサイズ設定, 10-7  
インライン動的変換, 8-5

## う

埋込み画像, 1-11, 10-3

## か

開発者, 1-3  
箇条書きリスト, 7-62  
画像  
    埋込み, 1-11, 10-3  
    パラグラフのレンダリング, 1-11  
画像形式, B-8  
画像としてのパラグラフのレンダリング, 1-11  
画像の形式, 7-62  
画像ファイルの形式, 7-62  
画像フィルタ, A-9

## き

キャッシュ, 1-7  
最適化, 2-9  
タイムスタンプ, 1-7  
ブラウザ, 10-6



強制変換, 1-6

変換

強制, 2-9, 3-6

## く

グリッド, 7-69

## け

検索結果ページ, 9-5

## こ

構成

GUI テンプレート変換の設定, 2-6

UNIX の設定, 2-5

一般の変換設定, 2-2

スクリプト・テンプレート変換の設定, 2-8

スライドショー・テンプレート, 2-12

変換およびキャッシュの最適化, 2-9

ワイヤレス・テンプレート・タイプ, 2-14

構成設定

GUI テンプレート変換, 2-6

UNIX, 2-5

一般設定, 2-2

キャッシュの最適化, 2-9

再索引付け中の再評価, 2-9

最大ファイル・サイズ, 2-4

スクリプト・テンプレート変換, 2-8

タイムアウト, 2-4, 10-2

デフォルト・テンプレート, 2-3, 2-10

デフォルト・レイアウト, 2-3, 2-10, 6-8

表示情報, 2-6

フォント・パス, 2-6

変換形式, 2-4, 2-10

変換の最適化, 2-9

メタデータ更新後の再変換, 2-9

ルール基準, 2-4

レンディション, 2-5

構造, ドキュメントの分割, 7-63

構造によるドキュメントの分割, 7-63

コンテンツ・サイズ, ドキュメントの分割, 7-66

コンテンツ・サイズによるドキュメントの分割, 7-66

コンテンツ情報, 9-1

コンテンツ情報の表示, 9-1

コンテンツ情報ページ, 9-1, 9-6

## さ

再索引付け

ルールの再評価, 2-9

最大ファイル・サイズ, 2-4

再変換

データベース・メソッドの更新確認, 1-8

メタデータの更新, 1-8, 2-9

索引, 7-14, 7-65, 7-69

索引変数キーワード, 7-14

削除

テンプレート選択ルール, 3-7

変換のファイル形式, 2-11

ワイヤレス・テンプレート・タイプ, 2-14

作成

GUI テンプレート, 5-17

レイアウト・テンプレート, 6-7

サブスクリプション通知, 9-6

サンプル

GUI テンプレート, 5-5

スクリプト・テンプレート, 7-48, C-1

レイアウト・テンプレート, 6-4

## し

事前変換, 1-5, 2-9

出力ファイル (複数), 1-3

新規の GUI テンプレート・フォーム, 5-16

## す

スクリプト・テンプレート, 4-3

Basic, 7-49

Elements, 7-50, C-1

GUI テンプレートへの移行, 5-20

Plain, 7-50

SimpleToc, 7-52

Textout, 7-58

概要, 7-2

箇条書きリスト, 7-62

画像ファイルの形式, 7-62

構造化ブレイクとのリンク, 7-30

構造によるドキュメントの分割, 7-63

コメント, 7-36, 7-37

コンテンツ・サイズによるドキュメントの分割,  
7-66

コンテンツ・サイズ・ブレイクとのリンク, 7-34

索引, 7-14, 7-65, 7-69

サンプル, 7-48, C-1

- 条件, 7-27
- 書式設定オプション, 7-61
- スライドショー, 7-54
- 相対 URL, 10-5
- 単位, 7-19
- 番号付きリスト, 7-62
- 反復可能要素, 7-5
- ファイル拡張子, 4-3
- 変換構成, 2-8
- マクロ, 7-17, 7-18
- 要素, 7-3, 7-5
- 要素ツリー, 7-3
- 要素の挿入, 7-20
- リーフ要素, 7-5
- ループ, 7-29
- スクリプト・テンプレートでの要素の挿入, 7-20
- スクリプト・テンプレート内のオプション
  - SCCOPT\_EX\_FONTFLAGS, 7-42
  - SCCOPT\_EX\_GRIDADVANCE, 7-43
  - SCCOPT\_EX\_GRIDCOLS, 7-43
  - SCCOPT\_EX\_GRIDROWS, 7-43
  - SCCOPT\_EX\_GRIDWRAP, 7-44
  - SCCOPT\_GIF\_INTERLACED, 7-39
  - SCCOPT\_GRAPHIC\_HEIGHTLIMIT, 7-42
  - SCCOPT\_GRAPHIC\_OUTPUTDPI, 7-41
  - SCCOPT\_GRAPHIC\_SIZELIMIT, 7-41
  - SCCOPT\_GRAPHIC\_SIZEMETHOD, 7-40
  - SCCOPT\_GRAPHIC\_TYPE, 7-39
  - SCCOPT\_GRAPHIC\_WIDTHLIMIT, 7-41
  - SCCOPT\_JPEG\_QUALITY, 7-39
- スクリプト・テンプレート内の構造化ブレイクとのリンク, 7-30
- スクリプト・テンプレート内のコメント, 7-36, 7-37
- スクリプト・テンプレート内のコンテンツ・サイズ・ブレイクとのリンク, 7-34
- スクリプト・テンプレート内の条件, 7-27
- スクリプト・テンプレート内の単位, 7-19
- スクリプト・テンプレート内の要素, 7-3, 7-5
  - Pragma.Charset, 7-11
  - Pragma.CSSFile, 7-11
  - Pragma.EmbeddedCSS, 7-12
  - Pragma.JsFile, 7-13
  - Pragma.SourceFileName, 7-11
  - Property.Author, 7-5
  - Property.Comments, 7-6
  - Property.Keywords, 7-5
  - Property.Others, 7-6
  - Property.Others.x.Body, 7-6
  - Property.Others.x.Name, 7-6
  - Property.Subject, 7-5
  - Property.Title, 7-5
- Sections, 7-6
  - Sections.x.Annotations, 7-9
  - Sections.x.Annotations.x.Body, 7-10
  - Sections.x.Annotations.x.Content, 7-10
  - Sections.x.Annotations.x.Reference, 7-10
  - Sections.x.Body, 7-7
  - Sections.x.Body.Contents, 7-7
  - Sections.x.Body.Contents.Headings, 7-7
  - Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Annotations, 7-8
  - Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Body, 7-8
  - Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Endnotes, 7-8
  - Sections.x.Body.Contents.Headings.x.Footnotes, 7-8
  - Sections.x.Body.Contents.Preface, 7-7
  - Sections.x.Body.Title, 7-7
  - Sections.x.BodyOrImage, 7-8
  - Sections.x.Endnotes.x.Body, 7-9
  - Sections.x.Endnotes.x.Content, 7-9
  - Sections.x.Endnotes.x.Reference, 7-9
  - Sections.x.Footers, 7-10
  - Sections.x.Footers.x.Body, 7-10
  - Sections.x.Footnotes, 7-9
  - Sections.x.Footnotes.x.Body, 7-9
  - Sections.x.Footnotes.x.Content, 7-9
  - Sections.x.Footnotes.x.Reference, 7-9
  - Sections.x.Grids, 7-8
  - Sections.x.Grids.x.Body, 7-8
  - Sections.x.Headers, 7-10
  - Sections.x.Headers.x.Body, 7-10
  - Sections.x.Image, 7-8
  - Sections.x.Slidenotes, 7-10
  - Sections.x.Slidenotes.x.Body, 7-10
  - Sections.x.Title, 7-9
  - Sections.x.Type, 7-9
- Sheets, 7-6
- Slides, 7-6
- 「リーフ要素」および「反副可能要素」も参照
- スクリプト・テンプレート内のループ, 7-29
- スクリプト・テンプレートの GUI テンプレートへの更新, 5-20
- スクリプト・テンプレートの書式設定オプション, 7-61
- スタイル (GUI テンプレート), 5-4
- スタイル・オーバーライド, 10-9
- スタイルの名前, 10-8

スタイル名, 10-8  
 スニペット, 6-3, 6-5, 8-1, 8-2  
   Web ページへの統合, 8-3  
   概要, 8-1  
   参照, 8-4  
   生成, 8-3  
 スプレッドシート, 7-69  
 スプレッドシート形式, B-6  
 スプレッドシート内のナビゲーション, 7-69  
 スライドショー・テンプレート, 2-12, 7-54

## せ

設定, 「構成設定」を参照

## そ

相対 URL, 10-5  
 ソース・ファイル, 1-3

## た

タイムアウト, 2-4, 10-2  
 タイムスタンプ  
   確認頻度, 1-8  
   キャッシュ, 1-7  
 タイムスタンプの確認頻度, 1-8

## ち

チェックイン  
   事前プレビュー, 9-7  
 チェックイン前のドキュメントのプレビュー, 9-7

## つ

追加  
   新規 GUI テンプレート, 5-17  
   新規レイアウト・テンプレート, 6-7  
   テンプレート選択ルール, 3-3, 3-7  
   変換のファイル形式, 2-11  
 通知, 9-6

## て

定義, 3-1  
   テンプレート, 3-1

データベース形式, B-5  
 データベース内のナビゲーション, 7-69  
 データベース・ファイル, 7-69  
 適格な HTML, 10-10  
 デスクトップ・パブリッシング形式, B-5  
 デフォルト  
   GUI テンプレート, 5-9  
   テンプレート, 2-3, 2-10  
   レイアウト, 2-3, 2-10, 6-8  
 電子メール形式, B-11  
 電子メール通知, 9-6  
 テンプレート, 1-3  
   GUI テンプレート, 4-2, 5-1  
   GUI の編集, 5-2, 5-18  
   XML 準拠, 8-3  
   概要, 4-2  
   作成のヒント, 10-11  
   サンプル (GUI), 5-5  
   サンプル (スクリプト), 7-48, C-1  
   サンプル (レイアウト), 6-4  
   新規 GUI の作成, 5-17  
   新規レイアウトの作成, 6-7  
   スクリプト・テンプレート, 4-3, 7-2  
   スライドショー, 2-12  
   選択, 4-3  
   選択ルール, 3-5  
   相対 URL, 10-5  
   チェックイン, 4-5  
   定義, 3-1  
   デフォルト・テンプレート, 2-3, 2-10  
   方針, 4-3  
   ルールとの関連付け, 3-9, 6-7  
   レイアウト・テンプレート, 4-2  
   ワイヤレス GUI, 5-15, 5-19  
   「GUI テンプレート」も参照  
   「スクリプト・テンプレート」も参照  
   「レイアウト」参照  
 テンプレート・エディタ, 5-2  
 テンプレート形式, 5-16  
 テンプレート作成のヒント, 10-11  
 テンプレート選択ルール, 2-4  
   概要, 3-1  
   関連付けられたテンプレート, 3-5  
   関連付けられたレイアウト, 3-6  
   基準, 3-4  
   再索引付け中の再評価, 2-9  
   削除, 3-7  
   追加, 3-3, 3-7  
   テンプレートとの関連付け, 3-9, 6-7

- 並替え, 3-8
- ファイル拡張子, 3-6
- メタデータ基準, 3-8
- ユーザー・リクエストからの除外, 3-6
- テンプレート選択ルールの基準, 3-4, 3-8
- テンプレート選択ルールの並替え, 3-8
- テンプレート・タイプ, 4-2
  - GUI テンプレート, 4-2, 5-1
  - スクリプト・テンプレート, 4-3, 7-2
  - レイアウト・テンプレート, 4-2
  - ワイヤレス, 2-14
- テンプレート・チェックイン・フォーム, 4-4
- テンプレートの選択, 4-3
- テンプレートのタイプ, 4-2
- テンプレートのチェックイン, 4-5
- テンプレートのルールとの関連付け, 3-9, 6-7
- テンプレート用のチェックイン・フォーム, 4-4
- テンプレート・ルール, 1-3

## と

- ドキュメント内リンク, 2-7
- ドキュメント内リンクのサービス呼出し, 2-7

## に

- 入力ファイル形式
  - Office 2007, D-1
  - 圧縮形式, B-11
  - 画像形式, B-8
  - スプレッドシート形式, B-6
  - その他の形式, B-13
  - データベース形式, B-5
  - デスクトップ・パブリッシング形式, B-5
  - 電子メール形式, B-11
  - プレゼンテーション形式, B-7
  - ワード・プロセッシング形式, B-1

## ね

- ネイティブ・ファイル・リンク, 9-2

## は

- ハイパーリンク
  - dcUrl() タグ, 10-4
  - ドキュメント内でのサービス呼出し, 2-7
- パターン (GUI テンプレート), 5-4

- パラグラフ, 画像としてのレンダリング, 1-11
- 番号付きリスト, 7-62
- 反復可能要素, 7-5

## ふ

- ファイル拡張子
  - GUI テンプレート, 4-2
  - スクリプト・テンプレート, 4-3
  - レイアウト・テンプレート, 4-2
- ファイル形式, 7-62
  - Office 2007, D-1
  - 圧縮形式, B-11
  - 画像形式, B-8
  - 削除, 変換用, 2-11
  - スプレッドシート形式, B-6
  - その他の形式, B-13
  - 追加, 変換用, 2-11
  - データベース形式, B-5
  - デスクトップ・パブリッシング形式, B-5
  - 電子メール形式, B-11
  - テンプレート選択ルールの基準, 3-4
  - プレゼンテーション形式, B-7
  - ワード・プロセッシング形式, B-1
- ファイル形式の削除, 2-11
- ファイル形式の追加, 2-11
- ファイルのサイズ, 最大, 2-4
- フィルタ
  - アプリケーション, A-1
  - 画像, A-9
- フォーム, 変換, 1-9
- フォントへのパス, 2-6
- ブラウザのキャッシュ, 10-6
- プラグマ
  - Pragma.Charset, 7-11, 7-46
  - Pragma.CSSFile, 7-11, 7-46, 10-9
  - Pragma.EmbeddedCSS, 7-12, 7-47
  - Pragma.JsFile, 7-13, 7-47
  - Pragma.SourceFileName, 7-11, 7-48
- フラグメントのみの変換, 1-6, 3-6
- フレーム, 位置, 10-10
- プレゼンテーション, 7-17, 7-33
- プレゼンテーション形式, B-7
- プレゼンテーション内のナビゲーション, 7-17, 7-33
- プロセス, 1-4

## へ

- ベクター画像, 10-3

変換, 2-11

- HTML フォーム, 1-9
- UNIX での PDF ファイル, 10-2
- XML, 1-10
- インライン, 8-5
- 画像としてのパラグラフ, 1-11
- 強制, 1-6
- 事前, 1-5, 2-9
- スクリプト・テンプレートから GUI テンプレートへ, 5-20
- スクリプト・テンプレート設定, 2-8
- タイムアウト, 2-4, 10-2
- ドキュメントのプレビュー, 9-7
- ファイル拡張子, 3-6
- フラグメントのみ, 1-6, 3-6
- 変換済ファイルの表示, 9-5, 9-6
- メタデータの変更, 1-8, 2-9
- レンディション, 2-5

変換形式, 2-4, 2-10

- 削除, 2-11
- 追加, 2-11

変換済ファイルの拡張子, 3-6

変換済ファイルの表示

- 検索結果ページ, 9-5
- コンテンツ情報ページ, 9-6

変換済ファイルのファイル拡張子, 3-6

変換の形式, 2-4, 2-10

変換のファイル形式, 2-10

変換のレンディション, 2-5

変換フィルタ

- アプリケーション, A-1
- 画像, A-9

変換プロセス, 1-4

## ほ

ポータルスタイルの Web サイト, 8-2

ポータルとしての Web サイト, 8-2

## ま

マクロ, 7-17, 7-18

- {## ANCHOR}, 7-34
- {## COMMENT}, 7-37
- {## COPY}, 7-44
- {## ELSE}, 7-27
- {## ELSEIF}, 7-27
- {## FOOTER}, 7-19
- {## HEADER}, 7-19

- {## IF}, 7-27
- {## IGNORE}, 7-36
- {## INCLUDE}, 7-37
- {## INSERT}, 7-20
- {## LINK}, 7-15, 7-30
- {## LOOP}, 7-29
- {## OPTION}, 7-37
- {## REPEAT}, 7-15
- {## UNIT}, 7-19

マルチバイト文字, 10-2

## め

メタデータ, 9-1

- Web ページ上での表示, 8-6
- 変更後の変換, 1-8, 2-9
- マルチバイト文字, 10-2
- ルールの基準, 3-4, 3-8

メタデータに対する変更, 1-8, 2-9

メタデータの更新を確認するデータベース・メソッド, 1-8

## ゆ

ユーザー・インタフェース

- 「Admin」ページ, 1-13
- Admin リンク, 1-12
- 「Dynamic Converter Configuration」ページ, 2-1
- 「Edit Templates」ページ, 5-17
- 「Template Selection Rules」ページ, 3-2
- 新規の GUI テンプレート・フォーム, 5-16
- テンプレート・チェックイン・フォーム, 4-4

ユーザー・エージェント, 3-5

ユーザー・リクエストからのルールの除外, 3-6

## よ

要素ツリー, 7-3

## ら

ラスター化, 2-7

ラスター画像, 10-3

リンク (GUI テンプレート), 5-4

## り

リーフ要素, 7-5

リビジョン履歴, 9-2

リンク

Check In Existing Template, 1-13

Complete Check In, 9-7

Configuration Settings, 1-13

Create New Template, 1-13, 5-16

Edit Existing Template, 5-17

Edit Templates, 1-13

(HTML), 9-6

HTML Rendition, 9-5

Template Selection Rules, 1-13

View Info, 9-6

Web で表示可能なファイル, 9-2

ネイティブ・ファイル, 9-2

リンク, ドキュメント内でのサービス呼出し, 2-7

## る

ルール, 3-1

ルール, 「テンプレート選択ルール」を参照

ルール基準, 2-4

## れ

レイアウト・テンプレート, 4-2

default\_layout.txt, 6-4

snippet\_layout.txt, 6-5

概要, 6-1

コンテンツ, 6-3, 8-4

作成, 6-7

サンプル, 6-4

スクリプト、イメージおよび css の組み込み, 6-9

選択ルール, 3-6

相対 URL, 10-5

デフォルト, 2-3, 6-8

トークン, 6-3

ファイル拡張子, 4-2

本体コンテンツのみ, 8-4

メタデータの表示, 8-6

ルールとの関連付け, 6-7

レイアウト・テンプレート内の CSS, 6-9

レイアウト・テンプレート内のイメージ, 6-9

レイアウト・テンプレート内のスクリプト, 6-9

レイアウト・テンプレート内のトークン, 6-3

レイアウト・テンプレート内の本体コンテンツ, 8-4

レイアウト・テンプレートのコンテンツ, 6-3

## わ

ワード・プロセッシング形式, B-1

ワークフロー通知, 9-6

ワイヤレス GUI テンプレート, 5-15, 5-19

MIME タイプ, 5-19

ワイヤレス GUI テンプレートのコンテンツ・タイプ,  
5-19

ワイヤレス・テンプレート・タイプ, 2-14